

厚生労働科学研究費補助金
がん対策推進総合研究事業
(H26-がん政策-一般-006)

HTLV-1キャリアとATL患者の実態把握、リスク評価、
相談支援体制整備とATL/HTLV-1感染症克服研究事業の
適正な運用に資する研究

平成26年度～28年度総合研究報告書

研究代表者 内丸 薫

平成29(2017)年3月

**HTLV-1 キャリアと ATL 患者の実態把握、リスク評価、相談支援体制整備と
ATL/HTLV-1 感染症克服研究事業の適正な運用に資する研究**

目次

・ 総合研究報告 (1)

HTLV-1 キャリア相談支援体制整備に資するニーズの収集と

ATL患者支援体制の整備に関する研究 (内丸グループ)

. 1

(グループ代表者)

東京大学 内丸 薫

(研究分担者)

聖マリアンナ医科大学	山野嘉久	長崎大学	岩永正子
富山大学	齋藤 滋	長崎大学	森内浩幸
日本赤十字社中央血液研究所		佐賀大学	末岡榮三朗
	佐竹正博	帝京大学	渡邊清高

(研究協力者)

日本看護協会	福井トシ子	香川大学	柘植 薫
J R大阪鉄道病院	高 起良		

・ 総合研究報告 (2)

ATLの全国実態調査(塚崎グループ) 79

(グループ代表者)

国立がん研究センター東病院 塚崎邦弘

(研究分担者)

聖マリアンナ医科大学	渡邊俊樹	国立がん研究センター中央病院	飛内賢正
今村病院分院	宇都宮與	長崎大学	岩永正子
浜松医科大学	戸倉新樹	鹿児島大学	石塚賢治
長崎大学	今泉芳孝	長崎大学	岩永正子
宮崎大学	下田和哉	岩手医科大学	伊藤薫樹
熊本大学	野坂生郷	琉球大学	友寄毅昭, 仲地佐和子, 森島聡子

・ 総合研究報告 (3)

ATL/HTLV-1感染症克服研究事業の評価およびATL発症リスク

評価の適切な運用指針の確立を目指す研究 (渡邊グループ)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **103**

(グループ代表者)

聖マリアンナ医科大学 渡邊 俊樹

(研究分担者)

東京大学	内丸 薫	聖マリアンナ医科大学	山野嘉久
長崎大学	岩永正子	富山大学	齋藤 滋
長崎大学	森内浩幸		
国立がん研究センター中央病院		国立がん研究センター東病院	
	飛内賢正		塚崎邦弘
鹿児島大学	石塚賢治	大阪大学	金倉 譲
宮崎大学	岡山昭彦	岡山大学	岩月啓氏
徳島大学	足立昭夫		

・ 研究成果の刊行に関する一覧・・・・・・・・・・・・ **171**

・ 研究成果の刊行物・別刷・・・・・・・・・・・・ **177**

研究組織

研究代表者：

内丸 薫 東京大学大学院 新領域創成科学研究科

研究分担者：

内丸グループ

内丸 薫 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 (グループ代表)

山野嘉久 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター

末岡榮三郎 佐賀大学医学部 臨床検査医学講座

齋藤 滋 富山大学大学院 医学薬学研究部 産科婦人科学

森内浩幸 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 小児科学

渡邊清高 帝京大学医学部 内科学講座 腫瘍内科

佐竹正博 日本赤十字社中央血液研究所

塚崎グループ

塚崎邦弘 国立がん研究センター東病院 血液腫瘍科 (グループ代表)

岩永正子 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療科学

飛内賢正 国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科

宇都宮與 公益財団法人慈愛会今村病院分院 血液内科

石塚賢治 鹿児島大学医学部附属病院 血液・膠原病内科

野坂生郷 熊本大学医学部附属病院 血液内科

今泉芳孝 長崎大学病院 血液内科

戸倉新樹 浜松医科大学医学部 皮膚科学

下田和哉 宮崎大学医学部 消化器血液学

友寄毅昭・仲地佐和子・森島聡子

琉球大学大学院 医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科

渡邊グループ

渡邊俊樹 聖マリアンナ医科大学大学院 先端医療開発学分野(グループ代表)

岡山昭彦 宮崎大学医学部 内科学

岩月啓氏 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 皮膚科学分野

足立昭夫 徳島大学大学院 ウイルス学

金倉 譲 大阪大学大学院 医学系研究科 血液・腫瘍内科学

研究協力者：

福井トシ子 日本看護協会

柘植 薫 香川大学医学部附属病院 腫瘍センター

高 起良 J R 大阪鉄道病院 血液内科

．総合研究報告書（１）

HTLV-1キャリア相談支援体制整備に資するニーズの収集と

ATL患者支援体制の整備に関する研究（内丸グループ）

**HTLV-1キャリア相談支援体制整備に資するニーズの収集と
ATL患者支援体制の整備に関する研究**

グループ代表者 内丸 薫 東京大学医大大学院新領域創成科学研究科
病態医療科学分野 教授

平成**26**年度～平成**28**年度 総合研究報告書

研究要旨：

HTLV-1キャリアの現状とニーズを大規模に調査することを念頭に置いた**HTLV-1**キャリア自主登録システム「キャリねっと」の運用を行い、登録データの解析とともに献血判明キャリアの動向、妊婦検診判明キャリアに対する相談体制、保健所の現状、都道府県の支援体制の構築などについての検討を行った。その結果以下の問題点が明らかになり、これらの課題への対策を提言する。

HTLV-1キャリアには相談ニーズが確実に存在し、相談体制の確立が必要である。

相談対応のほとんどが血液内科病院で行われており、血液内科を念頭に置いた相談体制の構築が必要である。

血液内科病院の拠点化が必要であり、それらの対応施設と産婦人科、小児科、赤十字血液センター、保健所などをつなぐ組織的な連携体制の構築が必要である。

妊婦に対する授乳指導について、地域差、施設差が存在すると推定され、改めて授乳指導の現状について調査する必要がある。

分娩後の授乳指導体制が不十分であり、特に短期授乳、凍結母乳を選択した母親に対する支援体制が必要である。

キャリアマザーの児の抗体検査の体制について検討が必要である。

総合対策における保健所の位置づけを再検討する必要がある。**1**次相談窓口としての機能とそこから拠点病院へつなぐというのが一つの役割として想定される。

研究分担者

山野嘉久 聖マリアンナ医大 教授
岩永正子 長崎大学 教授
末岡榮三朗 佐賀大学 教授
齊藤 滋 富山大学 教授
森内浩幸 長崎大学 教授
渡邊清高 帝京大学 准教授
佐竹正博 日本赤十字社中央血液センター
所長

研究協力者

福井トシ子 日本看護協会 常任理事
柘植 薫 香川大学
高 起良 JR大阪鉄道病院 部長

A. 研究目的

先行する厚労科研(がん臨床 一般 **020**)
「**HTLV-1**キャリア・**ATL**患者に対する相談機能の強化と正しい知識の普及の促進」

(旧内丸班)における研究の結果、大都市圏を中心に**HTLV-1**感染症、関連疾患に関する情報ニーズは高いものの、**HTLV-1**総合対策でキャリア、**ATL**患者・家族に対する相談窓口として想定されている保健所、がん拠点病院相談支援センターの利用状況は低いこと、キャリア対応を行っている病院においても**40%**の施設では検査などのみで相談対応は不可としており、必ずしも外来受診者のニーズに対応できていない可能性があることなど、**HTLV-1**キャリア・**ATL**患者家族相談対応の問題点が指摘されたが、これらの研究は相談体制側を対象とした調査研究であり、キャリア・患者の実態に関するデータに乏しく、適切な相談体制の構築にはキャリア・患者の大規模データを収集することが不可欠である。

そこで本研究では1)**HTLV-1**キャリアの実態把握・ニーズの解明 2)妊婦検診、献血の各視点からの検討 3)保健所、がん拠点病院相談支援センターによる相談支援の実態把握・課題の解明の観点から分担研究者により分担して検討し、全体で検討を重ねることで現状の問題点を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1)**HTLV-1**キャリア自主登録ウェブサイト「キャリねっと」登録データの解析による

HTLV-1キャリア対策の現状と問題点

(内丸、山野、岩永)

本分担グループでは主に**HTLV-1**キャリアを対象に現状の調査を行うための自主登録ウェブサイトを構築し、その登録情報から**HTLV-1**キャリアの現状に関する大規模データを得ることとした。キャリアによる自主

登録システムとするため、登録を促進するためにシステムに必要な点について検討した。また、**HTLV-1**キャリアの現状の評価のためにどのような情報が必要かを検討し、登録時入力項目について検討した。これらをもとにウェブ制作会社に業務委託し、内容を検討しながらシステムの構築を行った。

2)母子感染予防に関連したキャリねっと集計データ地域4ブロック別分析(齋藤、福井)

2016年10月13日に「キャリねっと」ウェブサイトより抽出した**261**名からの回答を解析した。なお、研修者は除いている。得られたデータを集積し地域として関東、近畿、九州・沖縄、その他の地域の**4**つの地域別に分析した。

3)**HTLV-1**母子感染対策協議会の設置ならびに活動状況に関する調査(齋藤、福井、森内、内丸、山野)

全国の都道府県に「**HTLV-1**母子感染対策協議会の設置及び活動状況に関する調査」を郵送法により行ない、回収後のデータを解析した。調査票を2014年11月17日に発送し、回収期限を2014年12月12日とし、2015年1月23日まで調査担当事務局に到着した調査票を基に解析した。同様の調査は2011年にも施行しているので、2011年と2014年の調査内容を比較検討し、改善点も評価した。

4)**HTLV-1**キャリア女性から生まれた子どものフォローアップの問題点(森内)

長崎県においては**HTLV-1**キャリアと確定した妊婦は全例登録され**1987**年開始当初は、キャリア女性から生まれた子どもは全例半年毎に小児科を受診してもらい、**3**歳まで

フォローしていた。**2008**年に事業内容は改訂され、子どものフォローは**3**歳になってからの抗体検査のみとなっている。**2012**年以降は板橋班研究がスタートし、全国画一的にキャリア女性から生まれてきた子どもをフォローし、**3**歳になって母子感染の有無を確認するまで定期的に受診してもらう体制が整えられた。長崎県においては長崎大学病院を基幹病院としてキャリア女性とその子どもの研究登録を行った。板橋班研究前後における子どものフォローアップの現状についてまとめた。

5) 献血より判明した**HTLV-1**キャリアの実態と今後の対策(佐竹)

献血により**HTLV-1**抗体陽性の通知を受け取り、日本赤十字社血液センターに問い合わせをしてきた献血者に対して、センターの説明・対応によって何が得られたか、何が不足していたかを設問としたアンケート用紙を全国の血液センターから送付した。献血者からの回答は無記名とし、日本赤十字社中央血液研究所で回収、研究分担者が結果を集計した。期間は**2014**年**9**月から**2015**年**8**月までの**1**年間とした。さらに九州ブロック血液センター管轄地域(九州地方一円、**2015**年**3**月より)と東京都血液センター管轄地域(都内の献血で判明した献血者、**2015**年**6**月より)の二地域において、血液センターに問い合わせをしなかった献血者を対象に同様のアンケート用紙を送付して回答を得た。ここでは、感染の通知を受け取ってから、相談や受診などに関してどのような行動をとったか、また取ろうとしているかについての質問を重視し、感染の通知の約**1**か月後にアンケート用紙を送付した。

6) 保健所におけるキャリア相談の現状と問題点(末岡)

保健所を一次相談窓口と想定した時の問題点を明らかにするとともに、地域の実情に応じた相談体制を提案し、実現に向けて体制を整えた。

7) 肝炎対策、希少がん対策における相談支援の現状および拠点機能を踏まえた**HTLV-1**、**ATL**に関する相談支援体制のあり方に関する検討(渡邊)

肝炎および希少がんにおける相談支援体制について分析を行い、拠点施設におけるキャリアおよび患者向けの情報提供・相談支援体制のあり方について検討を行った。

(倫理面への配慮)

ウェブ登録内容に個人情報収集されないが、施設研究倫理支援室への相談により、**HTLV-1**キャリアの不特定大規模調査にあたるため「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき倫理審査委員会の審査を受け平成**27**年**10**月**19**日に承認された(承認番号**27-36-1019**)。また業務委託したアクセライト株式会社には最大限のセキュリティ対策を求めるとともに、同社との間で秘密保持契約を締結した。

各課題に付いてはすべて個人情報を特定できる内容を含んでいないため倫理面での管理を有する問題は生じないと判断される。

C. 研究結果

1) **HTLV-1**キャリア自主登録ウェブサイト「キャリねっと」登録データの解析による**HTLV-1**キャリア対策の現状と問題点

(内丸、山野、岩永)

HTLV-1キャリア自主登録ウェブサイト「キャリアねっと」を構築し、平成**27**年**10**月**21**日より運用を開始した。トップページのイメージを図**1**に示す。トップページには研究代表者からのキャリアねっとの紹介と登録の呼びかけとともに、登録画面を含む各種機能へのウィンドウが設けられている。登録希望者は登録時に基本調査の回答を入力の上登録するが、入力には任意であり、回答したくない項目には入力しなくても登録が可能となっている。キャリアねっとでは**2**週間に**1**回程度、内丸班班員および**HTLV-1**関連領域の研究者、医療関係者によるリレーコラムが連載されており、**HTLV-1**キャリアに対する非常に有用な情報提供ツールの役割を果たしている（資料**1**）。また、アクセス登録者数はリアルタイムで集計されてトップページに表示され、登録者のデータは、特定の登録者のデータの組み合わせが特定されないよう週**1**回の集計としたうえで、登録会員は会員ページにログインして自由に集計データを閲覧することが可能となっている。会員ページにはその他問い合わせフォームがある。また、アンケート欄が準備されている。キャリアねっと登録者は情報収集のための貴重なキャリア集団であり、基本調査以外の項目について調査が必要になった時に、登録者を対象に追加調査の協力を求められるようになっている。

登録者はいつでも退会可能であり、会員ページから退会希望欄をクリックするだけで登録情報も含めて未梢される。平成**29**年**2**月**10**日現在で**303**名が登録しており順調に登録数を伸ばしている。平成**28**年**12**月までの登録者数の推移を図**2**に示す。また、アクセス解析の結果の一部を図**3**、**4**に示すが、やや

新規登録数が減少傾向であるものの、ページビューには大きな変化は見られず、登録者にはコラムなどを通じて一定の情報提供できていると推定される。

平成**28**年**12**月**16**日までに登録された**286**名を対象としたキャリアねっとの集計データを資料**2**に示す。登録者の居住地は関東地方在住者が全体の**41.6%**を占め、次いで近畿地方の**26.2%**、九州・沖縄地方の**23.7%**で、その他の地方は登録数は少なかった。キャリアと判明した経緯については妊婦健診と回答したのが**34.7%**、献血によると回答したのが**29.8%**、その他が**35.4%**と妊婦健診、献血、その他がそれぞれ約**1/3**ずつであった。

授乳法の指導内容については複数回答可とした設問に対して、短期授乳、凍結母乳の説明を受けたと回答したケースに比べて断乳を勧められたケースが**1.5**~**1.8**倍であり、断乳のみしか説明されていないキャリア妊婦がかなりいることが示唆された。それを反映して、授乳法を自分で決めるように言われた妊婦とほぼ同数の妊婦が断乳を勧められていた。授乳法を選択するに際し、説明は十分であったとする回答が**62.4%**であったが、地域差があり、九州・沖縄の**81.5%**に比して、その他の地域は**37.5**-**61.9%**に留まっていたため、全国的な指導をより進めていく事が必要と考えられる。また授乳法を選択についても地域別で若干の差があった。断乳が**50.0%**、短期母乳が**24.0%**、凍結母乳が**7.8%**であったが、厚生労働研究や日本産科婦人科学会で推奨していない短期母乳+凍結母乳が**5.6%**に行なわれていた。分娩後の授乳指導については、約半数の**49.5%**が指導を受け、残りの約半数は指導を受けなかったと回答しているが、指導を受けられなかった妊

婦のうちの76.2%が分娩後の授乳指導が必要と回答していた。授乳指導を受けた妊婦のほとんどは産科医院で指導を受けたと回答した。子どもの抗体検査については実施した母親は20.4%でしかなかったが、実施していない母親のうち54.4%が検査を受けさせようと考えていて、検査を検討しているケースが30.9%と、合わせて85.3%は子供の検査を検討していることが判明した。

授乳法以外に自身がキャリアであることについての相談について実に**92.9%**が指導を受けたいと思ったと回答しており、そのうち**52.9%**が実際に相談に行っていた。相談に行った場所は圧倒的に血液内科病院であり、保健所に相談に行ったケースは血液内科病院の**10分の1**以下であった。また、がん拠点病院相談支援センターを訪れるケースも極めてまれであった。

献血で判明したキャリアを対象とした調査では、日赤の相談窓口で連絡をしたのは**29.4%**と比較的少なかったが、窓口で連絡したキャリアのうち**58.3%**がさらに別の施設を紹介されており、その紹介先はやはりほとんどが血液内科病院であった。日赤の相談窓口で連絡をしなかったグループのうち**48.3%**は、他の施設に相談に行きたいと思い、実際そのうち**86.2%**が別施設に相談に行っており、日赤の相談窓口で連絡をしなかったキャリアにも相談ニーズはあり、それらは直接血液内科に流れ込んでいると考えられた。

その他の理由でキャリアと判明した例は、約半数が、血縁者あるいは配偶者が**HTLV-1**感染者であることが判明したことがきっかけになり、他の理由で医療機関を受診した際に偶然判明したケースは**40.0%**であった。判明した施設での対応に**75%**は満足していた

が、**25.0%**のケースは満足しておらず、これらのケースの相談先はほぼ血液内科病院であった。

これらの調査結果には一部項目で地域差が明確であり、以下の事項において地域差が認められた。**HTLV-1**感染判明後の医療機関通院割合(九州・沖縄地区で低い) 感染判明契機割合(九州・沖縄地区で妊婦検診の割合が高く、関東地方では献血の割合が高い)

妊婦の**HTLV-1**感染判明した妊娠週期(九州・沖縄地区でより早期) 分娩後に選択した授乳法(九州・沖縄地区で短期授乳が多い)

妊婦健診・献血以外でキャリアと判明した契機(九州・沖縄地区で他疾患で受診時が多い) また、わずかに有意差は出なかったが、上記の通り授乳指導に対する満足度にも地域差が見られた。岩永により分析された集計データの地域に関するデータを資料3に示す。

2)母子感染予防に関連したキャリアねっと集計データ地域4ブロック別分析(齋藤、福井)

母子感染予防に関連した項目のキャリアねっとデータの地域差について検討したところ、授乳法を選択するに際し、指導が十分であったとする回答は全国では62.4%であったが、九州・沖縄の81.5%に比して、その他の地域は37.5-61.9%に留まっていたため、全国的な指導をより進めていく事が必要と考えられる。授乳指導の均てん化のためにも改めて授乳指導の実態について調査することが必要と考えられた。

3)HTLV-1母子感染対策協議会の設置ならびに活動状況に関する調査(齋藤、福井、森内、内丸、山野)

2014年11月から2015年1月の調査実施の時期でまだ全国で10自治体で母子感染対協議会が未設置であった。その後いくつかの自治体では設置がなされたが、東京都などいまだに未設置の自治体がある。保健所の相談対応の実態を把握している自治体は28で、その相談件数を表1に示すが、保健所における相談は低調であることが改めてうかがわれた。また、協議会の構成員について表2に示すが、血液内科医が含まれているのは半数以下の16自治体であった。また、HTLV-1対策において必要な優先順位が高いものとして挙げられたものを表3に示すが、自治体と連携できる施設が最も重要視されており、拠点整備の必要性を強くうかがわせた。

4) HTLV-1キャリア女性から生まれた子どものフォローアップの問題点(森内)

長崎県におけるキャリアマザーの数、およびキャリアマザーからの児の抗体検査件数を表4、5に示す。年間100名程度の抗体陽性妊婦の診断数に対し、児の検査は年間20例程度と約5分の1にとどまると推定され、3歳になった時点でキャリアマザーの意識の中で児の抗体検査に関する意識が薄いことが推察された。

5) 献血より判明したHTLV-1キャリアの実態と今後の対策(佐竹)

平成26年9月から平成27年8月までの1年間における抗体陽性通知者からの日赤相談窓口への連絡状況について表6に示す。抗体陽性通知者のうち日赤の相談窓口へ連絡を取ったのは7.0%であった。九州地区の方が比率は低く4.8%であったのに対し、それ

以外の地域では8.9%であった。日赤の相談窓口へ連絡したキャリアに対するアンケート調査結果を資料4に、連絡をしてこなかった抗体陽性キャリアを対象としたアンケート調査の結果を資料5に示す。献血で判明したキャリアの半数は、説明をほぼ理解し、一応平常な生活を送っていると思われたが、一方「どうしたらいいかわからない」と「医療機関の受診が怖い」を合わせた29%の人々に適切な助言を与えることが重要であると考えられた。日赤に問い合わせたキャリア、医療機関を受診したキャリア、これから受診を検討しているキャリアを合わせると61%に達し、献血で判明したキャリアにも日赤の相談窓口、および医療機関における相談体制に対するニーズが存在すると考えられた。

6) 保健所におけるキャリア相談の現状と問題点(末岡)

キャリア対応には医学的な問題のみならず、社会医学的な側面など多彩な知識と経験を必要とすること、また、キャリアの側面の問題としてもHTLV-1に関する認知度の低さ、HIV感染との混同、相談窓口としての保健所を意識していないなどから、キャリア相談窓口を全国的に保健所に統一することについては問題が多いと考えられた。キャリアの比較的多い佐賀県においても、陽性者のカウンセリング実績がなく、特に妊婦に対する対応に関しては、キャリアである妊婦に対するカウンセリング、母乳育児に関する相談対応については、保健所のみでの対応は困難であり、医療機関との連携が必須であると考えられるが、連携のための実行組織として位置づけられる母子感

染対策協議会が活動していないこと、2次相談窓口としての医療機関側の対応も、地域や自治体ごとに異なるなど、医療機関との連携体制の構築が重要と考えられた。

7) 肝炎対策、希少がん対策における相談支援の現状および拠点機能を踏まえた **HTLV-1**、**ATL**に関する相談支援体制のあり方に関する検討(渡邊)

肝疾患診療連携拠点病院の機能と同様な機能を **HTLV-1** 領域の拠点病院に求めるとすれば以下のような機能が考えられた。

1) 診療の中核機能

血液内科・小児科・産婦人科・神経内科など、**HTLV-1** 関連疾患を総合的に診療できる医療機関として当該地域のさまざま機関と連携して診療を行う。

2) 教育・普及活動機能

HTLV-1、**ATL** 診療に関わる人材育成、地域住民、キャリア・患者への普及啓発

3) 受検・受診推進機能

検診からキャリア外来へのフロー、受検者数の増加

4) キャリア・患者向けフォローアップ支援機能

継続的なフォローアップと支援

D. 考察

本研究班では、先行研究班で課題となったキャリアの側の実態がわからないという問題を解決するために**HTLV-1**キャリア自主登録ウェブサイト「キャリねっと」の構築を

行い、その集計データをもとに本邦の**HTLV-1**キャリアおよびキャリア対策の現状について非常に貴重なデータを得ることができた。まず第一に重要な点は、これまでの調査で、保健所における相談件数が低調なことから**HTLV-1**キャリアの相談ニーズが低いのではないかという議論がなされていたが、特に妊婦においては授乳方法以外にも自身が**HTLV-1**キャリアであることに対する相談ニーズが極めて高いことが判明した点である。相談はほとんどが血液内科病院に寄せられており、したがって保健所における相談件数だけでは相談ニーズをとらえられないと考えられる。第二のポイントは、実態として血液内科が相談機能を担っていることであり、相談体制の確立のためには血液内科における相談体制を組織的に構築していく必要があるということである。妊婦キャリア対応の立場から研究した斎藤は、相談窓口を地域で作り、産婦人科医や小児科医からの紹介が必要と思われたと報告しており、上記の妊婦キャリアの相談ニーズを満たすためには地域ごとに対応施設を整備し周産期領域施設とつなぐことの重要性を指摘している。これは献血判明キャリアに関しても同様で、分担報告者の佐竹は血液センターからの通知・説明文書で一定の理解と満足は得られているものの、相談支援のニーズはあり、血液センターから直接対応可能施設を紹介すべきであろうと指摘している。この点は現状で必ずしも有効に機能していない保健所をどのように位置づけるかという観点からも重要な課題である。分担研究者の末岡は、総合対策における保健所の位置づけを検討し、1次窓口として保健所を位置付けた場合、その後の受け入れ医療機関の整備(基幹施設の

設置など)、キャリア相談内容に応じた機能的な連携体制の構築が必須だと考えられると報告している。都道府県調査においても、自治体と連携できる施設が最も重要視されており、拠点整備の必要性を強くうかがわせた。

これらの点を考慮すると、有効な相談支援体制のためには血液内科における**HTLV-1**対応拠点の整備が必要である。この際重要な点は、**HTLV-1**関連疾患の希少性に鑑み、実際に対応が可能な施設を組織化していくことであり、そのために**HTLV-1**キャリアコホート研究を続けている **JSPFAD (Joint Study on Prognostic Factors of ATL development)** に参加している全国**54**の施設をもとに拠点化を図るのも一つの方法として考えられてよい。

妊婦キャリア対応に関しては、授乳指導に関してもいくつかの問題点が浮かび上がっている。分担研究者の斎藤は、厚生労働特別班(齋藤班)において、断乳(人工乳)、凍結母乳、短期母乳の**3**つの栄養法につき、すべて説明した後に、キャリア自身で栄養法を選択する事を推奨していることをあげ、キャリアねっとの調査結果からは、現状ではすべてのキャリア妊婦が**3**つの栄養法すべてを説明受けているわけではなく、また自分の意志で栄養法を選択しているのは**54.8%**に留まっていたので、**3**つの栄養法を全て説明し、キャリアの自己決定による授乳法の選択を増やすようにすることが必要であろうと指摘している。また、授乳指導に対する満足度は地域差がまだかなりみられ、授乳法を選択するに際し、指導が十分であったとする回答は全国では**62.4%**であったが、九州・沖縄の**81.5%**に比して、その他の地域は**37.5-**

61.9%に留まっていたため、全国的な指導をより進めていく事が必要と考えられる。授乳指導の均てん化のためにも改めて授乳指導の実態について調査することが必要であろう。また 短期母乳や凍結母乳を選択した際は、分娩後も継続的な乳房管理が必要となるが、約半数しか分娩後の指導を受けていない事が判明した。これらの授乳法を選択したキャリアマザーの支援体制についてもさらに整備を進めていく必要がある。

子どもの抗体検査について、実際に抗体検査を行った母親は**20.4%**しかいなかったが、今後子供の抗体検査を検討している母親が、未検査の母親のうちの**85.3%**と潜在的なニーズは高いと思われる一方で、分担研究者の森内は、長崎県では抗体陽性マザーからの子どもの抗体検査が行われているのはおそらく**20%**程度、板橋班研究に参加している母親でも半数に満たないと推定されることを報告している。小児科から児のフォローアップについて積極的にかかわるべきかという点も含めて、キャリアマザーの児の抗体検査の体制をどのようにすべきかさらに検討の必要があると考えられる。

血液内科による**HTLV-1**相談体制の拠点化を行うことにより**HTLV-1**総合対策における保健所の新たな位置付けが改めて検討されるべきであり、拠点化に際しては肝疾患診療連携拠点病院が、その機能を考えるうえで参考になると考えられる。

E. 結論

3年間の本研究班の研究により、**HTLV-1**感染対策領域における現状の課題として以下の点が明らかになり、今後これらの点への対策を提言する。

HTLV-1キャリアには相談ニーズが確実に存在し、相談体制の確立が必要である。

相談対応のほとんどが血液内科病院で行われており、血液内科を念頭に置いた相談体制の構築が必要である。

血液内科病院の拠点化が必要であり、それらの対応施設と産婦人科、小児科、赤十字血液センター、保健所などをつなぐ組織的な連携体制の構築が必要である。

妊婦に対する授乳指導について、地域差、施設差が存在すると推定され、改めて授乳指導の現状について調査する必要がある。

分娩後の授乳指導体制が不十分であり、特に短期授乳、凍結母乳を選択した母親に対する支援体制が必要である。

キャリアマザーの児の抗体検査の体制について検討が必要である。

総合対策における保健所の位置づけを再検討する必要がある。1次相談窓口としての機能とそこから拠点病院へつなぐというのが一つの役割として想定される。

F. 健康危険情報

該当せず。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. **Fuji S, Inoue Y, Utsunomiya A, Moriuchi Y, Uchimaru K, Choi I, Otsuka E, Henzan H, Kato K, Tomoyose T, Yamamoto H, Kurosawa S, Matsuoka KI, Yamaguchi T, Fukuda T. Pretransplantation Anti-CCR4 Antibody Mogamulizumab Against Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma Is Associated With Significantly Increased Risks of Severe and Corticosteroid-Refractory Graft-Versus-Host Disease, Nonrelapse Mortality, and Overall Mortality. J Clin Oncol. 2016 Oct 1;34(28):3426-33.**

2. **Sakura Aoki, Sanaz Firouzi, Yosvany López, Tadanori Yamochi, Kazumi Nakano, Kaoru Uchimaru, Atae Utsunomiya, Masako Iwanaga, Toshiki Watanabe. Transition of adult T-cell leukemia/lymphoma clones during clinical progression. Int J Hematol. 2016 Sep;104(3):330-7.**
3. **Nakano K, Uchimaru K, Utsunomiya A, Yamaguchi K, Watanabe T. Dysregulation of c-Myb pathway by aberrant expression of proto-oncogene MYB provides the basis for malignancy in adult T-cell leukemia/lymphoma cells. Clin Cancer Res. 2016 Dec 1;22(23):5915-5928.**
4. **Fujikawa D, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Yamagishi M* (*corresponding author), Watanabe T. Polycomb-dependent epigenetic landscape in adult T-cell leukemia. Blood. 2016 Apr 7;127(14):1790-802. doi: 10.1182/blood-2015-08-662593. Epub 2016 Jan 15.**
5. **Kamoi K, Nagata Y, Mochizuki M, Kobayashi D, Ohno N, Uchimaru K, Tojo A, Ohno-Matsui K. Formation of Segmental Rounded Nodules During Infiltration of Adult T-Cell Leukemia Cells Into the Ocular Mucous Membrane. Cornea. 2016 Jan; 35(1):137-9.**
6. **Kuramitsu M, Okuma K, Yamochi T, Sato T, Sasaki D, Hasegawa H, Umeki K, Kubota R, Sobata R, Matsumoto C, Kaneko N, Naruse I, Yamagishi M, Nakashima M, Momose H, Araki K, Mizukami T, Mizusawa S, Okada Y, Ochiai M, Utsunomiya A, Koh KR, Ogata M, Nosaka K, Uchimaru K, Iwanaga M, Sagara Y, Yamano Y, Satake M, Okayama A, Mochizuki M, Izumo S, Saito S, Itabashi K, Kamihira S, Yamaguchi K, Watanabe T, Hamaguchi I. Standardization of Quantitative PCR for Human T-cell Leukemia Virus Type 1 in Japan: A**

- Collaborative Study. *J Clin Microbiol.* 2015 Nov;53(11): 3485-91.
7. **Ishitsuka K, Yamano Y, Utsunomiya A, Uchimaru K.** [A survey of HTLV-1 carrier clinics in Japan]. *Rinsho Ketsueki.* 2015 Jun;56(6):666-72.doi:10.11406/rinketsu.56.666.
 8. **Kobayashi S, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Nakano K, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K.** Advanced human T-cell leukemia virus type 1 carriers and early-stage indolent adult T-cell leukemia-lymphoma are indistinguishable based on CADM1 positivity in flow cytometry. *Cancer Sci.* 2015 May; 106(5):598-603. doi: 10.1111/cas.12639. Epub 2015 Mar 20.
 9. **Ishigaki T, Zaïke Y, Nojima M, Kobayashi S, Ohno N, Uchimaru K, Tojo A, Nakauchi H, Watanabe N.** Quantification of adult T-cell leukemia/lymphoma cells using simple four-color flow cytometry. *Clin Chem Lab Med.* 2015 Jan 1;53(1):85-93. doi: 10.1515/cclm-2014-0183.
 10. **Kawamata T, Ohno N, Sato K, Kobayashi M, Jo N, Yuji K, Tanosaki R, Yamano Y, Tojo A, Uchimaru K.** A case of post-transplant adult T-cell leukemia/lymphoma presenting myelopathy similar to but distinct from human T-cell leukemia virus type I (HTLV-I)-associated myelopathy. *Springerplus* 2014 Oct 4;3:581.
 11. **Takahashi R, Yamagishi M, Nakano K, Yamochi T, Yamochi T, Fujikawa D, Nakashima M, Tanaka Y, Uchimaru K, Utsunomiya A, Watanabe T.** Epigenetic deregulation of Ellis Van Creveld confers robust Hedgehog signaling in adult T-cell leukemia. *Cancer Sci.* 2014 Sep;105(9):1160-9.
 12. **Kobayashi S, Nakano K, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Oyaizu N, Asanuma S, Yamagishi M, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K.** CADM1 expression and stepwise downregulation of CD7 are closely associated with clonal expansion of HTLV-I-infected cells in adult t-cell leukemia/lymphoma. *Clin Cancer Res.* 2014 Jun 1;20(11):2851-61.
 13. **内丸 薫 ; 特集 : 成人 T 細胞白血病 (ATL)研究の現状 1 HTLV-1 感染症と ATL の研究・診療新時代.血液フロンティア** 26(4):17-20(2016)
 14. **Satake M, Iwanaga M, Sagara Y, Watanabe T, Okuma K, Hamaguchi I.** Incidence of new HTLV-1 infections among adolescents and adults in Japan: a nationwide retrospective cohort analysis of repeat blood donors. *Lancet Infectious Diseases* 16(11):1246-1254, 2016.
 15. **Kondo H, Soda M, Sawada N, Inoue M, Imaizumi Y, Miyazaki Y, Iwanaga M, Tanaka Y, Mizokami M, Tsugane S.** Smoking is a Risk Factor for Development of Adult T-cell Leukemia/Lymphoma in Japanese Human T-cell Leukemia Virus Type-1 Carriers. *Cancer Causes Control.* 27(9):1059-66, 2016.
 16. **Aoki S, Firouzi S, Lopez Y, Yamochi T, Nakano K, Uchimaru K, Utsunomiya A, Iwanaga M, Watanabe T.** Transition of adult T-cell leukemia/lymphoma clones during clinical progression. *Int J Hematol* 104(3):330-7, 2016.
 17. **Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Shimamura T, Yasunaga JI, Totoki Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Nagae G, Ishii R, Muto S, Kotani S, Watatani Y, Takeda J, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Iwanaga M, Ma G, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Ogasawara H, Sato T, Sasai K, Muramoto K, Penova M, Kawaguchi T, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Yoon SS, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Matsuda F, Takeuchi K, Nureki O, Aburatani H, Watanabe T, Shibata T, Matsuoka M, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S:** Integrated molecular analysis of

- adult T cell leukemia /lymphoma. *Nat Genet* 47 (11): 1304-1315, 2015.
18. **Takemoto S, Iwanaga M, Sagara Y, Watanabe T: Plasma soluble CD30 as a possible marker of adult T-cell leukemia in HTLV-1 carriers: a nested case-control study. *Asian Pac J Cancer Prev* 16(18): 8253-8258, 2015.**
 19. **Aoki S, Firouzi S, Yamochi T, Nakan K, Uchimaru K, Utusnomiya A, Iwanaga M, Watanabe T: Transition of ATLL/L cell clones can be observed during the clinical course. *Int J Hematol* Accepted 2015. Nov In-press.**
 20. 井上由紀子, 守田麻衣子, 後藤信代, 相良康子, 入田和男, 矢持忠徳, 渡邊俊樹, 岩永正子, 浜口功, 清川博之. HTLV-1 キャリアが産生するウイルス構造蛋白質に対する抗体と末梢血中のプロウイルス量に関する解析. 日本輸血細胞治療学会誌第 60 巻第 6 号 pp592-599, 2014 年 12 月.
 21. 岩永正子; 特集: 成人 T 細胞白血病 (ATL) 研究の現状 1HTLV-1 感染症の疫学とコホート研究. 血液フロンティア 26(4):17-20(2016).
 22. 岩永正子. 生涯教育シリーズ: HTLV-1 感染症. 長崎市医師会報 592 (6): 30-36, 2016.
 23. **Yamano Y, Coler-Reilly A. HTLV-1 induces a Th1-like state in CD4+ CCR4+ T cells that produces an inflammatory positive feedback loop via astrocytes in HAM/TSP *Journal of Neuroimmunology*, In Press, 2016.**
 24. **Coler-Reilly ALG, Yagishita N, Suzuki H, Sato T, Araya N, Inoue E, Takata A, Yamano Y.**
 25. **Nation-wide epidemiological study of Japanese patients with rare viral myelopathy using novel registration system (HAM-net). *Orphanet J Rare Dis*, 11(1):69, 2016.**
 26. **Yasuma K, Matsuzaki T, Yamano Y, Takashima H, Matsuoka M, Saito M. HTLV-1 subgroups associated with the risk of HAM/TSP are related to viral and host gene expression in peripheral blood mononuclear cells, independent of the transactivation functions of the viral factors. *J Neurovirol.* 22(4):416-30, 2016.**
 27. 新谷奈津美, 佐藤知雄, アリエラ・コラライリー, 八木下尚子, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の分子病態解明による治療薬開発の新展開. *Jpn J Clin Immunol*, 39 (3):207-212, 2016.
 28. 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症の病態に基づいた疾患修飾薬の開発. *Modern Physician*, 36(7):682-687, 2016.
 29. 山野嘉久. HAM に対するヒト化 CCR4 抗体の医師主導治験. 臨床評価, 43(2):418-421, 2016.
 30. 山野嘉久. 痙性対麻痺 (HAM を含む). 今日の治療指針 2016. 山口 徹, 北原光夫 監修. P964-965, 医学書院, 東京, 2016.
 31. **Ishihara M, Araya N, Sato T, Saichi N, Fujii R, Yamano Y, Sugano S, Ueda K. A plasma diagnostic model of human T-cell leukemia virus-1 associated myelopathy. *Ann Clin Transl Neurol*, 2(3):231-240, 2015.**
 32. **Martin F, Inoue E, Cortese ICM, de Almeida Kruschewsky R, Adonis A, Grassi MFR, Galvão-Castro B, Jacobson S, Yamano Y, Taylor GP, Bland M. Timed walk as primary outcome measure of treatment response in clinical trials for HTLV-1-associated myelopathy: a feasibility study. *Pilot and Feasibility Studies* 2015, 1:35, 2015.**
 33. **Yasuma K, Matsuzaki T, Yamano Y, Takashima H, Matsuoka M, Saito M. HTLV-1 subgroups associated with the risk of HAM/TSP are related to viral and host gene expression in peripheral blood mononuclear cells, independent of the transactivation functions of the viral factors. *J Neurovirol.* 2015. [Epub ahead of print]**
 34. **Bangham C, Araujo A, Yamano Y & Taylor G. HTLV-I-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis. *Nature Reviews Disease Primers*, 1, 2015.**
 35. **Yamano Y. How does human T-lymphotropic virus type 1 cause central nervous system disease? The importance of cross-talk between infected T cells and astrocytes. *Clin Exp Neuroimmunol*, 6(4):395-401, 2015.**

36. 山野嘉久. **HTLV-1 関連脊髄症 (HAM)** - 分子病態解明による治療薬開発の新展開. *医学のあゆみ*, **255(5):485-490, 2015.**
37. 山野嘉久. **HAM に対するヒト化 CCR4 抗体の医師主導治験. 臨床評価**, **43(2):418-421, 2016.**
38. 石塚賢治, 山野嘉久, 宇都宮與, 内丸薫. **HTLV-1 キャリア外来の実態調査. 臨床血液**, **56(6):666-672, 2015.**
39. 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 力石辰也, 山野嘉久, 柴垣有吾. **HTLV-1 陽性ドナーからの生体腎移植によりレシピエントに発症する HAM の特徴. 日本透析医学会雑誌**, **48(1):483, 2015.**
40. 山野嘉久, 新谷奈津美, 八木下尚子, 佐藤知雄. **免疫性神経疾患 - 基礎・臨床研究の最新知見 - . 日本臨牀**, **73 (7) : 546-553, 2015.**
41. 山野嘉久. **HTLV-1 関連脊髄症 (HAM)**. *難病事典*, **2-5, 2015.**
42. 山野嘉久. **瘵性対麻痺 (HAM を含む)**. *今日の治療指針 2016*, 山口徹, 北原光夫監修. **P964-965**, 医学書院、東京、**2016.**
43. **Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Yagishita N, Ando H, Kunitomo Y, Takahashi K, Tanaka Y, Shibagaki Y, Nishioka K, Nakajima T, Hasegawa Y, Utsunomiya A, Kimura K, Yamano Y. Anti-CCR4 antibody mogamulizumab targets human T-lymphotropic virus type I-infected CD8+ as well as CD4+ T cells to treat associated myelopathy. J Infect Dis, 211(2):238-48, 2015.**
44. 齋藤 滋: **妊娠・分娩・産褥時の対応 HTLV-1. 周産期医学**, *in press.*
45. 齋藤 滋: **HTLV-1 キャリア. 周産期医学**. **2016;46:1255-1258.**
46. 齋藤 滋: **HTLV-I 「改訂第 2 版 症例から学ぶ周産期診療ワークブック」**日本周産期・新生児学会編, メジカルビュー社, 東京, **P214-216, 2016.**
47. 齋藤 滋. **感染症 Today 「HTLV-1 母子感染予防に関する最近の話題」**. *ラジオ NIKKEI* 出演. **2016.12.7.**
48. 齋藤 滋. **妊産婦診療における HTLV-1 キャリア検出のための診断の進め方とキャリア妊婦支援の必要性. 日産婦医会報**. **2015;67:10-11.**
49. 齋藤 滋. **シンポジウム 7 「HTLV-1 母子感染予防」 HTLV-1 母子感染対策**
- 協議会の役割と運営. *日本周産期・新生児医学会雑誌*. **51 : 79-82, 2015.**
50. 板橋家頭夫, 齋藤 滋. **シンポジウム 7 「HTLV-1 母子感染予防」座長のまとめ. 日本周産期・新生児医学会雑誌**. **51 : 69, 2015.**
51. 齋藤 滋. **母子感染予防に関する最新事情—特に HTLV-1、CMV に関して—**. *ABBOT NEWS*. **2015.7.17.**
52. 齋藤 滋. **HTLV-1 母子感染予防事業の意義. キャリねっとコラム**. **2015.12.3.**
53. **Watanabe T, Sato A, Kobayashi - Watanabe N, Sueoka-Aragane N, Kimura S, Sueoka E. Torin2 Potentiates Anticancer Effects on Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma by Inhibiting Mammalian Target of Rapamycin. Anticancer Res. 2016 Jan;36(1):95-102.**
54. **Katsuya H, Ishitsuka K, Sueoka E (9 番目) et al, Treatment and survival among 1594 patients with ATL diagnosed in the 2000s: a report from the ATL-PI project performed in Japan. Blood. 2015 Dec 10;126(24):2570-7.**
2. 学会発表
1. **Yamagishi M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Tsukasaki K, Araki K, Watanabe T. “Polycomb-Dependent Epigenetic Landscape in Adult T Cell Leukemia (ATL); Providing Proof of Concept for Targeting EZH1/2 to Selectively Eliminate the HTLV-1 Infected Population”. Oral Session:622. Non-Hodgkin Lymphoma: Biology, excluding Therapy: Genomic and Epigenetic Landscapes of Lymphoid Malignancies, Monday, December 7, 2015: 10:45 AM, W311EFGH, Level 3 (Orange County Convention Center), 57th ASH Annual Meeting & Exposition, December 5-8, 2015, Orlando, FL, USA. Abstract 572, Blood 126 (23):572, 2015.**
2. **Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Yasunaga JI, Iwanaga M, Shiraishi Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y,**

- Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Shibata T, Miyano S, Matsuoka M, Shimoda K, Watanabe T, Ogawa S. "Prognostic Relevance of Integrated Genetic Profiling in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma". **Poster Session:622. Non-Hodgkin Lymphoma: Biology, excluding Therapy: Genomic and Epigenetic Landscapes of Lymphoid Malignancies, Monday, December 6, 2015: 6:00PM-8:00PM, Hall A, Level 2 (Orange County Convention Center), 57th ASH Annual Meeting & Exposition, December 5-8, 2015, Orlando, FL, USA. Abstract 2643, Blood 126 (23):2643, 2015.**
3. **Nosaka K, Iwanaga M, Ishizawa K, Yoji Ishida, Uchimaru K, Ishitsuka K, Amano M, Ishida T, Imaizumi Y, Uike N, Utsunomiya A, Ohshima K, Kawai K, Tanaka J, Tokura Y, Tobinai K, Watanabe T, Tsukasaki K. Current Clinico-Epidemiological Characteristics of Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma (ATL) Based on the 11th Nationwide Survey in Japan. 57th ASH Annual Meeting & Exposition, December 5-8, 2015, Orlando, FL, USA, Abstract5034 (Publication only), Blood 126 (23):5034, 2015.**
 4. 相良康子, 守田麻衣子, 井上由紀子, 倉光球, 大隈和, 後藤信代, 平山秀明, 岩永正子, 矢持忠徳, 渡邊俊樹, 浜口功, 迫田岩根, 入田和男, 清川博之. 九州の HTLV-1 水平感染の現状と感染初期の産生抗体. **Oral session 1 感染・疫学. O-3 (2015年8月22日) 第2回日本 HTLV-1 学会学術集会. 2015年8月22日~23日, 2015, 東京大学医科学研究所 1号館講堂, 抄録集 p.25, 2015.**
 5. 野坂生郷, 岩永正子, 石澤賢一, 石田陽治, 内丸薫, 石塚賢治, 石田高司, 今泉芳孝, 伊藤薫樹, 宇都宮與, 戸倉新樹, 飛内賢正, 渡邊俊樹, 塚崎邦弘. 第11次 ATL 全国実態調査報告. 第2回日本 HTLV-1 学会学術集会. **Oral session 7 ATL 臨床 1. O-35 (2015年8月23日) 2015年8月22日~23日, 2015, 東京大学医科学研究所 1号館講堂, 抄録集 p.41, 2015.**
 6. **Yasuko Sagara, Masako Iwanaga, Yasuhiro Sagara, Yukiko Inoue, Maiko Morita, Nobuyo Goto, Toshiki Watanabe, Hiroyuki Kiyokawa. Prediction of MHC class II epitopes in HTLV-1 proteins : In silico screening of vaccine candidates. Poster Day2 (November 23 [mon]), Retroviridae other than lentivirus, P2-G-123. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 2015年11月22日~24日, 福岡国際会議場, 福岡市.**
 7. 相良康子, 井上由紀子, 守田麻衣子, 後藤信代, 矢持忠徳, 渡邊俊樹, 岩永正子, 浜口功, 迫田岩根, 入田和男, 清川博之. HTLV-1 キャリアにおける末梢血中のプロウイルス量と保有する HLA との関連. 日本輸血・細胞治療学会九州支部会第62回総会・第83回例会 (2015年12月22日開催) セッション4 : 副作用・感染症 (第2会場) **10:40~11:10, 沖縄県市町村自治会館, 那覇市.**
 8. 岩永正子, 早田みどり. 長崎県における ATL 罹患率の Age-Period-Cohort 解析:1986~2010年. 第1回日本 HTLV-1 学会学術集会, **8月23日(土) 16:20-17:20, Oral Session4, 疫学, O-25, 会場: 東京大学医科学研究所 講堂, 2014年8月22日(金)~24(日), 抄録集, page38.**
 9. 佐竹正博, 相良康子, 岩永正子, 浜口功. 献血者のデータから明らかになった HTLV-1 水平感染の実態. 第1回日本 HTLV-1 学会学術集会, **8月24(日) 13:00-14:00, Oral Session 8, 感染とキャリア支援, O-51, 会場: 東京大学医科学研究所 講堂, 2014年8月22日(金)~24(日), 抄録集, page51**
 10. 武本 重毅, 相良康子, 岩永正子, 渡邊俊樹. HTLV-1 キャリアの可溶性 CD30 血中濃度と成人 T 細胞白血病発症リスク: 症例対照研究. **Poster Session, P-8, 会場: 東京大学医科学研究所 講堂, 2014年8月22日(金)~24(日)**
 11. **Nosaka K, Iwanaga M, Ishizawa K, Ishida Y, Uchimaru K, Ishitsuka K, Amano M, Ishida T, Imaizumi Y, Uike N, Utsunomiya A, Oshima K, Kawai K, Tanaka J, Tokura Y, Tobinai K, Watanabe T, Tsukasaki K. A nationwide study of patients with adult T-cell leukemia/lymphoma(ATL) in Japan:2010-2011. 第76回日本血液学会学術集会(JSH2014), 大阪国際会議**

- 場, 2014年10月31日(金)~11月2日(日), 発表: 一般口演 OS-2-118, 2014年11月1日, 抄録集, 臨床血液 2014, 55巻9号 Page1344.
12. 相良康子, 井上由紀子, 守田麻衣子, 後藤信代, 岩永正子, 矢持忠徳, 渡邊俊樹, 浜口功, 相良康弘, 清川博之. HTLV-1 PVLとHLA Class I結合 peptideの乖離時間との関連. 第62回日本ウイルス学会学術集会, パシフィコ横浜, 2014年11月.
 13. Iwanaga M, Soda M. Time Trend and Age-Period-Cohort Effects on the Incidence of Patients with Adult T-Cell Leukemia in a Population-Based Study in Japan, 1991-2010. The 56th ASH Annual Meeting and Exposition (December 6-9, 2014) in San Francisco, CA, Poster II. Sunday, December 7, 2014. Blood 2014; 124(21):2616
 14. Yamano Y. HTLV-1 induces a Th1-like state in CD4+CCR4+ T cells that produces an inflammatory positive feedback loop via astrocytes in HAM/TSP. 40Years of Neuroimmunology, 19-20 April 2015, Bethesda, Maryland, USA.
 15. Yamano Y, Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Yagishita N, Kunitomo Y, Takahashi K, Tanaka Y, Akiyama H, Hasegawa Y, Utsunomiya A. Humanized anti-CCR4 antibody KW0761 targets HTLV-1-infected CD4+CCR4+ and CD8+CCR4+ T-cells to treat HAM/TSP. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 16. Araya N, Sato T, Tomaru U, Coler-Reilly A, Yagishita N, Yamauchi J, Hasegawa A, Kannagi M, Akiyama H, Hasegawa Y, Takahashi K, Kunitomo Y, Tanaka Y, Utsunomiya A, Jacobson S, Yamano Y. HTLV-1 Tax induces Th1 master regulator T-bet and thus IFN- γ in CD4+CCR4+ T-cells of virus-associated myelopathy patients. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 17. Coler-Reilly A, Yagishita N, Sato T, Araya N, Ishikawa M, Koike M, Saito Y, Suzuki H, Yamano Y, Takata A. HAM-net national patient registration system reveals details of how Japanese patients with HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis progress over time. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 18. Kimura M, Yamauchi J, Taisho H, Sato T, Yagishita N, Araya N, Sato K, Kikuchi T, Hasegawa Y, Chikaraishi T, Shibagaki Y, Yamano Y. Characteristics of HAM/TSP after kidney transplantation from HTLV-1 positive living donors. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 19. Sato K, Kikuchi T, Kimura M, Komita M, Shimada K, Seki K, Tachibana M, Yagishita N, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Ishikawa M, Koike M, Saito Y, Suzuki H, Takata A, Yamano Y. Patient Satisfaction Survey for HAM-net Registrants. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 20. Kikuchi T, Sawabe A, Negishi Y, Noda A, Hirai Y, Inoue E, Kimura M, Sato K, Araya N, Yagishita N, Sato T, Yamano Y. Evaluation of clinical outcome measures for HAM/TSP. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]
 21. Yamano Y. How does HTLV-1 cause CNS disease? - The importance of cross-talk between infected T-cells and astrocytes. The Inaugural Asia-Pacific School of Neuroimmunology Meeting [APSNI] (第一回アジア太平洋神経免疫学国際シンポジウム), 30 August 2015, Tokyo, Japan . [Sanjo Conference Hall at The University of Tokyo]

22. 山野嘉久, 山内淳司, 大勝秀樹, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 長谷川泰弘, 力石辰也, 柴垣有吾. **HTLV-1** 陽性ドナーからの生体腎移植による **HAM** の発症率と特徴. [**High incidence of HAM after Kidney transplantation from HTLV-1 positive donors.**], 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日 ~ 23 日, 新潟(新潟市中央区)〔朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)〕
23. 佐藤健太郎, 菊池崇之, 木村未祐奈, 込田みどり, 島田奏, 関来未, 橘茉莉花, 八木下尚子, 佐藤知雄, 新谷奈津美, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 鈴木弘子, 高田礼子, 山野嘉久. 患者レジストリへの介入方法と患者満足度の変化. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日 ~ 23 日, 新潟(新潟市中央区)〔朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)〕
24. 木村未祐奈, 佐藤健太郎, 菊池崇之, 八木下尚子, 新谷奈津美, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 佐藤知雄, 鈴木弘子, 木村美也子, 高田礼子, 山野嘉久. **HAM** 患者レジストリ「**HAM** ねっと」を活用した経年的前向き調査. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日 ~ 23 日, 新潟(新潟市中央区)〔朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)〕
25. 沢辺愛加, 根岸由衣, 野田和里, 平井祐士, 井上永介, 新谷奈津美, 八木下尚子, 佐藤知雄, 山野嘉久. 希少難病 **HAM** の臨床的有効性評価指標の検討. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日 ~ 23 日, 新潟(新潟市中央区)〔朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)〕
26. 山内淳司, 柴垣有吾, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 山野嘉久, 力石辰也. **HTLV-1** 陽性ドナーからの生体腎移植によりレシピエントに発症する **HAM** の特徴. 第 60 回日本透析医学会学術集会・総会, 2015 年 6 月 26 日 ~ 28 日, 横浜〔パシフィコ横浜〕
27. 山野嘉久. 希少難病を知る - 再発性多発軟骨炎の病態 -. 第 20 回日本難病看護学会学術集会, 2015 年 7 月 25 日, 東京(大田区)〔大田区産業プラザ〕
28. 倉光球, 大隈和, 矢持忠徳, 山野嘉久, 長谷川寛雄, 上平憲, 岡山昭彦, 久保田龍二, 出雲周二, 成瀬功, 相良康子, 佐竹正博, 渡邊俊樹, 山口一成, 浜口功. **HTLV-1** 核酸検査の標準化および検出感度の検討: 多施設共同研究. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕
29. 石原誠人, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 藤井理沙, 最知直美, 宇都宮與, 山野嘉久, 植田幸嗣. 末梢血 **CD4** 陽性 **T** 細胞を用いた膜プロテオーム解析による **HTLV-1** 関連疾患に対する新規治療標的の探索. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕
30. 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 大勝秀樹, 長谷川泰弘, 力石辰也, 柴垣有吾, 湯沢賢治, 山野嘉久. **HTLV-1** 陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植による **HAM** の特徴. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕
31. 佐藤知雄, 安藤仁, 高橋克典, 國友康夫, **Ariella Coler-Reilly**, 新谷奈津美, 八木下尚子, 山野嘉久. **HTLV-1** 関連脊髄症(**HAM**)における髄液細胞のケモカイン受容体解析. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕
32. 鈴木弘子, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 八木下尚子, 山野嘉久. **HAM** 患者の思いを知る ~ **SEIQoL-DW**(個人の生活の質評価法)を用いた関わりを通して ~. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕. [ポスター]
33. 八木下尚子, 鈴木弘子, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 高田礼子, 山野嘉久. **HAM** 患者レジストリ「**HAM** ねっと」の経年的患者満足度調査. 第 2 回日本 **HTLV-1** 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕. [ポスター]
34. 尋田まや子, 佐々木光穂, 平田誠, 樋野村亜希子, 坂手龍一, 西下直希, 山野嘉久, 吉良潤一, 小原有弘, 松山晃文. 難病バンクにおける **HLA** タイピング導入による難病研究推進. 第 24 回日本組織適合性学会, 2015 年 9 月 10 日 ~ 12 日, 茨城(水戸市)〔ホテル レイクビュー水戸〕
35. 山野嘉久. 希少難病 **HAM** 患者レジストリー「**HAM** ねっと」の臨床研究・治験への応用 ~ 運営事務局の立場から ~. 第 15 回 **CRC** と臨床試験のあり方を考える会議 2015 in KOBE. 2015 年 9 月 12 日, 兵庫(神戸市中央区)〔神戸国際会議場〕
36. 山野嘉久. **HAM** の治療展望. 第 27 回日

- 本神経免疫学会学術集会, 2015年9月15~16日, 岐阜(岐阜市)〔長良川国際会議場〕
37. 山野嘉久. 臓器移植後に伴うHTLV-1関連疾患発症の実態について. 第9回HTLV-1対策推進協議会, 2015年9月30日, 東京(東京都千代田区)〔厚生労働省〕
 38. 山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)に対する抗CCR4抗体療法の開発. 第43回日本臨床免疫学会総会, 2015年10月22日~24日, 兵庫(神戸市中央区)〔神戸国際会議場〕
 39. 山野嘉久. HAMに対する日本発の革新的治療となる抗CCR4抗体の実用化研究. 革新的医療技術創出拠点プロジェクト統合戦略会議, 2015年11月10日, 東京(東京都千代田区)〔日本医療研究開発機構〕
 40. 山野嘉久, 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 大勝秀樹, 長谷川泰弘, 湯沢賢治. HTLV-1陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植によるHAMの特徴. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)〔都市センターホテル〕
 41. 佐藤知雄, 新谷奈津美, 八木下尚子, 山野嘉久. HAMの進行度の特徴と関連バイオマーカーの検討. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)〔都市センターホテル〕
 42. 玉木慶子, 津川潤, 佐藤知雄, 山野嘉久, 坪井義夫. HAMにおける治療効果を予想するバイオマーカーの検討. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)〔都市センターホテル〕
 43. 齋藤 滋: HTLV-1 母子感染の現状と課題. 第46回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会. 2015.11.7, 富山. (招待講演)
 44. 齋藤 滋: HTLV-1 感染予防 Up to date—産婦人科医・小児科医・保健師が協力して行う母子感染予防—. 平成27年度HTLV-1対策医療従事者等研修会. 2015.10.10, 岩手. (招待講演)
 45. 齋藤 滋: 講義「HTLV-1の現状と助産師の役割」. 日本看護協会 研修. 2015.6.25, 神戸.
 46. 末岡榮三朗. HTLV-1 感染の現状 第64回日本医学検査学会 2015,5,16-17
 47. 末岡榮三朗. フローサイトメトリー法によるHTLV-1関連疾患のモニタリングの試み 第62回日本臨床検査医学会学術集会 2015,11,19-22
 48. 末岡榮三朗, 渡邊達郎, 荒金尚子, 木村晋也. ATP競合性mTOR阻害剤Torin2はG1細胞周期停止を介して成人T細胞白血病細胞株の生育を抑制する 第74回日本癌学会学術総会 2015, 10,8-10
 49. 末岡榮三朗, 渡邊達郎, 進藤岳郎, 内丸薫, 木村晋也. Association of CADM1/TSLC-1 positive fraction with clinical parameters in HTLV-1 infected patients. 第78回日本血液学会学術集会 2015,10,16-184
 50. 田野崎隆二, 崔日承, 下坂元継, 宇都宮與, 徳永正人, 中野信行, 福田隆浩, 中前裕久, 竹本茂樹, 楠本茂, 友寄武昭, 末岡榮三朗, 白土基明, 末廣陽子, 山中武春, 岡村純, 鷓池直邦. 成人T細胞白血病リンパ腫に対するフルダラビンとブスルファンを用いた減量前処置法による血縁者間末梢血幹細胞移植: 多施設第相臨床試験の結果 第37回日本造血細胞移植学会総会 2015,3,5-7
 51. 渡邊達郎, 荒金尚子, 進藤岳郎, 木村晋也, 末岡榮三朗. ATP競合性mTOR阻害剤Torin2によるATL細胞株におけるAktのリン酸化抑制と生育阻害 第2回日本HTLV-1学会学術集会 2015,8,22-23.
- H. 知的財産権の出願・登録状況
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
なし

・総合研究報告書（２）

ATLの全国実施調査（塚崎グループ）

厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合 研究事業

平成26年度～平成28年度総括研究報告書

HTLV-1 キャリアとATL患者の実態把握、リスク評価、相談体制整備と

ATL/HTLV-1 感染症克服研究事業の適正な運用に資する研究

- ATL の診療実態の全国調査 -

グループ代表者 塚崎邦弘 国立がん研究センター東病院

分担研究者 渡邊俊樹 聖マリアンナ医科大学

飛内賢正 国立がん研究センター中央病院 宇都宮與 今村病院分院

戸倉新樹 浜松医科大学 岩永正子 長崎大学 石塚賢治 福岡大学

今泉芳孝 長崎大学 下田和哉 宮崎大学 伊藤薫樹 岩手医科大学

野坂生郷 熊本大学 友寄毅昭,仲地佐和子,森島聡子 琉球大学

研究要旨：成人 T 細胞白血病・リンパ腫 (**Adult-T-cell Leukemia-Lymphoma; ATL**) はレトロウイルスの **HTLV-1** が病因の単一疾患であり、西南日本沿岸部出身者に多く、難治性でかつ多様な臨床病態をとる。**ATL** の予後予測と治療法の選択には、その自然史によって作成された臨床病型分類が有用とされるが、その予後は他の造血器腫瘍よりも不良であり、**HTLV-1** 感染者における **ATL** 発症予防法は全く開発されていない。本分担研究では、平成 25 年度までの **H23 - がん臨床 - 一般 - 022 (ATL の診療実態・指針の分析による診療体制の整備に関する研究)** 班で行った **ATL** の病型分類見直し、血液内科と皮膚科のガイドラインの統合的検討、そして **ATL** の第 11 次全国調査結果を踏まえて **ATL** 全国調査を継続し、適切な診療体制の整備を目指して、3 年間で以下のように研究を行った。

11 次 ATL 全国実態調査へ既登録症例の治療法・予後解析：第 11 次調査で集積した **ATL996** 名の治療内容と予後を解析するため調査票を発送し、**752 名(79%)**分を解析できた。急性型・リンパ腫型の診断後の 4 年生存割合は、同種造血幹細胞移植施行例、未施行例ともに過去の報告と比較し改善していた。第 12 次 **ATL 全国実態調査:2012/13** 年に発症した **ATL** 患者の全国調査を開始した。全国がん診療連携拠点病院および都道府県推薦病院から登録される院内がん登録、日本血液学会血液専門医が常勤医として勤務している施設および日本血液学会研修施設から登録される血液疾患患者登録、皮膚悪性腫瘍学会疾患登録参加施設の 3 つの **ATL** 診療データの二次利用が可能となったので、最終年度に該当する **535** 施設へ調査依頼を送付した。この調査では がん登録情報をベースとした **Web** 登録の導入と、患者自身の **Web** 登録による調査参加の導入を検討した。**AMED** 難治性疾患実用化研究事業「**HTLV-1** 陽性難治性疾患の診療の質を高めるためのエビデンス構築」岡山班との共同研究：第 11 次 **ATL** 全国実態調査登録患者の自己免疫疾患合併について追加調査する附随研究を行い、**ATL** 発症前の自己免疫性疾患に対する治療法に一定の傾向は見出せなかった。

ATL の病態解明、標準治療法開発、診療実態の評価に基づくその整備のために、継続的な本疾患の全国調査が望まれる。

A. 研究目的

成人 T 細胞白血病・リンパ腫 (ATL) はヒト T リンパ球向性ウイルス 型 (HTLV-1) が病因の単一疾患であり、難治性でかつ多様な臨床病態をとる。ATL の予後予測と治療法の選択には、その自然史によって作成された臨床病型 (Shimoyama M, et al. BJH 1991: 急性型、リンパ腫型、慢性型、くすぶり型) 分類が有用とされるが、その予後は他の造血器腫瘍よりも不良であり、HTLV-1 感染者における ATL 発症予防法は全く開発されていない。

本分担研究では、塚崎が平成 25 年度まで 3 年間研究者代表者をつとめた H23 - がん臨床 - 一般 - 022 (ATL の診療実態・指針の分析による診療体制の整備に関する研究) 班で行った ATL の病型分類見直し、血液内科と皮膚科のガイドラインの統合的検討、そして ATL の第 11 次全国調査の結果を踏まえて ATL 全国調査を継続し、適切な診療体制の整備を目指す。

B. 研究方法

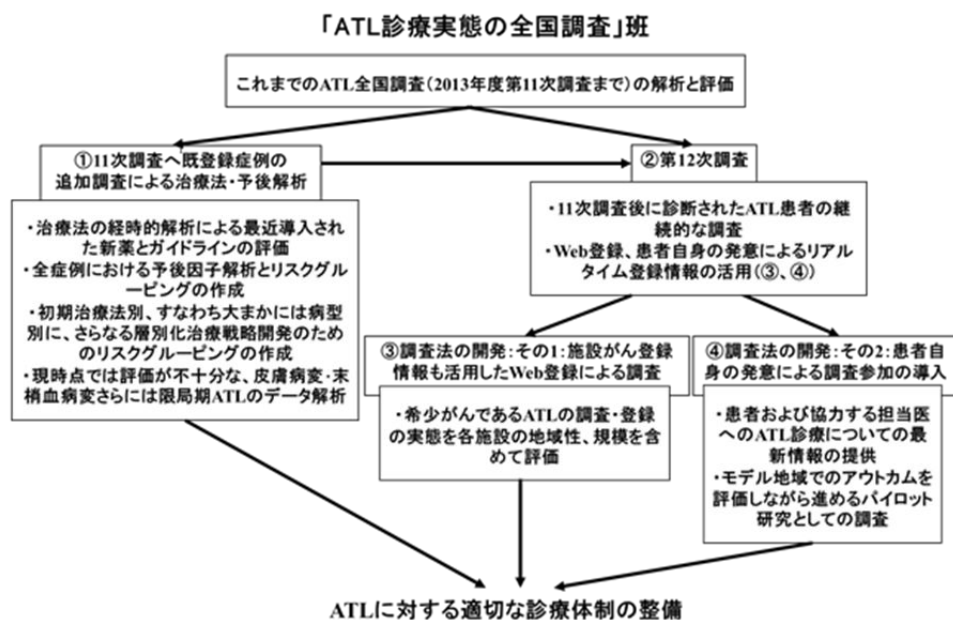
図 1 に示した流れで、以下の から の研究を 3 年間で行うことを当初予定した。

第 11 次 ATL 全国実態調査へ既登録症例の治療法・予後解析:

第 11 次調査で 2010/11 年に診断され初診時情報を集積した ATL 約 1000 例の治療内容と予後を解析する。まず全例の多変量解析による予後因子を解析し、それに基づいて予後予測モデルを作成する。初期治療法別、即ち大まかには病型別にも予後予測モデル作成を試みるとともに、ガイドラインに照らして評価する。皮膚病変・末梢血病変さらには消化管病変を含む限局期 ATL を詳細にデータ収集して解析する。

第 12 次 ATL 全国実態調査:

2012/13 年に発症した ATL 患者の全国調査を行う。現在整備されつつあるいくつかのがん・血液腫瘍登録制度を活用するために、地域がん登録、院内がん登録、血液疾患登録についてまず Website 情報などをレビューし、引き続いてそれぞれの専門家と協議する。今回は Web 登録で情報収集することを検討している。がん登録体制が進むのに示すようにそのデータベースも活用して前向き調査を試みる。また に示す患者による登録もパイロット的に検討する。調査内容は、施設負担を考慮し、11 次調査と同様の初診時のデータを主とする。



がん登録情報をベースとした Web 登録による調査：

今回から Web 登録を行うことを検討する。多くの施設のがん登録体制が進んできたことから、予定されているがん登録制度の変更を受けて、このデータベースを活用し ATL 患者情報の収集を試みる。

患者自身の Web 登録による調査参加の導入：

ATL 患者へ自身による調査への参加を呼びかける。希望する患者の担当医へアプローチし、登録を依頼して疾患情報を提供する。病状からアグレッシブよりもインドレント ATL 患者を予想しているが、実際の情報提供は担当医による患者診療に影響する可能性があるため、慎重にモデル地域を設けてパイロット研究とすることを検討する。

第 11 次 ATL 全国実態調査登録患者の自己免疫疾患合併についての追加調査：

第 11 次 ATL 全国実態調査結果の 2015 年の HTLV-1 学会学術集会での発表後の AMED 難治性疾患実用化研究事業「HTLV-1 陽性難治性疾患の診療の質を高めるためのエビデンス構築」岡山班からの申し出を受けて、共同研究として、第 11 次 ATL 全国実態調査登録患者の自己免疫疾患合併について追加調査する附随研究を開始した。

(倫理面への配慮)

本研究は、介入試験ではないが研究対象者に対する人権擁護上の配慮、不利益・危険性がないように、ヘルシンキ宣言および厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って、全国の ATL 診療実態調査を行う。

C. 研究結果

第 11 次 ATL 全国実態調査へ既登録症例の治療法・予後解析：

2014 年 11 月の日本血液学会学術総会で報告した第 11 次調査結果を踏まえて、第 11 次 ATL 全国実態調査登録患者の予後調査研究計画書(予後調査票を含む)を作成し、国立がん研究センターの臨床研究倫理審査委員会で 2015 年 1 月に承認された。

2015 年 6 月には委託業者と連携して、11 次調査で症例を総計 996 症例(2015 年 8 月の日本 HTLV-1 学会学術集会で最終解析結果を発表)を登録した 114 施設へ協力お伺いアンケートを郵送した。2016 年 2 月までに 108 施設にご協力いただき、800 症例の予後超過表を回収した。不適格、データ欠損の症例を除いた 752 例について解析した。先行の 2 つの調査と比べて、さらに患者の高齢化が進んでいた。急性型、リンパ腫方に対する同種造血幹細胞移植は、55 歳まででは 49%、56 歳から 65 歳では 30%が受けていたのに対し、66 歳以上では 1%のみであった。10%の患者が抗 CCR4 抗体の Mogamulizumab による治療を受け、その後の 4 年生存割合は 26%であった。

第 12 次 ATL 全国実態調査 / がん登録情報をベースとした Web 登録による調査：

2012/13 年に発症した ATL 患者の全国調査を行うに当たり、全国の施設にアンケート調査を依頼し、協力確認を行った上で ATL 診療の実態を調査する予定とした。今回からデータベース(日血血液疾患登録、皮膚悪性腫瘍学会登録、院内がん登録)を利用することで各施設担当医師の症例検索の負担を軽減するために平成 27 年度までに以下のように準備を進めた。

平成 28 年度からの調査に向けて、ATL に対する継続的な全国観察研究計画書コンセプト案と第 12 次 ATL 実態調査研究計画書コンセプト案を平成 27 年度に作成したが、院内がん登録全国データ利用は初めてのことから、まずは後者を進めることとした。

院内がん登録については、全国がん診療連

携拠点病院および都道府県推薦病院から登録されており、全国集計情報が1年ごとに国立がん研究センター院内がん登録室に収集されること、本研究対象症例の診療施設を同定したい旨の利用申請をすればプロトコールとデータ管理の審査承認後に診療施設のリストが提供されること、研究者から施設へ依頼後に協力施設からATL患者の登録データ収集ができる予定であること、が明らかとなった。

一方、血液疾患患者登録については、日本血液学会血液専門医が常勤医として勤務している施設および日本血液学会研修施設から登録されており、毎年更新データが公開されている。データの二次利用については、日本血液学会等が指定した倫理審査委員会、及び施設の倫理審査委員会の施設長の承認を受けた上で実施できることが明らかとなった。

日本皮膚悪性腫瘍学会の登録データ利用については、データ管理している岡山大学での倫理委員会への追加版の申請と承認後にATL患者の登録データを入手する。

実際のATL患者の毎年の登録数は、院内がん登録では約600例、血液疾患患者登録では約500例、皮膚悪性腫瘍学会登録では約100例であった。

Web登録を行うかの検討に関しては、施設負担を軽減するために、上記の既登録データの活用に加えて、簡便な登録法について既存の疾患Web登録サイトなどのレビューを行った。しかし血液疾患患者登録事務局との面談で、将来的なその登録データの一部をWebを介して活用させていただける可能性が明らかになったことなどから、平成27年度の班会議での検討で、Web登録は将来開始することとした。

平成28年度には12次調査のプロトコール内容を固定し、11次調査以降に倫理指針の改訂があったことに対応した上で8月に国立がん研究センターのIRBで承認された。これを受けて日血血液疾患登録・院内がん登録・皮膚悪性腫瘍学会登録データを入手し、その3

データベースのいずれかに登録した施設と11次調査協力施設のあわせて565施設へ調査協力依頼のアンケートを送付した。来年度上半期に協力施設へ調査票を送付し、誌うも半期にデータを固定し、解析を開始することを予定している。

患者自身のWeb登録による調査参加の導入：

HTLV-1関連脊髄症(HAM)患者登録サイトであるハムねっとでは、HAM患者が自身の情報を自ら登録し、全国調査研究に貢献するとともに、臨床試験/治験を含む種々の情報を入手している。ハムねっとに続いて、HTLV-1キャリアにおける同様のキャリねっとが平成27年度に立ち上がった。引き続いてインドレットATL患者を対象にモデル地域を多発地域の九州に設けてパイロット研究することを以下のように検討した。平成27年度2回の班会議とad hocの「インドレットATLねっと」小委員会で検討したが、メーリングリストでの情報共有は有用かもしれないが暴走するメンバーが出た場合の対応困難さ、個別メール対応であっても多様であることが想定される患者担当医との連携の困難さ、などから「インドレットATLねっと」の立ち上げは断念した。その代わりに単方向性ではあるが既存のHTLV-1情報サービスにおいてインドレットATLについての情報をより多くかつ細やかに載せることなどでの情報提供を行うこととした。

第11次ATL全国実態調査登録患者の自己免疫疾患合併についての追加調査：

第11次ATL全国実態調査でATL診断時の既往・併発症として自己免疫疾患のあった37/954症例について以下の追加調査を行う研究は主幹施設で2016年1月にIRB承認された。本附随研究では追加調査されたATL患者の自己免疫疾患の治療法などに関し、ATLを合併していない一般的な自己免疫疾

患の既存のデータと比較することにより、自己免疫疾患あるいはその免疫抑制療法や生物学的製剤の治療が、ATL 発症のリスク増加に關与する可能性を検討した。関節リウマチ (N=11) を筆頭に総計 37/954 名 (3.9%) の自己免疫性疾患の並存を ATL 発症時に認めた。この頻度は一般健常人での頻度と同等であり、追加調査した ATL 発症前の自己免疫性疾患に対する治療法に一定の傾向はなかった。

D. 考察

本研究班はこの 3 年間で、厚生労働省が行っている HTLV-1 総合対策の中でも、HTLV-1 キャリアと ATL 患者の実態把握、リスク評価、相談支援体制整備と ATL/HTLV-1 感染症克服研究事業の評価に資する研究を平成 25 年度までの 3 班での研究に引き続いて行った。本分担研究グループでは、H23 - がん臨床 - 一般 - 022 班研究での第 11 次 ATL 全国実態調査に引き続いて、その予後調査を行い、さらには院内がん登録、血液学会と皮膚悪性腫瘍学会の患者登録データベースを活用する新たな手法を取り入れた第 12 次全国調査について研究を継続し、また AMED 岡山班との共同研究として第 11 次 ATL 全国実態調査の附随研究を行った。

今後は ATL の初期治療法別、すなわち大まかには病型別に、予後因子解析とそれに基づく予後予測モデルを作成し、さらなる層別化治療法の開発の基盤を形成し、将来的な病型の見直しにも繋げることが望まれる。股継続的な ATL 全国実態調査結果を施設の地域、規模ごとに評価し、全国の医療施設での本疾患の診療の標準化・拠点化を進めることにより、診療体制を整備する必要がある。がん登録制度の変更も活用して、希少がんの 1 つである ATL のがん登録の改善に繋げることも望まれる。

E. 結論

平成 25 年度までの ATL 診療実態整備につい

ての研究班の成果を 3 年間の本分担研究班で発展させ、研究を継続した。ATL の診療実態を把握し課題を評価することにより、本疾患の診療体制の整備に寄与した。第 12 次 ATL 全国調査の継続が望まれる。

F. 健康危険情報

該当せず

G. 研究発表

論文

1. Makiyama J, Tsukasaki K, et al.: Treatment outcome elderly patients with aggressive adult T cell leukemia-lymphoma. Nagasaki University Hospital experience. *Int J Hematol* 100(5):464-472, 2014.
2. Tsukasaki K, Tobinai K.: Human T-cell lymphotropic virus type I-associated adult T-cell leukemia-lymphoma. new directions in clinical research. *Clin Cancer Res* 20(20):5217-25, 2014.
3. Yoshida N, Tsukasaki K et al.: Molecular Characterization of Chronic-type Adult T-cell Leukemia/Lymphoma. *Cancer Res* 74(21):6129-38, 2014.
4. Yamaguchi M, Tsukasaki K et al.: Prognostic biomarkers in patients with localized natural killer/T-cell lymphoma treated with concurrent chemoradiotherapy. *Cancer Sci* 105(11):1435-41, 2014.
5. Taniguchi H, Tsukasaki K et al.: Heat shock protein 90 inhibitor NVP-AUY922 exerts potent activity against adult T-cell leukemia-lymphoma cells. *Cancer Sci* 105(12):1601-8, 2014.
6. Makiyama J, Tsukasaki K et al.: Treatment outcome of elderly patients with aggressive adult T cell leukemia-lymphoma. Nagasaki University Hospital experience. *Int J Hematol* 100(5):464-72, 2014
7. Fukushima T, Tsukasaki K et al.: Japan Clinical Oncology Group prognostic index and characterization of long-term survivors of aggressive adult T-cell leukemia-lymphoma (JCOG0902A). *Br J Haematol* 166(5):739-48, 2014.

8. Ogura M, Tsukasaki K et al.: Multicenter phase II study of mogamulizumab (KW-0761), a defucosylated anti-CC chemokine receptor 4 antibody, in patients with relapsed peripheral T-cell lymphoma and cutaneous T-cell lymphoma. *J Clin Oncol* 32(11):1157-63, 2014.
9. Ishida T, Tobinai K, et al.: Dose-intensified chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive ATL: a randomized phase 2 study. *Br J Haematol*, in press.
10. O'Connor OA, Tobinai K: Putting the clinical and biological heterogeneity of non-Hodgkin's lymphoma into context. *Clin Cancer Res* 20:5173-81, 2014.
11. Kato K, Utsunomiya A et al.: Treatment of adult T-cell leukemia/lymphoma with cord blood transplantation: a Japanese nationwide retrospective survey. *Biol Blood Marrow Transplant* 20(12):1968-74, 2014.
12. Nakano N, Utsunomiya A et al.: High incidence of CMV infection in adult T-cell leukemia/lymphoma patients after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplant* 49(12):1548-9, 2014.
13. Utsunomiya A Choi I, et al.: Recent advances in treatment of adult T-cell leukemia- lymphomas. *Cancer Sci* 2015. [Epub ahead of print]
14. Tokura Y, Sawada Y, et al.: Skin manifestations of adult T-cell leukemia/lymphoma: Clinical, cytological, and immunological features. *J Dermatol* 41: 19-25, 2014.
15. Sugaya M, Tokura Y, et al.: Phase II study of intravenous interferon- γ in Japanese patients with mycosis fungoides. *J Dermatol* 41: 50-56, 2014.
16. Hoshino T, Tokura Y et al.: Epstein-Barr virus-associated T-cell lymphoproliferative disorder affecting skin and lung in an elderly patient. *J Dermatol* 41: 837-840, 2014.
17. Kasuya A, Tokura Y et al.: Recurrent herpes zoster on a fixed thigh site: Its possible association with lymphoma cell invasion to femoral nerve. *J Dermatol* 41: 854-855, 2014.
18. Ishitsuka K, Tamura K.: Human T-cell leukaemia virus type I and adult T-cell leukaemia-lymphoma. *Lancet Oncol*, 15(11):e517-26, 2014
19. Kunami N, Ishitsuka K, et al. : Promise of combining a Bcl-2 family inhibitor with bortezomib or SAHA for adult T-cell leukemia/lymphoma. *Anticancer Res.*, 34(10):5287-94, 2014
20. Taguchi M, Imaizumi Y, et al.: Molecular analysis of loss of CCR4 expression during mogamulizumab monotherapy in an adult T cell leukemia/lymphoma patient. *Ann Hematol*. [Epub ahead of print], Oct 23,2014.
21. Nakahata S, Shimoda K, et al.: Loss of NDRG2 expression activates PI3K-AKT signalling via PTEN phosphorylation in ATLL and other cancers. *Nat Commun* 5:3393, 2014.
22. Maekawa K, Shimoda K, et al. : Primary Central Nervous System Lymphoma in Miyazaki, Southwestern Japan, a Human T-Lymphotropic Virus Type-1 (HTLV-1)-Endemic Area: Clinicopathological Review of 31 Cases. *J Clin Exp Hematop* 54:179-185 , 2014.
23. Katsuya H, Ishitsuka K, Utsunomiya A, Hanada S, Eto T, Moriuchi Y, Saburi Y, Miyahara M, Sueoka E, Uike N, Yoshida S, Yamashita K, Tsukasaki K, Suzushima H, Ohno Y, Matsuoka H, Jo T, Amano M, Hino R, Shimokawa M, Kawai K, Suzumiya J, Tamura K: Treatment and survival among 1594 patients with ATL diagnosed in the 2000s: a report from the ATL-PI project performed in Japan. *Blood*, 2015 Dec 10;126(24):2570-7 2015.
24. Yoshida N, Tsuzuki S, Karube K, Takahara T, Suguro M, Miyoshi H, Nishikori M, Shimoyama M, Tsukasaki K, Ohshima K, Seto M: STX11 functions as a novel tumor suppressor gene in peripheral T-cell lymphomas. *Cancer Sci* 106(10):1455-1462, 2015.
25. Yoshida N, Imaizumi Y, Utsunomiya A, Miyoshi H, Arakawa F, Tsukasaki K, Ohshima K, Seto M: Mutation Analysis for TP53 in Chronic-Type Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma. *J Clin Exp Hematop* 55(1):13-16,2015.2015.
26. Ishida T, Jo T, Takemoto S, Suzushima H, Uozumi K, Yamamoto K, Uike N, Saburi Y, Nosaka K, Utsunomiya A, Tobinai K, Fujiwara H, Ishitsuka K,

- Yoshida S, Taira N, Moriuchi Y, Imada K, Miyamoto T, Akinaga S, Tomonaga M, Ueda R.: Dose-intensified chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive ATL: a randomized phase 2 study. *Br J Haematol* ;169:672-82,2015.
27. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Shimamura T, Yasunaga JI, Totoki Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Nagae G, Ishii R, Muto S, Kotani S, Watatani Y, Takeda J, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Iwanaga M, Ma G, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Ogasawara H, Sato T, Sasai K, Muramoto K, Penova M, Kawaguchi T, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Yoon SS, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Matsuda F, Takeuchi K, Nureki O, Aburatani H, Watanabe T, Shibata T, Matsuoka M, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S: Integrated molecular analysis of adult T cell leukemia/lymphoma. *Nat Genet* 47 (11): 1304-1315, 2015.
 28. Utsunomiya A, Choi I, Chihara D, Seto M : Recent advances in treatment of adult T-cell leukemia- lymphomas. *Cancer Sci*, 106(4):344-351, 2015.
 29. Tokura Y, Ito T, Kawakami C, Sugita K, Kasuya A, Tatsuno K, Sawada Y, Nakamura M, Shimauchi T: Human T-lymphotropic virus 1 (HTLV-1)-associated lichenoid dermatitis induced by CD8+ T cells in HTLV-1 carrier, HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis and adult T-cell leukemia/lymphoma. *J Dermatol* 42(10): 967-74, 2015.
 30. Kaneko Y, Tatsuno K, Fujiyama T, Ito T, Tokura Y: Recurrent Facial Erythema with Cytotoxic T Cell Infiltration as a Possible Reactive Eruption in an HTLV-1 Carrier. *Case Rep Dermatol* 7(2): 95–99, 2015.
 31. Itonaga H, Sawayama Y, Taguchi J, Honda S, Taniguchi H, Makiyama J, Matsuo E, Sato S, Ando K, Imanishi D, Imaizumi Y, Yoshida S, Hata T, Moriuchi Y, Fukushima T, Miyazaki Y : Characteristic patterns of relapse after allogeneic hematopoietic SCT for adult T-cell leukemia-lymphoma: a comparative study of recurrent lesions after transplantation and chemotherapy by the Nagasaki Transplant Group. *Bone Marrow Transplant*. 50(4):585-91. 2015
 32. Taguchi M, Imaizumi Y, Sasaki D, Higuchi T, Tsuruda K, Hasegawa H, Taguchi J, Sawayama Y, Imanishi D, Hata T, Yanagihara K, Yoshie O, Miyazaki Y : Molecular analysis of loss of CCR4 expression during mogamulizumab monotherapy in an adult T cell leukemia/lymphoma patient. *Ann Hematol*. 94(4):693-5. 2015
 33. Fuchi N, Miura K, Imaizumi Y, Hasegawa H, Yanagihara H, Miyazaki Y, Masuzaki H : Adult T-cell leukemia-lymphoma in a pregnant woman diagnosed as a human T-cell lymphotropic virus type 1 carrier. *J Obstet Gynaecol Res*. Dec 10. 2015
 34. Shimoda K, Shide K, Kameda T, Hidaka T, Kubuki Y, Kamiunten A, Sekine M, Akizuki K, Shimoda H, Yamaji T, Nakamura K, Abe H, Miike T, Iwakiri H, Tahara Y, Sueta M, Yamamoto S, Hasuike S, Nagata K, Kitanaka A: TET2 Mutation in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma. *J Clin Exp Hematol*.55(3) : 145-149, 2015.
 35. Nagata Y, Kontani K, Enami T, Kataoka K, Ishii R, Totoki Y, Kataoka TR, Hirata M, Aoki K, Nakano K, Kitanaka A, Sakata-Yanagimoto M, Egami S, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Shiozawa Y, Yoshizato T, Suzuki H, Kon A, Yoshida K, Sato Y, Sato-Otsubo A, Sanada M, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Miyano S, Nureki O, Shibata T, Haga H, Shimoda K, Katada T, Chiba S, Watanabe T, Ogawa S: Variegated RHOA mutations in adult T-cell leukemia/lymphoma. *Blood*. 127(5) : 596-604, 2016.
 36. Kawano N, Yoshida S, Kuriyama T, Tahara Y, Yamashita K, Nagahiro Y, Kawano J, Koketsu H, Toyofuku A, Manabe T, Beppu K, Ono N, Himeji D, Yokota-Ikeda N, Inoue S, Ochiai H, Sonoda KH, Shimoda K, Ishikawa F, Ueda A.: Clinical Features and Treatment Outcomes of 81 Patients

- with Aggressive Type Adult T-cell Leukemia-lymphoma at a Single Institution over a 7-year Period (2006-2012). *Internal medicine*. 54(12) : 1489-1498, 2015.
37. Maekawa K, Moriguchi-Goto S, Kamiunten A, Kubuki Y, Shimoda K, Takeshima H, Asada Y, Marutsuka K: Primary Central Nervous System Lymphoma in Miyazaki, Southwestern Japan, a Human T-Lymphotropic Virus Type-1 (HTLV-1)-Endemic Area. *Journal of clinical and experimental hematopathology*. 54(3) : 179-185, 2014.
 38. Kuramitsu M, Okuma K, Yamochi T, Sato T, Sasaki D, Hasegawa H, Umeki K, Kubota R, Sobata R, Matsumoto C, Kaneko N, Naruse I, Yamagishi M, Nakashima M, Momose H, Araki K, Mizukami T, Mizusawa S, Okada Y, Ochiai M, Utsunomiya A, Koh KR, Ogata M, Nosaka K, Uchimaru K, Iwanaga M, Sagara Y, Yamano Y, Satake M, Okayama A, Mochizuki M, Izumo S, Saito S, Itabashi K, Kamihira S, Yamaguchi K, Watanabe T, Hamaguchi I: Standardization of Quantitative PCR for Human T-cell Leukemia Virus Type 1 in Japan: A Collaborative Study. *J Clin Microbiol* 53(11): 3485-3491, 2015
 39. Takemoto S, Iwanaga M, Sagara Y, Watanabe T: Plasma soluble CD30 as a possible marker of adult T-cell leukemia in HTLV-1 carriers: a nested case-control study. *Asian Pac J Cancer Prev* 16(18): 8253-8258, 2015
 40. Sasaki R, Ito S, Asahi M, Ishida Y. YM155 suppresses cell proliferation and induces cell death in human adult T-cell leukemia/lymphoma cells. *Leuk Res*. 39:1473-1479,2015
 41. Tanaka Y, Mizuguchi M, Takahashi Y, Fujii H, Tanaka R, Fukushima T, Tomoyose T, Ansari AA, Nakamura M: Human T-cell leukemia virus type-I Tax induces the expression of CD83 on T cells. *Retrovirology* 12 (in press: doi: 10.1186/s12977-015-0185-1.), 2015.
 42. Tamaki K, Kinjo T, Aoyama H, Tomoyose T, Nakachi S, Hanashiro T, Shimabukuro N, Tedokon I, Morichika K, Nishi Y, Taira N, Fujita J, Yoshimi N, Fukushima T, Masuzaki H: Fatal pneumonia and viremia due to human parainfluenza virus type 1 in a patient with adult T-cell leukemia-lymphoma treated with mogamulizumab. *J Infect Chemother* 21:820-823, 2015.
 43. Tomoyose T, Nakachi S, Nishi Y, Morichika K, Tedokon I, Tamaki K, Shimabukuro N, Hanashiro, Samura H, Fukushima T, Masuzaki H: Giant septic lymphadenitis with marked gas formation caused by *Bacteroides fragilis* in a patient with adult T-cell leukemia/lymphoma. *Intern Med* 54:2919-2922, 2015.
 44. Fujikawa D, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Yamagishi M, Watanabe T. Polycomb-dependent epigenetic landscape in adult T-cell leukemia. *Blood*. 2016 Jan 15. pii: blood-2015-08-662593. [Epub ahead of print]
 45. Kobayashi S, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Nakano K, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K. Advanced HTLV-1 carriers and early-stage indolent ATLs are indistinguishable based on CADM1 positivity in flow cytometry. *Cancer Sci*. 2015;106(5): 598-603. doi: 10.1111/cas.12639.
 46. Ishida T, Fujiwara H, Nosaka K, Taira N, Abe Y, Imaizumi Y, Moriuchi Y, Jo T, Ishizawa K, Tobinai K, Tsukasaki K, Ito S, Yoshimitsu M, Otsuka M, Ogura M, Midorikawa S, Ruiz W, Ohtsu T: Multicenter phase II study of lenalidomide in relapsed or recurrent adult T-cell leukemia-lymphoma: ATLL-002. *J Clin Oncol* 34:4086-93. 2016.
 47. Ogura M, Imaizumi Y, Uike N, Asou N, Utsunomiya A, Uchida T, Aoki T, Tsukasaki K, Taguchi J, Choi I, Maruyama D, Nosaka K, Chen N, Midorikawa S, Ohtsu T, Tobinai K: Lenalidomide in relapsed adult T-cell leukaemia-lymphoma or peripheral T-cell lymphoma (ATLL-001): a phase 1, multicentre, dose-escalation study. *Lancet Haematol* 3:e107-18. 2016.
 48. Tokunaga M, Yoshida N, Nakano N, Kubota A, Takeuchi S, Takatsuka Y, Seto M, Utsunomiya A: Detection of an early adult T-cell leukemia-lymphoma clone in lymph nodes with anaplastic

- lymphoma kinase-negative anaplastic large cell lymphoma involvement. *Cancer Genet.* 209(4):138-42, 2016.
49. Sugata K, Yasunaga J, Miura M, Akari H, Utsunomiya A, Nosaka K, Watanabe Y, Suzushima H, Koh KR, Nakagawa M, Kohara M, Matsuoka M: Enhancement of anti-STLV-1/HTLV-1 immune responses through multimodal effects of anti-CCR4 antibody. *Sci Rep*, 2016 2;6:27150. doi: 10.1038/srep27150.
 50. Ogura M, Ishida T, Tsukasaki K, Takahashi T, Utsunomiya A: Effects of first-line chemotherapy on natural killer cells in adult T-cell leukemia-lymphoma and peripheral T-cell lymphoma. *Cancer Chemother Pharmacol* 78(1):199-207, 2016.
 51. Fuji S, Inoue Y, Utsunomiya A, Moriuchi Y, Uchimaru K, Choi I, Otsuka E, Henzan H, Kato K, Tomoyose T, Yamamoto H, Kurosawa S, Matsuoka KI, Yamaguchi T, Fukuda T: Pretransplantation Anti-CCR4 Antibody Mogamulizumab Against Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma Is Associated With Significantly Increased Risks of Severe and Corticosteroid-Refractory Graft-Versus-Host Disease, Nonrelapse Mortality, and Overall Mortality. *J Clin Oncol* 34(28): 3426-3433. 2016.
 52. Yonekura K, Tokunaga M, Kawakami N, Takeda K, Kanzaki T, Nakano N, Kubota A, Takeuchi S, Takatsuka Y, Seto M, Utsunomiya A: Cutaneous Adverse Reaction to Mogamulizumab May Indicate Favourable Prognosis in Adult T-cell Leukaemia-lymphoma. *Acta Derm Venereol* 96(7): 1000-1002, 2016.
 53. Kato J, Masaki A, Fujii K, Takino H, Murase T, Yonekura K, Utsunomiya A, Ishida T, Iida S, Inagaki H: Quantitative PCR for HTLV-1 provirus in adult T-cell leukemia/lymphoma using paraffin tumor sections. *Pathol Int* 66(11):618-621, 2016.
 54. Nakano K, Uchimaru K, Utsunomiya A, Yamaguchi K, Watanabe T: Dysregulation of c-Myb pathway by aberrant expression of proto-oncogene MYB provides the basis for malignancy in adult T-cell leukemia/lymphoma cells. *Clin Cancer Res* 22(23): 5915-5928, 2016.
 55. Tokunaga M, Uto H, Takeuchi S, Nakano N, Kubota A, Tokunaga M, Takatsuka Y, Seto M, Ido A, Utsunomiya A: Newly identified poor prognostic factors for adult T-cell leukemia-lymphoma treated with allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Leuk Lymphoma* 58(1): 37-44, 2017.
 56. Fujiwara H, Fuji S, Wake A, Kato K, Takatsuka Y, Fukuda T, Taguchi J, Uchida N, Miyamoto T, Hidaka M, Miyazaki Y, Tomoyose T, Onizuka M, Takanashi M, Ichinohe T, Atsuta Y, Utsunomiya A; ATL Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation: Dismal outcome of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for relapsed adult T-cell leukemia/lymphoma, a Japanese nation-wide study. *Bone Marrow Transplant.* 2017 [Epub ahead of print]
 57. Tokunaga M, Yonekura K, Nakamura D, Haraguchi K, Tabuchi T, Fujino S, Hayashida M, Maekawa K, Arai A, Nakano N, Kamada Y, Kubota A, Inoue H, Owatari S, Takeuchi S, Takatsuka Y, Otsuka M, Hanada S, Matsumoto T, Yoshimitsu M, Ishitsuka K, Utsunomiya A: Clinical significance of cutaneous adverse reaction to mogamulizumab in relapsed or refractory adult T-cell leukemia-lymphoma. *Br J Haematol*, 2017, in press.
 58. Miyoshi H, Kiyasu J, Kato T, Yoshida N, Shimono J, Yokoyama S, Taniguchi H, Sasaki Y, Kurita D, Kawamoto K, Kato K, Imaizumi Y, Seto M, Ohshima K : PD-L1 expression on neoplastic or stromal cell is respectively poor or good prognostic factor for adult T-cell leukemia/lymphoma. *Blood.* 128(10):1374-81, 2016.
 59. Kondo H, Soda M, Sawada N, Inoue M, Imaizumi Y, Miyazaki Y, Iwanaga M, Tanaka Y, Mizokami M, Tsugane S : Smoking is a risk factor for development of adult T-cell leukemia/lymphoma in Japanese human T-cell leukemia virus type-1 carriers. *Cancer Causes Control.* 27(9):1059-66, 2016.
 60. Kataoka K, Shiraishi Y, Takeda Y, Sakata S, Matsumoto M, Nagano S, Maeda T, Nagata Y, Kitanaka A, Mizuno S, Tanaka H, Chiba K, Ito S, Watatani Y, Kakiuchi N, Suzuki H, Yoshizato T, Yoshida K, Sanada M, Itonaga H, Imaizumi Y, Totoki Y, Munakata W, Nakamura H, Hama N,

- Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Masuda K, Minato N, Kashiwase K, Izutsu K, Takaori-Kondo A, Miyazaki Y, Takahashi S, Shibata T, Kawamoto H, Akatsuka Y, Shimoda K, Takeuchi K, Seya T, Miyano S, Ogawa S : Aberrant PD-L1 expression through 3'-UTR disruption in multiple cancers. *Nature*. 534(7607):402-6, 2016.
61. Itonaga H, Taguchi J, Taguchi M, Taniguchi H, Sato S, Sawayama Y, Imaizumi Y, Yoshida S, Hata T, Moriuchi Y, Miyazaki Y: Adult T-cell leukemia/lymphoma in donor cells responding to second allogeneic hematopoietic stem cell transplantation using unrelated cord blood: the Nagasaki Transplant Group experience. *Leuk Lymphoma*. 57(12):2946-2948, 2016.
 62. Hasegawa H, Bissonnette RP, Gillings M, Sasaki D, Taniguchi H, Kitanosono H, Tsuruda K, Kosai K, Uno N, Morinaga Y, Imaizumi Y, Miyazaki Y, Yanagihara K: Induction of apoptosis by HBI-8000 in adult T-cell leukemia/lymphoma is associated with activation of Bim and NLRP3. *Cancer Sci*. 107(8):1124-33, 2016.
 63. Yoshida N, Miyoshi H, Kato T, Sakata-Yanagimoto M, Niino D, Taniguchi H, Moriuchi Y, Miyahara M, Kurita D, Sasaki Y, Shimono J, Kawamoto K, Utsunomiya A, Imaizumi Y, Seto M, Ohshima K: CCR4 frameshift mutation identifies a distinct group of adult T cell leukaemia/lymphoma with poor prognosis. *J Pathol*. 238(5):621-6, 2016.
 64. Kitahara H, Maruyama D, Maeshima AM, Makita S, Miyamoto K, Fukuhara S, Munakata W, Suzuki T, Kobayashi Y, Tajima K, Terauchi T, Kurihara H, Taniguchi H, Tobinai K: Prognosis of the patients with peripheral T-cell lymphoma who underwent CHOP/CHOP-like chemotherapy without high-dose chemotherapy followed by autologous stem cell transplantation as an initial treatment. *Ann Hematol*. 2016. [Epub ahead of print].
 65. Aoki S, Firouzi S, López Y, Yamochi T, Nakano K, Uchimaru K, Utsunomiya A, Iwanaga M, Watanabe T. Transition of adult T-cell leukemia/lymphoma clones during clinical progression. *Int J Hematol*. Sep;104(3):330-7. 2016 doi: 10.1007/s12185-016-2049-4.
 66. Satake M, Iwanaga M, Sagara Y, Watanabe T, Okuma K, Hamaguchi I. Incidence of human T-lymphotropic virus 1 infection in adolescent and adult blood donors in Japan: a nationwide retrospective cohort analysis. *Lancet Infect Dis*. 16(11):1246-1254. 2016 doi: 10.1016/S1473-3099(16)30252-3.
 67. Watanabe T. Adult T-cell leukemia (ATL): Molecular basis for clonal expansion and transformation of HTLV-1-infected T cells. *Blood*, 2017. pii: blood-2016-09-692574. doi: 10.1182/blood-2016-09-692574. [Epub ahead of print]
 68. Nakano K, Uchimaru K, Utsunomiya A, Yamaguchi K, Watanabe T. Aberrantly expressed oncogenic c-Myb contributes activation of MYB proto-oncogene pathway providing the basis for malignancy of Adult T cell leukemia/lymphoma cells. *Clin Cancer Res*. 2016 15. pii: clincanres.1739.2015. [Epub ahead of print]
 69. Nakano K and Watanabe T. HTLV-1 Rex Tunes the Cellular Environment Favorable for Viral Replication. *Viruses* 2016, 8(3), 58; doi:10.3390/v8030058
 70. Yeh CH, Bai XT, Moles R, Ratner L, Waldmann TA, Watanabe T, Nicot C. Mutation of epigenetic regulators TET2 and MLL3 in patients with HTLV-I-induced acute adult T-cell leukemia. *Mol Cancer* 2016, 15:15 (DOI: 10.1186/s12943-016-0500-z)
 71. Fujikawa D, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Yamagishi M, Watanabe T. Polycomb-dependent epigenetic landscape in adult T-cell leukemia. *Blood*, 127(14):1790-802. 2016. doi: 10.1182/blood-2015-08-662593.
 72. Aoki S, Firouzi S, Yamochi T, Nakano K, Uchimaru K, Utsunomiya A, Iwanaga M, Watanabe T. Transition of ATL/L cell clones can be observed during the clinical course. *Int J*

- Hematol, 2016. [e-pub ahead of print]
73. Nagata Y, Kontani K, Enami T, Kataoka K, Ishii R, Totoki Y, Kataoka TR, Hirata M, Aoki K, Nakano K, Kitanaka A, Sakata-Yanagimoto M, Egami S, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Shiozawa Y, Yoshizato T, Suzuki H, Kon A, Yoshida K, Sato Y, Sato-Otsubo A, Sanada M, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Miyano S, Nureki O, Shibata T, Haga H, Kazuya Shimoda K, Katada T, Chiba S, Watanabe T, Ogawa S. Variegated RHOA mutations in adult 1 T-cell leukemia/lymphoma. *Blood*. 127(5):596-604. 2016. doi: 10.1182/blood-2015-06-644948.
 74. Farmanbar A, Firouzi S, Park SJ, Nakai K, Uchamaru K, Watanabe T. Multidisciplinary insight into clonal expansion of HTLV-1-infected cells in adult T-cell leukemia via modeling by deterministic finite automata coupled with high-throughput sequencing. *BMC Medical Genomics*, 31;10(1):4. 2017. doi: 10.1186/s12920-016-0241-2.
 75. Robert C. Gallo MD1,4, Luc Willems MD2,4, Hideki Hasegawa MD3,4, and the Members of the Global Virus Network's Task Force on HTLV-1. Screening transplant donors for HTLV-1 and -2. *Blood* 29;128(26):3029-3031. 2016. doi:10.1182/blood-2016-09-739433GVN taskforce member: Accolla R, Bangham C, Bazarbachi A, Bertazzoni U, de Freitas Carneiro-Proietti AB, Cheng H, Chieco-Bianchi L, Ciminale V, Gessain A, Gotuzzo E, Hall W, Harford J, Hermine O, Jacobson S, Macchi B, Cal Macpherson C, Mahieux R, Matsuoka M, McSweeney E, Murphy EL, Péloponèse JM, Reis J, Simon V, Tagaya Y, Taylor GP, Watanabe T, Yamano Y. Willems L, Hasegawa H, Accolla R, Bangham C, Bazarbachi A, Bertazzoni U, de Freitas Carneiro-Proietti AB, Cheng H, Chieco-Bianchi L, Ciminale V, Jordana G. Reis CDR, Esparza J, Gallo RC, Gessain A, Gotuzzo E, Hall W, Harford J, Hermine O, Jacobson S, Macchi B, Macpherson C, Mahieux R, Matsuoka M, Murphy E, Peloponese JM, Simon V, Tagaya Y, Taylor GP, Watanabe T, Yamano Y. Reducing the global burden of HTLV-1 infection: an agenda for research and action. *Antiviral Research* 2016. 10. pii: S0166-3542(16)30625-8. doi: 10.1016/j.antiviral.2016.10.015
 76. Saitoh Y, Hamano A, Mochida K, Kakeya A, Uno M, Tsuruyama E, Ichikawa H, Tokunaga F, Utsunomiya A, Watanabe T, Yamaoka S. A20 targets caspase-8 and FADD to protect HTLV-I infected cells, *Leukemia*. 30:716-27. 2016. doi: 10.1038/leu.2015.267
 77. Tatsuno K, Fujiyama T, Matsuoka H, Shimauchi T, Ito T, Tokura Y: Clinical categories of exaggerated skin reactions to mosquito bites and their pathophysiology. *J Dermatol Sci* 82(3): 145-152, 2016.
 78. Hamada T, Sugaya M, Tokura Y, Ohtsuka M, Tsuboi R, Nagatani T, Tani M, Setoyama M, Matsushita S, Kawai K, Yonekura K, Yoshida T, Saida T, Iwatsuki K: Phase I/II study of the oral retinoid X receptor agonist bexarotene in Japanese patients with cutaneous T-cell lymphomas. *J Dermatol* 2016 (in press).
 79. Suzuki Y, Aoshima M, Fujiyama T, Ito T, Tokura Y: Pityriasis rotunda associated with acute myeloid leukemia. *J Dermatol* 2016.(in press).
 80. 糟谷啓, 戸倉新樹, 橋爪秀夫: 免疫抑制剤とリンパ腫. *日本皮膚科学会雑誌* 126(8) : 1433-1438, 2016.
 81. Sekine M, Kubuki Y, Kameda T, Takeuchi M, Toyama T, Kawano N, Maeda K, Sato S, Ishizaki J, Kawano H, Kamiunten A, Akizuki K, Tahira Y, Shimoda H, Shide K, Hidaka T, Kitanaka A, Yamashita K, Matsuoka H, Shimoda K: Effects of mogamulizumab in adult T-cell leukemia/lymphoma in clinical practice. *Eur J Haematol*. doi:10.1111/ejh.12863.2017

和文書籍

1. 塚崎邦弘: 9. 成人 T 細胞白血病・リンパ腫。レベルアップのためのリンパ腫セミナー

- (日本リンパ網内系学会教育委員会編集, p184-191, (株)南江堂(東京), 2014.
2. 宇都宮與: 成人 T 細胞白血病・リンパ腫(ATL). 白血病と言われたら - 発症間もない患者さんご家族のために - 疾患・治療編. 特定非営利法人全国骨髄バンク推進連絡協議会(東京), p131-139, 2014.
 3. 宇都宮與: [リンパ系腫瘍 F. 成人 T 細胞白血病/リンパ腫(ATL)] ATL の治療方針. EBM 血液疾患の治療 2015-2016 (金倉謙・木崎昌弘・鈴木律朗・神田善伸編集), (株)中外医学社(東京), p 309-313, 2014.
 4. 飛内 賢正, 木下 朝博, 塚崎 邦弘 編: 悪性リンパ腫治療マニュアル 改訂第 4 版 P300-304, 315-318, 南江堂 (東京), 2015.
 5. 塚崎邦弘: インターフェロン α 皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人 T 細胞白血病リンパ腫(症状を有するくすぶり型または予後不良因子を有さない慢性型のものに限る)・がん先進医療 NAVIGATION (先進医療フォーラム編集), p23-26, (株)日本医学出版(東京), 2015.
 6. 金澤 一朗, 永井 良三 編: 今日の診断指針第 7 版・塚崎 邦弘 成人 T 細胞・リンパ腫 (ATL), P1143-1145, (株)医学書院(東京), 2015.
 7. 今泉芳孝: C. 成人 T 細胞白血病リンパ腫 1) VCAP-AMP-VECP 療法 (mLSF15 療法)、悪性リンパ腫治療マニュアル(飛内賢正・木下朝博・塚崎邦弘編), p 266-269, (株)南江堂(東京), 2015.
 8. 野坂 生郷. ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型 (HTLV-1) 感染症. 別冊日本臨床免疫症候群 (第 2 版) II. : p710-714, 日本臨床社, 2016.1
 9. 鈴木雄造, 伊藤薫樹: おもながんの標準治療 悪性リンパ腫. 白瀧公敏編. がんと歯科治療. デンタルダイヤモンド社. pp124-127, 2015
- 総説
1. 石田高司, 伊藤旭, 戸倉新樹, 田中淳司, 鵜池直邦, 飛内賢正, 塚崎邦弘: [血液内科医・皮膚科医のための統合 ATL 診療ガイドライン解説書 2014] 臨床血液 55(11):2257-2261, 2014.
 2. 北野滋久, 塚崎邦弘: [免疫療法の逆襲を現実化した免疫 check point の修飾] Treg による免疫反応の制御と immune checkpoint による免疫修飾の違い. 血液内科 14(5):469-474, 2014.
 3. 塚崎邦弘: [プロからプロへ: 臨床各科の一线医師同士が日常診療の疑問点を検証] 初発進行性濾胞性リンパ腫の治療方針. 日本医事新報 4725:54-55, 2014.
 4. 塚崎邦弘: [血液腫瘍に対する臨床試験の infrastructure- 現状の問題点と今後の方向性] リンパ系腫瘍患者に対する JCOG リンパ腫グループによる研究: 過去, 現在, 将来. 血液内科 69(1):26-37, 2014.
 5. 上田裕二郎, 塚崎邦弘: 慢性リンパ性白血病の新たな治療戦略について. 血液内科 68(5):650-656, 2014.
 6. 根津雅彦, 塚崎邦弘: [内科疾患 最新の治療 明日への指針] 第 9 章 血液 成人 T 細胞白血病・リンパ腫. 内科 113(6):1508-1509, 2014.
 7. 加藤知爾, 矢野友規, 桑田健, 塚崎邦弘: [消化管悪性リンパ腫 2014] 消化管原発 aggressive lymphoma-diffuse large B-cell lymphoma. 胃 DLBCL の診断と治療 (臨床試験に基づく治療). 胃と腸 49(5):720-728, 2014.
 8. 湯浅博美, 塚崎邦弘: 治療関連急性前骨髄球性白血病の臨床的特徴と治療. 血液内科 68(4):505-509, 2014.
 9. 塚崎邦弘: [抗体によるがん分子標的治療] 臓器別がんに対する抗体療法. 白血病に対する抗体療法. 最新醫學 69(3):69-75, 2014.
 10. 塚崎邦弘: [リンパ腫-検査・診断と治療の最新動向-] .リンパ腫の治療. 成人 T 細胞白血病・リンパ腫. 日本臨床 72(3):531-537, 2014.
 11. 塚崎邦弘: [最新がん薬物療法学-がん薬物療法の最新知見-] .臓器別がんの薬物療法. 慢性骨髄性白血病. 日本臨床 72(2):440-447, 2014.
 12. 宇都宮與, 崔日承, 鵜池直邦: ATL に対する同種造血幹細胞移植と細胞療法に関する研究の現状. 血液内科 68(1):51-7, 2014.
 13. 井上由紀子, 岩永正子ほか.: [HTLV-1 キャリアが産生するウイルス構造蛋白質に対する抗体と末梢血中のプロウイルス量に関する解析. 日本輸血細胞治療学会誌 60(6):592-99, 2014.
 14. 塚崎 邦弘: [ATL に対する lenalidomide の有効性と今後の臨床開発] 特集リンパ系腫瘍に対するさらなる新薬開発と国内外の診療, 血液内科 71(1):64-73, 2015.
 15. 野坂 生郷. ATLL の進歩. 血液内科 第 71 巻 2 号 : p250-255, 2015.8
 16. 塚崎 邦弘 : [Hematologic Malignancies/Pediatric Malignancies 血液・リンパ系腫瘍造血器腫瘍における新規薬剤-分子標的薬-とその位置付け] .モガムリズマブ ATL と PTCL-. 癌と化学療法. 42(5):553-557, 2015.
 17. 石塚賢治, 山野嘉久, 内丸薫, 宇都宮與: HTLV=1 キャリア外来の実態調査. 臨床血液 56(6):666-672, 2015

18. 加藤文晴、今泉芳孝、宮崎泰司：疾患と検査値の推移 成人 T 細胞白血病・リンパ腫、検査と技術、**43(7):606-613**
19. 藤島行輝、伊藤薫樹：プリンアナログ。抗がん剤の副作用と支持療法。 **73(2), pp149-153,2915**
20. Younes A, Ansell S, Fowler N, Wilson W, de Vos S, Seymour J, Advani R, Forero A, Morschhauser F, Kersten MJ, Tobinai K, Zinzani PL, Zucca E, Abramson J, Vose J: The landscape of new drugs in lymphoma. *Nat Rev Clin Oncol*, Published online: 29 December 2016. doi:10.1038/nrdclinonc.2016.205.
21. Makita S, Tobinai K: Clinical features and current optimal management of NK/T-cell lymphoma. *Hematology/Oncology Clinics of North America*, Published online: January 30, 2017.
22. 岩永正子：【特集：成人 T 細胞白血病（ATL）研究の現状】1. HTLV-1 感染症の疫学とコホート研究。血液フロンティア **26 (4): 21-28, 2016**
23. 岩永正子：[生涯教育シリーズ] HTLV-1 感染症。長崎市医師会報 **592 (6): 30-36, 2016**
24. 石塚 賢治【造血器腫瘍のゲノム/エピゲノム解析研究と免疫/分子標的療法の進歩】成人 T 細胞白血病・リンパ腫におけるゲノム解析と免疫/分子標的療法、血液内科 **73 巻 5 号, 612-616, 2016**
25. 石塚 賢治【低悪性度血液腫瘍に対する無治療経過観察と合理的な治療介入基準】くすぶり型・慢性型成人 T 細胞白血病・リンパ腫に対する無治療経過観察と合理的な治療介入基準、血液内科 **73 巻 1 号, 46-51, 2016**

Invited lecture at the 2014 Annual Meeting of Chinese Society of Clinical Oncology & 17th Chinese National Clinical Oncology Conference, Xiamen, China, 2014.

3. Tobinai K: Clinical research on T-cell lymphoma in Japan. Keynote address, T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, 2015.
4. Tobinai K, et al.: Phase II study of darinaparsin in Asian patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, 2015.
5. Tobinai K, et al.: Ancillary analyses of a phase II study of mogamulizumab (KW-0761) in patients with CCR4-positive, relapsed peripheral or cutaneous T-cell lymphomas. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, 2015.
6. Tokunaga M, Nakano N, Kubota A, Tokunaga M, Itoyama T, Makino T, Takeuchi S, Takatsuka Y, Utsunomiya A: Prognostic significance of EBMT score and serum soluble IL-2R level on outcomes after allogeneic hematopoietic cell transplantation for adult T-cell leukemia/lymphoma. 40th Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation, Milan, 2014.
7. Takeuchi S, Nakano N, Kubota A, Tokunaga M, Takatsuka Y, Utsunomiya A: EBMT score only predicts day 100 overall survival and overall survival after allogeneic stem cell transplantation in adult T-cell leukemia/lymphoma patients. 40th Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation, Milan, 2014.
8. Nakano N, Kubota, Tokunaga M, Takeuchi S, Takatsuka Y, Utsunomiya A: Efficacy and feasibility of umbilical cord blood transplantation with myeloablative non-TBI conditioning regimen using Flu180/ivBU12.8/Mel80 for adult patients with advanced hematological diseases. 40th Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation, Milan, 2014.
9. Yamagishi M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K,

学会発表（2016年4月～2017年3月）

国際学会

1. Tobinai K: Screening for and management of hepatitis B virus reactivation in patients treated with anti B-cell therapy. In the Education Program Session “Viruses and Lymphoma”, the Annual Meeting of the American Society of Hematology, San Francisco, CA, 2014.
2. Tobinai K: Novel treatment of HTLV-1-associated ATL. In Session “Improve standardized treatment level, broaden international perspective”,

- Yamochi Y, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Tsukasaki K, Araki K, Watanabe T: Polycomb-dependent epigenetic landscape in adult T-cell leukemia-lymphoma(ATL); providing proof of concept for targeting EZH1/2. 8th Annual T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco CA USA, January 28-30, 2016 (Oral Presentations, Session 6)
10. Nosaka K, Fujiwara H, Ishida T, Taira N, Abe Y, Imaizumi Y, Moriuchi Y, Jo T, Ishizawa K, Tobinai K, Tsukasaki K, Ito S, Yoshimitsu M, Otsuka M, Ogura M, Midorikawa S, Ruiz W, Ohtsu T. A phase II multicenter study of lenalidomide in patients with relapsed or recurrent adult T-cell leukemia-lymphoma(ATLL-002) 8th Annual T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco CA USA, January 28-30, 2016,(Oral and Poster Presentations, Session6)
 11. Katsuya H, Shimokawa M, Ishitsuka K, Kawai K, Amano M, Utsunomiya A, Hino R, Hanada S, Jo Tatsuro, Tsukasaki K, Shizumiya J, Tamura K. Prognostic index for chronic and smoldering type adult T-cell leukemia/lymphoma. The 77th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology, Ishikawa, Japan, October 16-18, 2015(Oral Session77)
 12. Hiroo, K, Shimokawa M, Ishitsuka K, Kawai K, Amano M, Utsunomiya A, Hino R, Hanada S, Jo T, Tsukasaki K, Moriuchi Y, Sueoka E, Yoshida S, Suzushima H, Miyahara M, Yamashita K, Eto T, Yamanaka T, Suzumiya J, Tamura K. Prognostic index for chronic and smoldering types adult T-cell leukemia/lymphoma. 2015 ASCO Annual Meeting, Chicago, Illinois, U.S.A., May.29-June.2, 2015 .(ポスター)
 13. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Yasunaga J, Iwanaga M, Shiraishi Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Shibata T, Miyano S, Matsuoka M, Shimoda K, Watanabe T, and Ogawa S: Prognostic relevance of integrated genetic profiling in adult T-cell leukemia/lymphoma. Poster Presentation, Abstract #2643, Am Soc Hematol, Orlando, 2015.
 14. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Totoki Y, Yasunaga J, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Matsuoka M, Shibata T, Miyano S, Shimoda K, and Ogawa S: Next-generation sequencing reveal proviral genome and transcriptome in adult T-cell leukemia/lymphoma. Poster Presentation Abstract #3882, Am Soc Hematol, Orlando, 2015.,
 15. Tobinai K: New agents in Japan. Oral Presentation. T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, 2016.
 16. Yamagishi M, Hori M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Ohsugi T, Nakano K, Nakashima M., Kobayashi S, Iwanaga M, Utsunomiya A, Okada S, Tsukasaki K, Tobinai K, Araki K, Watanabe T, Uchimaru K, “Development and Molecular Analysis of Synthetic Lethality By Targeting EZH1 and EZH2 in Non-Hodgkin Lymphomas”, the 58th ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego Convention Center, San Diego, CA, U.S.A., Dec. 4, 2016(Dec. 3-6, 2016) (Oral & Poster) (2016 ASH Abstract Achievement Award)
 17. Yamagishi M, Hori M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Ohsugi T, Nakano K, Nakashima M, Kobayashi S, Iwanaga M, Utsunomiya A, Okada S, Tsukasaki K, Tobinai K, Araki K, Watanabe T, Uchimaru K, “Development and molecular analysis of synthetic lethality by targeting EZH1 and EZH2 in T cell lymphomas”, 9th Annual T-Cell Lymphoma Forum, The Fairmont Hotel, San Francisco, CA, U.S.A., Jan. 28(Jan. 26-28, 2017) (Oral)
 18. Watanabe T, “Polycomb-dependent epigenetic landscape in ATL:proof of concept for targeting EZH1/2”, Malignant Lymphoma Academy 2016, Sehaton Miyako Hotel Tokyo, Tokyo, Aug 6, 2016(Aug. 6-7, 2016) Invited
 19. Tsukasaki K, Tobinai K, Uchida T,

- Maeda Y, Shibayama H, Nagai H, Kurosawa M, Abe Y, Hatake K, Ando K, Yoshida I, Hidaka M, Murayama T, Okitsu Y, Tsukamoto N, Taniwaki M, Suzumiya J, Tamura K, Yamauchi T, Ueda R: Phase 1/2 study of forodesine in patients with relapsed peripheral T-cell lymphoma (PTCL). Poster Presentation, Am Soc Clin Oncol, Chicago, 2016.
20. Ogura M, Maruyama D, Tobinai K, Uchida T, Hatake K, Taniwaki M, Ando K, Tsukasaki K, Ishida T, Kobayashi N, Ishizawa K, Tatsumi Y, Kato K, Kiguchi T, Ikezoe T, Laille E, Ro T, Tamakoshi H, Sakurai S, Ohtsu T: Phase I/II multicenter study of romidepsin in Japanese patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma. Poster Presentation, Am Soc Hematol, San Diego, 2016.
 21. Maruyama D, Tobinai K, Ogura M, Uchida T, Hatake K, Taniwaki M, Ando K, Tsukasaki K, Ishida T, Kobayashi N, Ishizawa K, Tatsumi Y, Kato K, Kiguchi T, Ikezoe T, Laille E, Ro T, Tamakoshi H, Sakurai S, Ohtsu T: Multicenter phase I/II and pharmacokinetic study of romidepsin in Japanese patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma. *British Journal of Haematology*, 2016.
 22. Takeuchi S, Nakano N, Kubota A, Miyazono T, Tokunaga M, Yonekura K, Takatsuka T, Utsunomiya A. A retrospective analysis of prognostic indices at diagnosis for adult T-cell leukemia/lymphoma patients receiving allogeneic stem cell transplantation. 42nd Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation, Valencia, Spain, 3-6 Apr, 2016.(Poster)
 23. Fuji S, Utsunomiya A, et al. Pretransplant Mogamulizumab against ATLL was associated with significantly increased risks of severe/steroid-refractory GVHD, non-relapse mortality and overall mortality: a nationwide survey of patients with aggressive ATLL who underwent allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. 21st Congress of EHA 2016, Copenhagen, Denmark, 9-12 Jun, 2016.
 24. Maeda Y, Tobinai K, Nagai H, Nakane T, Shimoyama T, Nakazato T, Sakai R, Ishikawa T, Izutsu K, Ueda R: Pralatrexate: Phase 1/2 study in Japanese patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma (PTCL). Poster Presentation, Am Soc Hematol, San Diego, 2016.
 25. Onizuka M, Ando K, Yoshimitsu M, Ishida S, Yoshida S, Abe Y, Hidaka M, Takamatsu Y, Nagashima M, Miyazato A, Schupp J, Lee G, Tobinai K: Oral HDAC inhibitor HBI-8000 in Japanese patients with non-Hodgkin's lymphoma: preliminary phase I safety and efficacy results. Poster Presentation, Am Soc Hematol, San Diego, 2016.
 26. Tobinai K: Latest emerging drugs in Asia for T-cell lymphoma. Invited Lecture, T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, 2017.
 27. Tobinai K, Kim WS, Tien HF, Kwong YL, Nagahama F, Sonehara Y: Phase II study of darinaparsin in Asian patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma. Poster Presentation, T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, 2017.
 28. Tobinai K, Nakanishi T: Phase 2 study design of E7777 in Japanese patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma or cutaneous T-cell lymphoma. Poster Presentation, T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, 2017.
 29. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Yasunaga JI, Iwanaga M, Shiraishi Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ken Ishiyama, Miyawaki S, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Shibata T, Miyano S, Matsuoka M, Shimoda K, Watanabe T, Ogawa S: Prognostic Impact of Integrated Genomic Genetic Profiling in Adult T-cell Leukemia/Lymphoma. EHA 2016 (21st European Hematology Association Congress), Copenhagen, Denmark, Jun 9-12, 2016. (Poster Presentation EHA21, June 11, 2016)
 30. Imaizumi Y, Iwanaga M, Nosaka K, Ito S, Ishitsuka K, Atae Utsunomiya, Yoshiaki Tokura, Takeaki Tomoyose, Kazuya Shimoda, Kensei Tobinai, Toshiki Watanabe,

Uchimaru K, Tsukasaki K. Treatment and Prognosis in Patients with Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma (ATL): A Nationwide Survey in Japan. the 58th ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego Convention Center, San Diego, CA, U.S.A (Dec. 3-6, 2016) Abstract presentation, 5936, Blood 128 (22): 2016

31. Nakamura D, Yoshimitsu M, Tabuchi T, Arima N, Hayashida M, Inoue H, Matsushita K, Matsumoto T, Arima N, Ishitsuka K " OPEC/Mpec for Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma: A Single-Institution Study. " Blood 2016 128:1828; the 58th ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego Convention Center, San Diego, CA, U.S.A., Dec. 4, 2016(Dec. 3-6, 2016) (Poster)
32. Sekine M, Kubuki Y, Kameda T, Takeuchi M, Toyama T, Kawano N, Maeda K, Sato S, Ishizaki J, Kawano H, Kamiunten A, Akizuki K, Tahira Y, Shimoda H, Shide K, Hidaka T, Kitanaka A, Yamashita K, Matsuoka H, Shimoda K:Mogamulizumab for adult T-cell leukemia/lymphoma in clinical practice.58th ASH Annual Meeting & Exposition , San Diego , 平成 27 年 12 月 3 日 ~ 6 日 .(口演)

国内学会

1. 上田 裕二郎, 高橋 明子, 浦崎 哲也, 山田 遥子, 和泉 宏昌, 横山 雄章, 石井 源一郎, 湯浅 博美, 根津 雅彦, 伊藤 國明, 塚崎 邦弘: R-CHOP 療法後の二次性 MDS に免疫学的血小板減少性紫斑病を併発しステロイド/リツキシマブ療法が奏効した一例. 第 76 回日本血液学会,大阪,2014 年 10 月 31 日 ~ 11 月 2 日. (ポスター)
2. Takata K, Yamaguchi M, Yoshino T, Ishizuka N, Oguchi M, Kobayashi Y, Isobe Y, Ishizawa K, Kubota N, Itou K, Usui N, Miyazaki K, Utsumi K, Masaki Y, Nosaka K, Fukushima N, Ohmachi K, Shimada K, Morimoto H, Oshimi K, Kinoshita T, Tsukasaki K, Tobinai K : Prognostic biomarkers in patients with localized NK/T-cell lymphoma treated with RT-DeVIC, 第 76 回日本血液学会,大阪,2014 年 10 月 31 日 ~ 11 月 2 日. (口演)
3. Nosaka K, Iwanaga M, Ishizawa K, Ishida Y, Uchimaru K, Ishitsuka

K, Amano M, Ishida T, Imaizumi Y, Uike N, Utsunomiya A, Oshima K, Kawai K, Tanaka J, Tokura Y, Tobinai K, Watanabe T, Tsukasaki K:A nationwide survey of patients with adult T cell leukemia/lymphoma(ATL) in Japan:2010-2011, 第 76 回日本血液学会,大阪,2014 年 10 月 31 日 ~ 11 月 2 日. (口演)

4. Yoshida N, Tsuzuki S, Karube K, Takahara T, Katayama M, Nishikori M, Shimoyama M, Tsukasaki K, Oshima K, Seto M:STX11 is a newly identified tumor suppressor gene in peripheral T-cell lymphomas, 第 76 回日本血液学会,大阪,2014 年 10 月 31 日 ~ 11 月 2 日. (口演)
5. Taniguchi H, Imaizumi Y, Takasaki Y, Kitanosono H, Nakashima J, Kato T, Makiyama J, Ando K, Sawayama Y, Imanishi D, Taguchi J, Hasegawa H, Hata T, Tsukasaki K, Miyazaki Y:Analysis of acute crisis of smoldering and chronic adult T-cell leukemia-lymphoma, 第 76 回日本血液学会,大阪,2014 年 10 月 31 日 ~ 11 月 2 日. (口演)
6. Tsukasaki K : Development of Anti-CCR4 Antibody for ATL and its Activity for Treg Inhibition. Session, 32nd World Congress of Internal Medicine, 2014. Seoul Oct.24-28, 2014.
7. Yoshida N, Tsuzuki S, Karube K, Takahara T, Katayama M, Nishikori M, Shimoyama M, Tsukasaki K, Oshima K, Seto M:Identification of STX11 as a tumor suppressor gene in peripheral T-cell lymphomas.第 73 回日本癌学会学術総会,横浜,2014 年 9 月 25 日~27 日.(英語口演)
8. 古田 裕幸, 根津 雅彦, 松井 礼子, 上田 裕二郎, 浦崎 哲也, 岡村 直香, 横山 雄章, 和泉 宏昌, 山田 遥子, 湯浅 博美, 伊藤 國明, 塚崎 邦弘, 齊藤 信一郎:ステロイド先行使用のリツキシマブ輸注反応に対する有用性の検討.第 52 回癌治療学会,横浜,2014 年 8 月 28~30 日.(口演)
9. 新野 大介, 谷口 広明, 今泉 芳孝, 佐々木 大介, 長谷川 寛雄, 三好 寛明, 郭 英, 加藤 丈晴, 柳原 克紀, 塚崎 邦弘, 宮崎 泰司, 大島 孝一:成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)における MALT1 発現と予後

- との関係.第 1 回日本 HTLV-1 学会,東京,2014 年 8 月 22~24 日.(ポスター)
10. 岡村直香,上田裕二郎,根津雅彦,湯浅博美,伊藤國明,石井源一郎,塚崎邦弘:モガムリズマブ 2 回目の点滴後に多形滲出性紅斑様の薬疹をきたした難治性 ATL の一例.第 1 回日本 HTLV-1 学会,東京,2014 年 8 月 22~24 日.(ポスター)
 11. **Tsukasaki K** : **New treatment modalities for ATL** . 第 12 回日本臨床腫瘍学会学術集会 (ワークショップ **Progress in basic research and treatment for ATL / ATL 基礎と治療の進歩**),福岡,2014 年 7 月 17 日~19 日.(口演)
 12. 吉田稚明,都築忍,加留部謙之輔,高原大志,錦織桃子,下山正徳,大島孝一,塚崎邦弘,瀬戸加大: **STX11 は T 細胞性腫瘍特異的ながん抑制遺伝子である**. 第 54 回日本リンパ網内系学会,山形,2014 年 6 月 19~21 日.(優秀演題口演)
 13. 山田遥子,根津雅彦,岡村直香,湯浅博美,伊藤國明,小嶋基寛,石井源一郎,塚崎邦弘:致死的腫瘍崩壊症候群 (TLS) を来し M 蛋白血症を伴う IgH/c-MAF 転座陽性の B 細胞腫瘍の一例.第 54 回日本リンパ網内系学会,山形,2014 年 6 月 19~21 日.(ポスター)
 14. 永井宏和,小椋美知則,塚崎邦弘,上田龍三へ飛内賢正:再発・難治性の日本人末梢性 T 細胞リンパ腫(PTCL)患者を対象とするフォロデシンの第 I/II 相臨床試験.第 54 回日本リンパ網内系学会,山形,2014 年 6 月 19~21 日.(ポスター)
 15. 丸山大,永井宏和,前田嘉信,塚崎邦弘,上田龍三,飛内賢正:再発・難治性の日本人末梢性 T 細胞リンパ腫(PTCL)患者を対象とした pralatrexate の第 I/II 相臨床試験. 第 54 回日本リンパ網内系学会,山形,2014 年 6 月 19~21 日.(ポスター)
 16. **飛内賢正** : **HTLV-1 と ATL / Human T-lymphotropic virus type-I and adult T-cell leukemia-lymphoma**. 第 112 回日本内科学会総会・講演会シンポジウム 2 : ウイルス感染と腫瘍 : HTLV-1 と ATL . / **Human T-lymphotropic virus type-I and adult T-cell leukemia-lymphoma**. シンポジウム 2. 京都, 2015.
 17. **Tobinai K**: **Clinical trials for T/NK-cell lymphomas in Japan**. **International Symposium " Science-based Management of Malignant Lymphoma."** 第 13 回日本臨床腫瘍学会、札幌、2015.
 18. **Tobinai K**: **Disease-oriented treatment of T/NK-cell lymphoma**. **Symposium 4: Progress in the diagnosis and treatment for intractable lymphomas**. 日本血液学会、金沢、2015.
 19. 野坂生郷、岩永正子、石澤賢一、石田陽治、内丸薫、石塚賢治、石田高司、今泉芳孝、伊藤薫樹、宇都宮與、戸倉新樹、飛内賢正、渡邊俊樹、塚崎邦弘 : 第 11 次 ATL 全国実態調査報告 . 第 2 回日本 HTLV-1 学会学術集会、東京、平成 27 年 8 月 21 日~23 日 . (口演)
 20. **Tatsuno K, Tokura Y**: **Expression levels of Tumor suppressor in lung cancer 1 / Cell adhesion molecule 1 (CADM1) in various cutaneous T cell lymphoma**. **EORTC Cutaneous Lymphoma Task Force Meeting, Turin, Italy. Sep.25-27, 2015**. (口演)
 21. 戸倉新樹 : 皮膚リンパ腫の臨床 . 第 17 回静岡がん治療フォーラム 浜松 . 2015 年 4 月 2 日 . (講演)
 22. 中島潤、谷口広明、今泉芳孝、牧山純也、加藤文晴、松尾真稔、佐藤信也、澤山靖、田口潤、波多智子、吉田真一郎、森内幸美、宮崎泰司 : Mogamulizumab for relapsed/refractory adult T-cell leukemia-lymphoma in clinical practice. 第 77 回日本血液学会,金沢,2015 年 10 月 16 日~10 月 18 日. (口演)
 23. 伊藤旭、崔日承、宇都宮與、今泉芳孝、野坂生郷、宮崎泰彦、城達郎、石塚賢治、森内幸美、日高道弘、楠本茂、上田龍三、石田高司 : Mogamulizumab for ATL -interim report of the MIMOGA study-. 第 77 回日本血液学会,大金沢,2015 年 10 月 16 日~10 月 18 日. (口演)
 24. **Mihara K, Yoshida T, Kitanaka A, Shimoda K, Morishita Y, Takihara Y, Ichinohe T** : **T cell expressing anti-CD38 chimeric antigen receptor eliminate ATL cells treated with ATRA and IFN**. 第 77 回日本血液学会学術集会,金沢市,2015.(一般講演)
 25. **Kamiunten A, Akizuki K, Sekine M,**

- Kameda T, Shimoda H, Shide K, Hidaka T, Kubuki Y, Kitanaka A, Yamashita K, Matsuoka H, Kawano H, Toyama T, Maeda M, Sato S, Ishizaki J, Shimoda K : Validation of the Japan Clinical Oncology Group prognostic index (JCOG-PI) in clinical practice.** 第77回日本血液学会学術集会,金沢市, 2015. (一般講演)
26. Yamagishi M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Tsukasaki K, Araki K, Watanabe T. Polycomb-Dependent Epigenetic Landscape in Adult T Cell Leukemia (ATL); Providing Proof of Concept for Targeting EZH1/2 to Selectively Eliminate the HTLV-1 Infected Population. (Oral) 57th ASH Annual Meeting & Exposition, December 5~8, 2015, Orlando, FL, USA, Blood 126 (23):572, 2015.
27. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Yasunaga JI, Iwanaga M, Shiraishi Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Shibata T, Miyano S, Matsuoka M, Shimoda K, Watanabe T, Ogawa S. Prognostic Relevance of Integrated Genetic Profiling in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma“. (Poster) 57th ASH Annual Meeting & Exposition, December 5-8, 2015, Orlando, FL, USA, Blood 126 (23):2643, 2015
28. Nosaka K, Iwanaga M, Ishizawa K, Yoji Ishida, Uchimaru K, Ishitsuka K, Amano M, Ishida T, Imaizumi Y, Uike N, Utsunomiya A, Ohshima K, Kawai K, Tanaka J, Tokura Y, Tobinai K, Watanabe T, Tsukasaki K. Current Clinico-Epidemiological Characteristics of Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma (ATL) Based on the 11th Nationwide Survey in Japan. (Publication only) 57th ASH Annual Meeting & Exposition, December 5-8, 2015, Orlando, FL, USA, Blood 126 (23):5034, 2015.
29. 山岸 誠、片野晴隆、比島恒和、太田泰徳、岡田誠治、渡邊俊樹、Epigenetically programmed defenseless signaling in malignant lymphoma、第77回日本血液学会学術集会、ホテル日航金沢、金沢、2015年10月18日(2015年10月16日~18日) (口演)
30. 堀真琴、山岸誠、藤川大、中川翔太、中野和民、田中勇悦、小林誠一郎、宇都宮與、内丸薫、渡邊俊樹、「ATL細胞特異的なエピゲノム異常を制御する EZH2 の質的、量的変化」、第2回日本 HTLV-1 学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22-23日(2015年8月21日~8月23日) (ポスター)
31. 藤川大、山岸誠、堀真琴、中野和民、田中勇悦、小林誠一郎、宇都宮與、内丸薫、渡邊俊樹、「ATL細胞における EZH2 依存的なエピゲノム異常とその原因メカニズムの解析」、第2回日本 HTLV-1 学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日) (Young Investigator Award 口演)
32. 片岡圭亮、永田安伸、北中明、白石友一、島村徹平、安永純一郎、十時泰、宮崎泰司、高折晃史、油谷浩幸、渡邊俊樹、柴田龍弘、松岡雅雄、宮野悟、下田和哉、小川誠司、「Integrative molecular analysis of viral and host genome in ATL」、第2回日本 HTLV-1 学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日) (口演)
33. 野坂生郷、岩永正子、石澤賢一、石田陽治、内丸薫、石塚賢治、石田高司、今泉芳孝、伊藤薫樹、宇都宮與、戸倉新樹、飛内賢正、渡邊俊樹、塚崎邦弘：第11次 ATL 全国実態調査報告。第2回日本 HTLV-1 学会学術集会、東京、平成27年8月21日~23日。(口演)
34. **Jo T, Ishida T, Fujiwara H, Nosaka K, Taira N, Abe Y, Imaizumi Y, Moriuchi Y, Ishizawa K, Tobinai K, Tsukasaki K, Ito S, Yoshimitsu M, Otsuka M, Ogura M, Midorikawa S, Ruiz W, Ohtsu T: ATLL-002: A phase 2 study of lenalidomide in relapsed/recurrent adult T-cell leukemia-lymphoma. Oral Presentation, Jpn Soc Hematol, Yokohama, 2016.**
35. 宇都宮與、ATLにおける造血幹細胞移植療法。第32回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会シンポジウム、平成28年5月

- 27日~28日,かごしま県民交流センター,鹿児島市.(口演)中島誠,矢持忠徳,渡邊真理子,内丸薫,宇都宮與,東原正明,渡邊俊樹,堀江良一.成人T細胞白血病におけるCD30陽性細胞集団に高倍数体細胞は出現する.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月27日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
36. 山岸誠,澤礼乃,藤川大,堀真琴,中野和民,宇都宮與,渡邊俊樹,内丸薫.成人T細胞白血病(ATL)の遺伝子翻訳異常とその意義.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月27日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
37. 吉満誠,田野崎隆二,加藤公次,石田高司,崔日承,高塚祥芝,福田隆浩,衛藤徹也,日高道弘,内田直之,宮本俊浩,阿部康信,一戸辰夫,高梨美乃子,熱田由子,宇都宮與.ATL同種移植における各種リスクスコアの有用性の検討-JSHCT ATL ワーキンググループ.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月27日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
38. 藤重夫,山口拓洋,井上明威,宇都宮與,森内幸美,内丸薫,花田修一,宮城敬,田口潤,崔日承,大塚英一,仲地佐和子,山本久史,黒澤彩子,飛内賢正,福田隆浩.70歳以下アグレッシブATL患者の予後予測モデルに関する検討.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月27日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
39. 崔日承,宮崎泰彦,森内幸美,長藤宏司,日高道弘,中前博久,下川元継,渡辺信和,高塚祥芝,谷口修一,宇都宮與,末廣陽子,福田隆浩,神奈木真理,岡村純,鷓池直邦.成人T細胞白血病リンパ腫に対する骨髄非破壊的移植前処置を用いた非血縁臍帯血移植の多施設共同研究.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月27日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
40. 垣添有佳,福山美智子,中野伸亮,窪田歩,徳永雅仁,宮園卓宜,竹内昇吾,高塚祥芝,宇都宮與.50-70歳のATL患者における治療介入時から1年時点での一般状態-移植群vs非移植群の検討-.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月27日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
41. 徳永雅仁,米倉健太郎,中村大輔,原口浩一,田淵智久,中野伸亮,窪田歩,井上大栄,竹内昇吾,高塚祥芝,花田修一,松元正,吉満誠,石塚賢治,宇都宮與.ATL患者に対するモルムリス
- マブ単剤両方の皮膚障害と抗腫瘍効果の検討.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月27日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
42. 高起良,片山貴子,岩永正子,相良康子,日野雅之,内丸薫,浜口功,宇都宮與,渡邊俊樹.関西地区でのHTLV-1感染者コホート(JSPFAD)におけるHTLV-1水平感染キャリアの解析.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月28日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
43. 吉森みゆき,切手康加,西垂水和隆,登美奈子,福盛貴子,高塚祥芝,宇都宮與.当院におけるHTLV-1感染者の針刺し皮膚粘膜曝露後のフォローアップ.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月28日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
44. 松尾美沙希,宮里パオラ,宇都宮與,野坂生郷,佐藤賢文.HTLV-1プロウイルス内エンハンサーの分子メカニズム解析.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月28日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
45. 中野和民,宇都宮與,山口一成,内丸薫,渡邊俊樹.Proto-oncogene MYB発現異常によるc-Myb経路攪乱がATL細胞悪性化形質を規定する.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月28日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
46. 中武彩子,阪本訓代,須藤幸夫,西方一朗,中畑新吾,武本重毅,岩永正子,相良康子,天野正宏,前田宏一,末岡栄三朗,岡山昭彦,宇都宮與,下田和哉,渡邊俊樹,森下和広.AlphaLISA法を用いた血中可溶性CADM1測定系の開発とATLの診断応用への検討.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月28日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
47. 石垣知寛,田矢祐規,山崎聡,小林誠一郎,中野伸亮,大野伸広,宇都宮與,内丸薫,東條有伸,中内啓光.In-Vitro/In-Vivoモデルを用いた成人T細胞白血病(ATL)におけるアミノ酸依存性の同定.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月28日,鹿児島県市町村自治会館,鹿児島市.(口演)
48. 武清孝弘,堂園浩一朗,三石敬之,奈良聡一郎,村山芳博,中野伸亮,窪田歩,徳永雅仁,竹内昇吾,高塚祥芝,宇都宮與.ATL患者における同種造血幹細胞移植前後の身体機能・筋肉量変化-他の疾患との比較-.第3回日本HTLV-1学会学術集会,2016年8月28

- 日, 鹿児島県市町村自治会館, 鹿児島市。(ポスター)
49. 中野伸亮, 高塚祥芝, 窪田歩, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 竹内昇吾, 徳永真弓, 牧野虎彦, 宇都宮與. マルチカラーフローサイトメトリーを利用した、同種移植前後におけるモガムリズマブ使用の治療戦略. 第3回日本HTLV-1学会学術集会, 2016年8月28日, 鹿児島県市町村自治会館, 鹿児島市。(ポスター)
 50. 宮園卓宜, 中野伸亮, 窪田歩, 徳永雅仁, 竹内昇吾, 高塚祥芝, 宇都宮與. 中枢神経(CNS)浸潤がみられ同種造血幹細胞移植を施行した成人T細胞性白血病. 第3回日本HTLV-1学会学術集会, 2016年8月28日, 鹿児島県市町村自治会館, 鹿児島市。(ポスター)
 51. 佐藤妃映, 岡剛史, 神農陽子, 鷲尾佳奈, 村上一郎, 大内田守, 宇都宮與, 吉野正. 成人T細胞白血病/リンパ腫(ATL)におけるDNA異常メチル化と予後との関連について. 第3回日本HTLV-1学会学術集会, 2016年8月28日, 鹿児島県市町村自治会館, 鹿児島市。(ポスター)
 52. 山岸誠, 藤川大, 大杉剛生, 堀真琴, 中野和民, 小林誠一郎, 岩永正子, 宇都宮與, 内丸薫, 渡邊俊樹. エピジェネティクスを基盤とした成人T細胞白血病の新たな治療戦略. 第75回日本癌学会学術総会, 2016年10月6日, パシフィコ横浜, 横浜市。(口演)
 53. 中野和民, 田部亜季, 仲木戸誠, 千原庸平, 小林誠一郎, 田中勇悦, 宇都宮與, 津本浩平, 内丸薫, 渡邊俊樹. FoxM1とc-Myb間の相乗的活性化ループがATL細胞の悪性化形質を規定する. 第75回日本癌学会学術総会, 2016年10月7日, パシフィコ横浜, 横浜市。(口演)
 54. 村岡賢, 内丸薫, 宇都宮與, 山野嘉久, 稲田幸嗣. 成人T細胞白血病に対する治療標的の同定. 第75回日本癌学会学術総会, 2016年10月8日, パシフィコ横浜, 横浜市。(口演)
 55. Yamagaishi M, Fujikawa D, Ohsugi T, Honma D, Adachi N, Hori M, Nakagawa S, Nakano K, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Tsukasaki K, Araki K, Uchimaru K, Watanabe T. Epigenetic landscape in adult T cell leukemia-lymphoma (ATL); proof of concept for targeting EZH1/2. 第78回日本血液学会学術集会, 2016年10月13日, パシフィコ横浜, 横浜市。(口演)
 56. Nakashima M, Yamochi T, Watanabe M, Utsunomiya A, Higashihara M, Uchimaru K, Watanabe T, Horie R. The emergence of hyperploid cells CD30+ subpopulation of adult T-cell leukemia. 第78回日本血液学会学術集会, 2016年10月13日, パシフィコ横浜, 横浜市。(ポスター)
 57. 松尾美沙希, 宮園パオラ, 宇都宮與, 野坂生郷, 佐藤賢文. HTLV-1プロウイルス内エンハンサーの分子メカニズム解析. 第78回日本血液学会学術集会, 2016年10月14日, パシフィコ横浜, 横浜市。(ポスター)
 58. Imaizumi Y, Iwanaga M, Nosaka K, Ito S, Ishitsuka K, Utsunomiya A, Tokura Y, Tomoyose T, Shimoda K, Tobinai K, Watanabe T, Uchimaru K, Tsukasaki K. Nationwide survey of ATL in Japan on the prognosis and therapeutic interventions. 第78回日本血液学会学術集会, 2016年10月15日, パシフィコ横浜, 横浜市。(口演)
 59. Choi I, Miyazaki Y, Moriuchi Y, Nagafuji K, Hidaka M, Nakamae H, Kato K, Eto T, Shigematsu A, Shimokawa M, Watanabe N, Fukushima T, Wake A, Takatsuka Y, Uchida N, Taniguchi S, Utsunomiya A, Suehiro Y, Fukuda T, Okamura J. A feasibility study of cord blood cell transplantation for adult T cell leukemia/lymphoma. 第78回日本血液学会学術集会, 2016年10月15日, パシフィコ横浜, 横浜市。(口演)
 60. Kato K, Fukuda T, Kamimura T, Choi I, Taguchi J, Utsunomiya A, Fujisawa H, Moriuchi Y, Kiguchi T, Takahashi T, Inoue Y, Shima T, Yoshimoto G, Sugio T, Miyawaki K, Miyamoto T, Miyazaki Y, Harada M, Akashi K. Mogamulizumab use after allogeneic stem cell transplantation; Prospective observational study. 第78回日本血液学会学術集会, 2016年10月15日, パシフィコ横浜, 横浜市。(口演)
 61. Nakano N, Kubota A, Tokunaga M, Miyazono T, Tokunaga M, Makino T, Takeuchi S, Takatsuka Y, Utsunomiya A. Treatment strategy with multi-colored flow cytometry when using mogamulizumab before and after HSCT. 第78回日本血液学会学術集会, 2016年10月15日, パシフィコ横浜, 横浜市。(口演)

62. 今泉芳孝、岩永正子、野坂生郷、伊藤薫樹、石塚賢治、宇都宮與、戸倉新樹、友寄毅昭、下田和哉、飛内賢正、渡邊俊樹、内丸薫、塚崎邦弘: **Nationwide survey of ATL in Japan on the prognosis and therapeutic interventions.** 第78回日本血液学会学術集、横浜、平成28年10月13日~15日。(口演)
63. 谷口広明、今泉芳孝、加藤丈晴、田口正剛、糸永英弘、新野大介、森内幸美、宮崎泰司: **Clinical analysis of adult T-cell leukemia-lymphoma with primary extranodal lesion.** 第78回日本血液学会学術集、横浜、平成28年10月13日~15日。
64. 越智陽太郎、片岡圭亮、永田安伸、北中明、安永純一朗、岩永正子、白石友一、眞田昌、吉里哲一、吉田健一、野坂生郷、菱澤方勝、糸永英弘、今泉芳孝、棟方理、幣光太郎、久富木庸子、日高智徳、亀田拓郎、中牧剛、石山謙、宮脇修一、飛内賢正、宮崎泰司、高折(近藤)晃史、柴田龍弘、宮野悟、松岡雅雄、下田和哉、渡邊俊樹、小川誠司: **Prognostic relevance of integrated molecular profiling in adult T-cell leukemia/lymphoma.** 第78回日本血液学会学術集、横浜、平成28年10月13日~15日。
65. 片岡圭亮、白石友一、武田洋平、坂田征士、松本美佐子、永野誠治、前田卓也、永田安伸、北中明、吉田健一、眞田昌、糸永英弘、今泉芳孝、棟方理、幣光太郎、久富木庸子、日高智徳、亀田拓郎、柏瀬貢一、伊豆津宏二、高折(近藤)晃史、宮崎泰司、高橋智、柴田龍弘、河本宏、赤塚美樹、下田和哉、竹内賢吾、瀬谷司、宮野悟、小川誠司: **Aberrant PD-L1 expression via 3'-UTR disruption in aggressive lymphomas.** 第78回日本血液学会学術集、横浜、平成28年10月13日~15日。
66. Jo T, Ishida T, Fujiwara H, Nosaka K, Taira N, Abe Y, Imaizumi Y, Moriuchi Y, Ishizawa K, Tobinai K, Tsukasaki K, Ito S, Yoshimitsu M, Otsuka M, Ogura M, Midorikawa S, Ruiz W, Ohtsu T: **ATLL-002: A phase 2 study of lenalidomide in relapsed/recurrent adult T-cell leukemia-lymphoma.** 第78回日本血液学会学術集、横浜、平成28年10月13日~15日。
67. 鳥山愛生、今泉芳孝、谷口広明、中島潤、糸永英弘、佐藤信也、澤山靖、田口潤、波多智子、宮崎泰司: **EPOCH regimen as salvage therapy for adult T-cell leukemia-lymphoma.** 第78回日本血液学会学術集、横浜、平成28年10月13日~15日。
68. 千綿雅彦、今泉芳孝、牧山純也、中島潤、谷口広明、松尾真稔、糸永英弘、佐藤信也、澤山靖、田口潤、波多智子、宮崎泰司: **Long-term survivors with aggressive ATL at Nagasaki University Hospital.** 第78回日本血液学会学術集、横浜、平成28年10月13日~15日。
69. 中島潤、今泉芳孝、谷口広明、牧山純也、北之園英明、加藤丈晴、松尾真稔、佐藤信也、澤山靖、田口潤、波多智子、吉田真一郎、森内幸美、宮崎泰司: **Mogamulizumab for adult T-cell leukemia-lymphoma in clinical practice.** 第78回日本血液学会学術集、横浜、平成28年10月13日~15日。
70. 三好寛明、喜安純一、加藤丈晴、吉田稚明、下埜城嗣、横山新太郎、谷口広明、加藤光次、今泉芳孝、瀬戸加大、大島孝一: **Adult T-cell leukemia/lymphoma(ATLL)におけるPD-L1発現に関する臨床病理学的検討.** 第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島、平成27年8月26日~28日。(口演)
71. 中島潤、今泉芳孝、北之園英明、加藤丈晴、谷口広明、牧山純也、佐々木大介、鶴田一人、長谷川寛雄、吉田真一郎、森内幸美、柳原克紀、宮崎泰司: **Mogamulizumab 投与後の再発・再燃ATL症例におけるCCR4発現の検討.** 第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島、平成27年8月26日~28日。(ポスター)
72. 坂本光、今泉芳孝、松尾江美、糸永英弘、佐藤信也、澤山靖、田口潤、波多智子、早田央、宮崎泰司: **ニューモシスチス肺炎で発症した慢性B型肝炎合併くすぶり型ATL.** 第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島、平成27年8月26日~28日。(ポスター)
73. Ogura M, Uchida T, Ando K, Ohmachi K, Tobinai K, Maruyama D, Nakanishi T, Namiki M: **Phase I study of E7777 in patients with relapsed/refractory peripheral or cutaneous T-cell lymphoma.** Oral Presentation, Jpn Soc Hematol, Yokohama, 2016.
74. Ochi Y, Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Yasunaga J, Iwanaga

- M, Shiraiishi Y, Sanaga M, Yoshizato T, Yoshida K, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Tobinak K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Shibata T, Miyano S, Matsuoka M, Shimoda K, Watanabe T, Ogawa S: Prognostic relevance of integrated molecular profiling in adult T-cell leukemia/lymphoma. Oral session 14: OS-1-66, 2016年10月13日(木) 9:00-10:00, パシフィコ横浜, 78th JSH (日本血液学会), Abstract: Jpn J Clin Hematol (臨床血液), 57 (9):284.**
75. **Yamagishi M, Fujikawa D, Ohsugi T, Honma D, Adachi N, Hori M, Nakagawa S, Nakano K, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Tsukasaki K, Araki K, Uchimaru K, Watanabe T: Epigenetic landscape in adult T-cell leukemia-lymphoma (ATL); proof of concept for targeting EZH1/2. Oral session 14: OS-1-68, 2016年10月13日(木) 9:00-10:00, パシフィコ横浜, 78th JSH (日本血液学会), Abstract: Jpn J Clin Hematol (臨床血液), 57 (9):285.**
76. **Imaizumi Y, Iwanaga M, Nosaka K, Ito S, Ishitsuka K, Utsunomiya A, Tokura Y, Tomoyose T, Shimoda K, Tobinai K, Watanabe T, Uchimaru K, Tsukasaki K: Nationwide survey of ATL in Japan on the prognosis and therapeutic interventions. Oral session 100: OS-3-151, 2016年10月15日(土)13:20-14:20, パシフィコ横浜, 78th JSH (日本血液学会), Abstract: Jpn J Clin Hematol (臨床血液), 57 (9):436.**
77. 越智陽太郎, 片岡圭亮, 永田安伸, 北中明, 安永純一郎, 岩永正子, 白石, 千葉, 佐藤, 真田, 田中, 鈴木, 佐藤, 塩沢, 吉里, 吉田, 野坂生郷, 菱澤, 今泉芳孝, 日高, 中牧, 宮脇, 飛内, 宮崎泰司, 高折晃史, 柴田, 宮野, 下田和哉, 松岡雅雄, 渡邊俊樹, 小川誠司: 成人 T 細胞白血病・リンパ腫における全遺伝子プロファイルと予後の相関 (Prognostic Relevance of Integrated Molecular Profiling in Adult T-cell Leukemia/lymphoma). Japanese Oral session J14-2: Urological tumor and genome analysis, 第 75 回日本癌学会学術総会: Program p.66: 演題番号 J-1029, 2016年10月6日(木) 9:00-10:15, パシフィコ横浜
78. **Yamagichi M, Fujikawa D, Ohsugi T, Hori M, Nakano K, Kobayashi S, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Watanabe T: Epigenetic-basis synthetic lethality for the therapy of adult T-cell leukemia-lymphoma (ATL). English Oral Session E9-1: Epigenetic treatment, 第 75 回日本癌学会学術総会: Program p.87, 演題番号 E-1116, 2016年10月6日(木)14:05-15:20, パシフィコ横浜**
79. 越智陽太郎, 片岡圭亮, 永田安伸, 北中明, 安永純一郎, 岩永正子, 野坂生郷, 糸永英弘, 今泉芳孝, 幣光太郎, 宮崎泰司, 高折晃史, 下田和哉, 松岡雅雄, 渡邊俊樹, 小川誠司: ATL における網羅的遺伝子プロファイルが予後に与える影響の解析: 第 3 回日本 HTLV-1 学会学術集会: プログラム・抄録集 p.57: 演題番号 O-23, 2016年8月27日, 鹿児島県市町村自治会館
80. 桐原志保美, 板垣亮里, 岩永正子, 新野大介: 長崎大学病院における悪性リンパ腫の病理学的検討 2006-2015: ATL の割合トレンド: 第 3 回日本 HTLV-1 学会学術集会: プログラム・抄録集 p.83: 演題番号 P-23, 2016年8月27日~28日, 鹿児島県市町村自治会館
81. 板垣亮里, 桐原志保美, 岸川孝之, 岩永正子, 新野大介: 上五島病院における悪性リンパ腫の病理学的検討 2006-2015: ATL の割合のトレンド: 第 3 回日本 HTLV-1 学会学術集会: プログラム・抄録集 p.83: 演題番号 P-24, 2016年8月27日~28日, 鹿児島県市町村自治会館
82. 片岡圭亮, 永田安伸, 北中明, 白石友一, 島村徹平, 安永純一郎, 十時泰, 渡邊俊樹, 柴田龍弘, 松岡雅雄, 宮野悟, 下田和哉, 小川誠司, 「網羅的遺伝子解析による成人 T 細胞白血病リンパ腫の病態解明」, 第 75 回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月8日(2016年10月6日~8日) (日本癌学会奨励賞受賞講演)
83. 渡邊俊樹, 山岸 誠, 中野和民, 内丸 薫, 「ATL 細胞におけるシグナル伝達系の異常な活性化の機構と意義」, 第 75 回日本癌学会学術集会、パシフィ

- コ横浜、横浜、2016年10月6日(2016年10月6日~8日) (シンポジウム招待講演)
84. 越智陽太郎、片岡圭亮、永田安伸、北中明、安永純一朗、岩永正子、白石友一、千葉健一、佐藤亜以子、眞田昌、田中洋子、鈴木啓道、佐藤悠佑、塩澤裕介、吉里哲一、吉田健一、野坂生郷、菱澤方勝、今泉芳孝、日高智徳、中牧剛、宮脇修一、飛内賢正、宮崎泰司、高折(近藤)晃史、柴田龍弘、宮野悟、下田和哉、松岡雅雄、渡邊俊樹、小川誠司、「成人T細胞性白血病/リンパ腫における全遺伝子プロファイリングと予後の相関」第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月6日(2016年10月6日~8日) (口演)
85. 山岸誠、藤川大、大杉剛生、堀真琴、中野和民、小林誠一郎、岩永正子、宇都宮與、内丸薫、渡邊俊樹、「エピジェネティクスを基盤とした成人T細胞白血病の新たな治療戦略」第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月6日(2016年10月6日~8日) (口演)
86. 綿谷陽作、佐藤康晴、西田賢司、三好寛明、永田安伸、北中明、幣光太郎、白石友一、千葉健一、田中洋子、吉里哲一、吉田健一、眞田昌、宮崎泰司、高折(近藤)晃史、柴田龍弘、宮野悟、松岡雅雄、渡邊俊樹、下田和哉、大島孝一、吉野正、小川誠司、片岡圭亮、「Comparative mutational profiling of ATL and other PTCLs」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月13日(2016年10月13日~15日) (口演)
87. 山岸誠、藤川大、大杉剛生、本間大輔、安達宣明、堀真琴、中川翔太、中野和民、小林誠一郎、田中勇悦、岩永正子、宇都宮與、塚崎邦弘、荒木一司、内丸薫、渡邊俊樹、「Epigenetic landscape in adult T cell leukemia-lymphoma (ATL); proof of concept for targeting EZH1/2」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月13日(2016年10月13日~15日) (口演)
88. 中島 誠、矢持 忠徳、渡邊真理子、宇都宮與、東原正明、内丸薫、渡邊俊樹、堀江良一、「The emergence of hyperploid cells in CD30+ subpopulation of adult T-cell leukemia」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月13日(2016年10月13日~15日) (ポスター)
89. 中野和民、千原庸平、小林誠一郎、内丸薫、渡邊俊樹、「Quantitative and qualitative disorders of the Wnt5a pathway in ATL cells」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月13日(2016年10月13日~15日) (ポスター)
90. 戸倉新樹：皮膚リンパ腫の診断と治療 . Sapporo T cell Lymphoma Conference. 2016.5.20.札幌市 (口演)
91. Shimauchi T, Caucheteux S, Turpin J, Finsterbusch K, RM Bangham RM C, Tokura Y, Piguet V: Cell-to-cell contact with human T-lymphotropic virus type-1-infected T cells reduces dendritic cell immune functions and contributes to infection in trans. The 12th Meeting of the German-Japanese Society of Dermatology. 2016.10.13. Karuizawa, Japan (口演 + ポスター)
92. 島内隆寿, 戸倉新樹：バイオフィルム様細胞外ウイルス集合体による樹状細胞への HTLV-1 伝播とその機能抑制 第3回日本 HTLV-1 学会学術集会 . 2016.8.27. 鹿児島市鈴木裕乃, 青島正浩, 龍野一樹, 戸倉新樹：ポリノスタットが奏功した抗HTLV-抗体陽性の皮膚T細胞リンパ腫 . 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会 . 2016.10.29 . 浜松市 (口演)
93. Shimauchi T, Caucheteux S, Turpin J, Finsterbusch K, Bangham RM C, Tokura Y: Cell-to-cell contact with HTLV-1-infected T cells reduces dendritic cell immune functions and contributes to infection in trans. The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for investigative Dermatology. 2016.12.10. Sendai, Japan (口演 + ポスター)
94. 関根雅明、武内正紀、外山孝典、前田宏一、佐藤誠一、山下清、石崎淳三、上運天綾子、田平優貴、秋月溪一、亀田拓郎、幣光太郎、日高智徳、久富木庸子、北中明、下田和哉：ATL に対するモガムリズマブの効果 . 第3回日本 HTLV-1 学会学術集会, 鹿児島市, 平成 27 年 8 月 26 日 ~ 27 日 .

- (口演)
95. 亀田拓郎、幣光太郎、関根雅明、山路卓巳、田平優貴、秋月溪一、上運天綾子、下田晴子、日高智徳、久富木庸子、北中明、下田和哉：TET2欠損はHBZトランスジェニックマウスの病態を増悪させる．第3回日本HTLV-1学会学術集会 鹿児島市，平成27年8月26日～27日．(口演)
96. **Kameda T, Shide K, Sekine M, Tahira Y, Akizuki K, Kamiunten A, Shimoda H, Hidaka T, Kubuki Y, Kitanaka A, Shimoda K:HBZ-transgenic mice develop inflammation and lymphoma.** 第78回日本血液学会学術集会，平成27年10月13日～15日．(ポスター)
97. 日高智徳、田平優貴、秋月溪一、上運天綾子、関根雅明、亀田拓郎、幣光太郎、下田晴子、久富木庸子、北中明、下田和哉：成人T細胞性白血病リンパ腫に対する同種移植では高頻度にウイルス感染を合併する．第78回日本血液学会学術集会，平成27年10月13日～15日．(ポスター)

・総合研究報告書（3）

**ATL/HTLV-1 感染症克服研究事業の評価および ATL 発症リスク
評価の適切な運用指針の確立を目指す研究（渡邊グループ）**

厚生労働省科学研究費補助金 がん政策研究事業

平成26年度～平成28年度総括研究報告書

ATL/HTLV-1 感染症克服研究事業の評価および

ATL 発症リスク評価の適切な運用指針の確立を目指す研究

グループ代表者 渡邊俊樹 聖マリアンナ医科大学

分担研究者

内丸 薫	東京大学	飛内賢正	国立がん研究センター中央病院
足立昭夫	徳島大学	塚崎邦弘	国立がん研究センター東病院
岩月啓氏	岡山大学	山野嘉久	聖マリアンナ医科大学
岡山昭彦	宮崎大学	森内浩幸	長崎大学
金倉 謙	大阪大学	齋藤 滋	富山大学
岩永正子	長崎大学	石塚賢治	鹿児島大学

研究要旨:本グループの研究計画は「HTLV-1 関連疾患研究事業」の評価と提言(柱1)と「ATL 発症リスク告知の指針」策定を目指す検討(柱2)の2つの課題を遂行する事である。3年間の活動概要は以下の通りである。柱1: 「学術シンポジウム」「国際シンポジウム」を開催し、国内外の研究者との情報交換と議論を行った。「日本 HTLV-1 学会学術集会」の第1回から第3回までを共催した。関係学会・研究会における発表内容の調査を行った。年間2回のペースで開催される「HTLV-1 対策推進協議会」への参加と議論の情報交換、年3回開催の班会議を通じた評価と議論を行った。柱2: 当研究グループの専門家による情報収集と評価・検討を進め、公にリスク告知の議論を行う時期と条件を慎重に検討した。その結果、現時点では「リスク告知」の議論を進めることは時期尚早であるとの判断になった。

A. 研究目的

ATL はその発見から30年以上が経過しているが、未だに有効な治療法が確立されておらず、予後不良である。原因ウイルスである HTLV-1 は国内に少なくとも約110万人の感染者がおり、ATL 患者も年間約1200人発症し毎年1000人以上が亡くなっている。この現状を背景に、2010年に首相官邸に特命チームが組織され、「HTLV-1 総合対策」が策定された。この対策では、HTLV-1 関連疾患対策として、感染予防、発症予防、新規治療法開発の3点を課題として、医療行政および研究開発に積極的に取り組む事が規定されている。申請者らはこれらの作業に当

事者として深く関わってきた。従って、本研究の目的は、「HTLV-1 とそれによって発症する ATL および HTLV-1 関連疾患」について、感染予防、発症予防、新規治療法開発、の観点から「HTLV-1 関連疾患研究領域」の各研究事業の進捗状況の把握と評価を行い、国内外の状況と比較検討し、戦略的かつ総合的な観点から評価して総合的かつ効率的な研究体制の提言を行う。また、「ATL 発症リスクの告知の指針」策定と適切な運用のあり方について検討を進めることである。

B. 研究方法

「HTLV-1 関連疾患研究事業」の評価と

提言（柱1）と「ATL 発症リスク告知の指針」策定を目指す検討（柱2）の2つの課題について取り組んできた。最終年度に当たっては、柱1については、全体の現状把握と評価に基づく提言を取りまとめ、当該領域の適切かつ効率的な運用に資することを目指す。柱2については、リスク評価研究の現状と高リスクキャリアに対する介入手段の有無と研究開発の現状を把握し、「ATL 発症リスク告知」の適否および、議論を進める上での必要な条件とタイムテーブルに関して合意形成を行なった。

柱1「HTLV-1 関連疾患研究事業」の評価と提言：研究分担者が各班会議に参加しての評価書の作成や、「学術シンポジウム」「国際シンポジウムあるいは特別講演」の開催や各種研究会支援を通じて、国内外の研究進捗状況を把握・評価し、現状と課題を整理した年次報告書を作成し、最終年度には包括的な提言と「指針」をまとめることを計画した。

柱2「ATL 発症リスク告知の指針」策定を目指す検討：「リスク告知の指針検討委員会」は HTLV-1 関連疾患専門家、遺伝相談、医療倫理の専門家と患者・キャリアの代表で構成し検討、合意形成を目指した。

3年間の研究期間で取り組んだ課題をまとめると以下の様になる。

（1）国内における ATL 及び HTLV-1 関連領域の研究の現状把握：

「HTLV-1 関連疾患研究領域」と指定された厚生労働科学研究費の研究事業（2015年度からは、日本医療研究開発機構（AMED）および関連の厚生労働科学研究費による研究事業）による研究の現状把握と評価

当該領域学会の共催および情報把握

（2）国際的な ATL 及び HTLV-1 関連領域の研究の現状把握：

国際シンポジウムの開催

国際学会等での情報収集

（3）HTLV-1 関連疾患研究領域の研究班の合同成果発表会の開催

（4）他省庁の研究補助金による研究課題の研究に関する現状調査と評価

（5）「HTLV-1 対策推進協議会」と班員

との情報交換

（6）年3回の班会議とメール会議による情報交換と議論

各課題に即して概説すると以下の様になる。

（1）国内における ATL 及び HTLV-1 関連領域の研究の現状把握

「HTLV-1 関連疾患研究領域」に含まれる研究事業による研究の現状把握と評価：「HTLV-1 総合対策」推進の責任部署である労働省結核感染症課が指定した、2014～2016年度（平成26年度～28年度）の「HTLV-1 関連疾患研究領域」の研究課題に加えて関係する研究事業の班会議開催に際して、当研究グループの班員がオブザーバーとして参加し、所定の評価用紙に評価を記載して報告し、班会議などを通じて議論する。

当該領域学会・研究会の共催および情報把握：他の省庁・機関によって支援されている ATL に関わる研究課題および研究組織を含めて、研究の進捗状況把握のため、各種研究会の開催支援と情報収集を行う。これにより、基礎から臨床までの幅広い研究組織の活動実態と進行状況を把握し評価する。

（2）国際的な ATL 及び HTLV-1 関連領域の研究の現状把握：

「国際シンポジウム」あるいはそれに相当するイベントの開催：海外と国内の研究者各々数名を招待してシンポジウムを開催し、国外での研究進展状況の把握、情報交換と交流を促進し、我が国の研究の評価と位置付けを行うとともに、国際的研究協力の可能性を追求する。

国際学会等での情報収集：班員等が関連の国際学会・研究集会等に参加して情報収集・情報交換を行う。

（3）HTLV-1 関連疾患研究領域の研究班の合同発表会の開催：2014～2016年度

（平成26年度～28年度）の各年度ごとに、当研究領域で採択されている研究事業に加え、関連の研究事業の研究代表者が、年度末に一同に会して当該年度の研究の進捗状況を発表し、議論する機会を設ける。この発表会終了後に当研究班の第3回班会議を開催し進捗状況や問題点に関して議論する。

(4) 他省庁の研究補助金による研究課題の研究に関する現状と評価: 特に、文部科学省の科学研究費補助金による研究事業と、「HTLV-1 関連疾患研究領域」の枠に含まれない日本医療研究開発機構 (AMED) の研究事業の有無につき、情報を集めて整理・分析し、本研究領域の研究課題との関係等を検討する。

(5) 「HTLV-1 対策推進協議会」と班員との情報交換: 「HTLV-1 対策推進協議会」における議論の内容について、その議事録中心に班員に紹介し、班会議等で議論を行う。

(6) 年3回の班会議とメール会議による情報交換と議論: 班会議を年3回開催し、情報交換、関連班研究の進展状況の情報共有と評価に関する議論を行う。

以上の様な作業を通じて、医療行政に適切な情報発信を行うとともに、総合的かつ戦略的な研究推進体制の確立に貢献する。

(倫理面への配慮)

本研究計画は、その性質上「倫理面への配慮」を特に考慮する必要がない。

C. 研究結果

(I) 個々の活動の概要

(1) 「HTLV-1 関連疾患研究領域」の厚生労働科学研究費および日本医療研究開発機構 (AMED) による研究事業の研究の現状把握と評価:

(A) 「HTLV-1 関連疾患研究領域」全体の現状

周知の様に「HTLV-1 関連疾患研究領域」は、当初は、研究領域の趣旨をふまえて、既存の各領域の研究事業の枠内で幾つかの研究課題を採択し、当該領域の研究として統一的に推進を図ることを目指している。

しかしながら、2015年度(平成27年度)からは、直接医療行政に関わる厚生労働科学研究費の課題を除き、大多数の医学領域の研究事業が日本医療研究開発機構 (AMED) へ移管された。これに伴い、「HTLV-1 関連疾患研究領域」とされるもののうち3件のみが厚生労働科学研究費の枠内の研究事業となっている。

2014~2016年度の「HTLV-1 関連疾患研究領域」の推移を表1にまとめた。この期間に「HTLV-1 関連疾患研究領域」の研究事業として採択された研究課題はのべ24件となる。研究期間についてみると、2014年度で終了したものが2件、2015年度で終了したものが4件である。また、2014年度から開始された研究事業は16件、そのうち3件は研究期間2年で、2015年度で終了した。その他の13研究事業は3年間の研究期間最終年度は2016年度となっている。

各年度ごとの採択研究事業数を見ると、2014年度19件、2015年度20件、2016年度18件と大きな変動はなく、推移している(表1)。一方、本領域に指定された研究事業の研究費の総額の推移について検討すると、2014年度は総額1,421,021千円、2015年度は1,450,854千円であるのに対して、2016年度では867,287千円と、前2年度分に比較してほぼ3分の2に減額となっていることが注目される。ただ、全体として見ると「HTLV-1 総合対策」が策定され「HTLV-1 関連疾患研究領域」が設定された際の「研究費として年間10億円を目安に配分する」とした、当初の規定はある程度維持されてきたと判断することができるであろう。

2014~2016年度までの研究課題の領域的な分布について検討すると以下の様になる。

1. ウイルス学および抗ウイルス薬開発: なし
2. ウイルス感染の実態把握と感染予防関係: 6研究事業
3. 感染細胞の特性解析・増殖制御: 1研究事業
4. HAM等関連疾患関係: 7研究事業
5. ATLおよび腫瘍学関係(臨床治験をふくむ): 8研究事業
6. 医療行政的内容のもの: 1研究事業
7. その他、難病や関連疾患の大規模解析プロジェクト: 1研究事業

この様な研究課題の領域の分布を見ると、他のウイルス感染領域の研究事業(例えばエイズ対策研究事業、肝炎対策研究事業)と比較し、研究費の規模の違いは

別に、ウイルスを直接対象としたウイルス学および抗ウイルス薬に関わる研究課題が採択されていないことが大きな特徴であるとともに研究領域全体の問題点である。一方、ATLの領域で総計8つの研究事業が採択されており、特に「革新的がん医療実用化研究事業」の研究事業では、「付随研究」として、統合的ゲノム解析研究、分子標的探索、バイオマーカー探索等をふくむ基盤的な研究内容が組み込まれており、治療研究と病態解明の基礎研究が有機的に連携した形で採択されていることは、今後の癌研究領域のあり方として大きな意義があると考えられた。HTLV-1関連疾患のHAMに関係した研究事業が7件採択されていることも注目される。発症率はATLの10分の1で、現時点での総患者数が約3000人と推定される希少難病に対する研究事業としては手厚いサポートを受けていると考えられる。しかし、研究の推進が一部少数の研究者に依存していることは、領域としての課題であろう。

(B)各研究事業の研究進捗状況の評価

オブザーバーによる各研究事業の進捗状況の評価：

「HTLV-1関連疾患研究領域」の研究事業に関して、その研究班会議に、本研究班グループの分担研究者1～数名がオブザーバーとして参加し、研究の進捗状況の把握と評価を行った。

具体的には、小規模の研究事業のため班会議を開催しない研究班と班会議開催日が年度末に予定されているものを除き、分担研究者がオブザーバー参加し、評価書を作製した。評価書のまとめは資料として添付した(資料1～3参照)。

評価シートは、「進捗状況について」と「今後の展望について」の欄があり、それぞれに自由記載の形でコメントを記載した。個々の研究班ごとに、オブザーバーから高く評価出来る点と、検討課題として今後の取り組み・改善を求める点が指摘されていた。

全体の評価は「ほぼ順調に進展している」と言うものが大多数であったが、一部の臨床研究では患者の登録の遅れや治

験薬の入手準備に遅れが見られ、期間内での研究完了に懸念が示されたこれらの評価書をそれぞれの研究代表者へ送付し、事後の研究推進計画策定の参考として利用してもらった。

評価委員からの第三者的コメントは、それぞれの研究事業の適正且つ効率的な運用に資するところが大きいと考えられた。

(2)国内のATL及びHTLV-1関連領域の研究の現状把握

2014-2016年度にかけて、各分担研究者が、それぞれの専門領域の国内学会(ウイルス学会、分子生物学会、血液学会、神経免疫学会、がん学会等)の学会に参加し、成果の発表と同時に、関連領域の研究に関する情報収集を行った。

また、2013年10月に、従来のHTLV-1研究会を母体として発足した「日本HTLV-1学会」の学術集会を第1回から3回まで共催し、当研究領域の研究成果の発表と情報交換の場とした。第1回と2回学術集会では約220名、第3回学術集会では400名余の参加があり、熱心な議論が行われた。(資料4～6参照)

(3)国際的なATL及びHTLV-1関連領域の研究の現状把握：

学術シンポジウムの開催：

国際的な研究活動の現状把握と、海外の研究者との情報交換および交流を目的に、2014年から2016年まで、「学術シンポジウム」「特別講演」あるいは「国際シンポジウム」の形で、「日本HTLV-1学会」と併催の形で開催した。各年度のシンポジウムのプログラムは資料7～9に示す。

2014年度は、「アジアにおけるHTLV-1感染と関連疾患の実態」をテーマに、韓国、中国、台湾から専門家を招き、我が国の日赤の情報を合わせて講演し、情報共有と交流の機会とした。2015年度は「HTLV-1ワクチン開発の現状」をテーマに、我が国の3名の研究者とフランスの研究者から、感染予防ワクチンおよび発症予防ワクチン開発の現状についての講演を行い、情報共有と交流を行なった。

2016年度は、日本HTLV-1学会第3回

学術集会の「特別講演」として、理事長の渡邊から「**ATL** 研究の現状－発症予防と個別化治療へ向けた展開」についての講演を行い、海外からはフランスのパスツール研究所から **Gessain** 博士によるアフリカにおける **HTLV** の水平感染の実態、オーストラリアの **Einsiedel** 博士による、オーストラリア原住民における **HTLV-1** の感染の実態と関連疾患としての呼吸器疾患の状況を講演してもらった。これらのシンポジウム・講演会は、国内外の研究者による情報交換と交流の貴重な機会となった。

国際学会等での情報収集：

分担研究者は、各年度において、当研究事業による派遣あるいは各自の資金により独自に、米国血液学会(**ASH**)、ヨーロッパ血液学会(**EHA**)、国際悪性リンパ腫会議(**ICML**, ルガノ)、**T-cell lymphoma Forum (TCLF)**, サンフランシスコ)などに参加し、情報の収集と国際的交流を行った。

(4) **HTLV-1 関連疾患研究領域の研究班の合同発表会の開催：**

2014年度から2016年度まで、毎年度末の2月の第1週土曜日に東京大学医科学研究所講堂あるいは同附属病院トミーホールで、「**HTLV-1 関連疾患研究領域**」研究班合同発表会を開催した(資料10～12参照)。この発表会は、研究計画に従い、毎年度「**HTLV-1 関連疾患研究領域**」全体を俯瞰しながら、**ATL**および**HTLV-1**関連疾患分野の研究の現状と進展状況を包括的に把握する事を目指したものである。2016年度は、「**HTLV-1 関連疾患研究領域**」の課題に指定されていない以下の3つの研究課題の代表者からも進捗状況の発表をお願いした。

- 1.(創薬基盤推進研究事業)「抗 **HIV-1** 核酸系逆転写酵素阻害薬アバカビルの成人 **T** 細胞白血病への適応拡大に関する臨床研究」(研究代表者：高折 晃史)
- 2.(産学連携医療イノベーション創出プログラム(**ACT-M**))「成人 **T** 細胞白血病リンパ腫(**ATL**)に対する新規テラメド治療」(研究代表者：小川 誠司)
- 3.(産学連携医療イノベーション創出プ

ログラム(**ACT-M**))「ヒストンメチル化酵素 **EZH1/2** の二重阻害による革新的がん根治療法の開発」(研究代表者：北林 一生)

この合同成果発表会は、毎回、一般参加者と関係者を合わせて百数十名の参加があり、質疑応答も非常に活発に行われた。したがって、当該領域の様々な研究分野の研究者、臨床家および患者団体メンバーなどとの貴重な交流の場となってきた。

研究進捗状況の評価の一環として、毎回、この合同発表会の内容を評価する「評価シート」を作製し、当研究班の班員が評価を行った。発表会に引き続き、班会議を開催し、発表内容を踏まえた意見交換と評価が行われた。

(5) 他省庁の研究補助金による研究課題の研究に関する現状と評価：

「科学研究費助成事業データベース」を用いて、2014～2016年度の文部科学省/日本学術振興会の科学研究費による研究課題で **HTLV-1** および関連疾患に関わるものを検索したところ全部で108件の研究課題が採択されていた(表2～7)。

文部科学省科学研究費補助金による研究課題の概要

調査対象は、新学術領域の中の計画研究および公募研究、基盤研究(**S**)、(**A**)、(**B**)、(**C**)および挑戦的萌芽研究の研究課題と、若手研究(**A**)と(**B**)、研究活動スタート支援および学術振興会特別研究員奨励費である。**Web** 上で検索可能な範囲では、上記108件の研究課題のうち、今年度も(**S**)および(**A**)には **HTLV-1/ATL** 関係の研究課題は採択されておらず、当研究班の研究期間を通じて採択はなかった。採択された研究課題を表にして示すと共に、以下に簡略に記載する。

1.「新学術領域」あるいは「学術研究支援基盤形成」の中に含まれる研究課題

2010年度採択の新学術研究領域「予防支援活動 **HTLV-1** 分野」の研究期間が一年延長されて2015年度まで存在した。「がん研究分野の特性をふまえた支援活動」の中の「がん疫学・予防支援活動 **HTLV-1** 分野」に、分担研究の形で

HTLV-1 関連の研究課題の5件が含まれていた(表2および別表)。

2016年度からスタートした「学術研究支援基盤形成」の中の「コホート・生体試料支援プラットフォーム」に「血液悪性腫瘍バイオリソース支援」の形で1件が含まれている。

2. 基盤研究における研究課題

2014～**2016**年度の期間では、既述の様に基盤研究の**(S)**および**(A)**には採択課題が無かった。この期間内に基盤研究の**(B)**と**(C)**で採択された研究課題を表3、表4および表4別表に示した。また、挑戦的萌芽研究を表5、若手研究**(A)**と**(B)**を表6に、学術振興会特別研究員奨励費の採択課題を表7に示した。

本研究課題の研究期間中に採択された基盤研究**(B)**はのべ10課題であり、うち継続課題は4件で、新規採択が3件である。継続課題のうち3件は**2015**年度、2件は**2016**年度が最終年度となっていた。期間中の新規採択課題は、**2014**年度が2件(いずれも**2016**年度まで)、**2016**年度が3件である。**2016**年度採択課題の研究期間は2件が**2018**年度で、1件が**2019**年度となっている。

基盤研究**(C)**では、期間中にのべ65研究課題が採択されている(表4)。当研究事業の各年度の新規採択課題数と各年度ごとの総件数は、表4別表に示すとおりである。具体的には、本研究課題開始時(**2014**年度)の時点で、新規採択は11課題、継続課題は27件で、総課題数38件であった。**2015**年度では、それぞれ16件、21件と37件、**2016**年度では、11件、26件、37件となっている。**2016**年度の研究課題のうち、この年度で終了する研究課題が12課題であった。次年度以降に継続するもののうち、**2017**年度終了が13件、**2018**年度終了が10件、**2019**年度終了と**2020**年度終了がそれぞれ1件となっている。

3. その他の研究費

挑戦的萌芽研究は6件が採択されており、そのうち4件が継続で3件が新規採択となっている。継続の4件はいずれも本年度が最終年度となっており、新規採択分は**2018**年度までの3年の研究期間

のものが2件、**2019**年度までのものが1件となっている。若手研究では、本研究班の研究期間3年の間で、のべ25件が採択されていた。若手研究**(A)**は、**2016**年度に1件のみが新規採用となり、研究期間は**2016**年度から**2018**年度を予定している。

若手研究**(B)**については、3年間の採択件数は総計25件であり、各年度ごとに5件ずつ新規採択となっている(表6別表)。

研究活動スタート支援は1件が**2015**年に採択され、**2016**年度が最終年度となっている。

文部科学省科学研究費補助金における**2014**～**2016**年度の研究課題の解析

1. 研究年度分布

旧来の「新学術領域」で、**2010**年度に採択された「予防支援活動 **HTLV-1** 分野」は平成27年度(**2015**年度)で終了した。本年度(**2016**年度)に開始された「新学術領域」の「コホート・生体試料支援プラットフォーム」は6年間の継続が予定され、最終年度は**2021**年度である。

基盤**(B)**は、本件級課題の期間中に継続と新規を合わせて10件が採択されていた。**2013**年度採択の5件のうち、2件が4年の研究期間で、3件は3年であった。**2014**年度採択の2件はいずれも3年の研究期間で、**2016**年度採択の3件のうち2件は3年間で1件は4年間であった(表3)。

基盤研究**(C)**は、本件級課題の期間中に継続と新規を合わせて65件が採択されていた。研究期間は、1年が2件(中途終了1件を含む)、2年が2件、3年が55件、4年が5件、5年が1件であった(表4)。

挑戦的萌芽研究は本研究期間中に継続1件を含めて6件採択されており、そのうち5件の研究期間は2年で1件のみが研究期間1年となっていた(表5)。

若手研究では、本研究期間で**(A)**の採択は1件であり、**2016**年度採択で研究期間は3年であった。若手研究**(B)**は継続と新規を合わせて25件の採択があり、研究期間は2年が16件、3年が7件、

4年が2件であった(表6)。

「研究活動スタート支援」は2015年に1件のみ採択され研究期間は2年であった(表6)。

採択年度の分布を見ると、基盤研究(B)では、2013年度5件、2014年2件、2015年なし、2016年2件となっていた。基盤研究(C)では、採択年度は、2011年度1件、2012年度15件、2013年度11件、2014年度11件、2015年度16件、2016年度11件となっていた。若手研究(A)は2016年度1件、若手研究(B)は2012年度3件、2013年度6件、2014~2016年度はいずれも各5件が採択されていた。

2. 領域的な分布状況

基盤研究(B)と(C)、挑戦的萌芽研究、若手研究(A)、(B)のカテゴリーで、研究分野の分布を検討してみると、以下の様な結果が明らかになった。

基盤研究(B)では10件の課題のうち、腫瘍学領域3件、血液内科学分野2件、ウイルス学分野2件、病態医化学、疫学・予防医学分野および神経内科学分野が各1件であった。

基盤研究(C)では、65件の採択課題の分野別の分布は以下の通りであった。血液内科学分野18件、瘍生物学分野6件、腫瘍治療学分野4件、発がん分野1件、神経内科分野8件、眼科学分野2件、ウイルス学分野6件、腫瘍膠原病・アレルギー内科学分野2件、疫学・予防医学分野1件、人体病理学分野2件、実験病理学分野2件、病態医化学分野2件、実験動物学分野2件、ゲノム医科学分野2件、社会学分野1件、臨床看護学分野1件、生涯発達看護学分野1件、数学一般(含確率論・統計数学)分野1件、生物系薬学1件、病態検査学1件、外科系歯学1件、眼科学1件である。

ATLの研究と考えられる課題は、「血液内科学」、瘍生物学分野、腫瘍治療学分野、発がん分野、人体病理学分野、実験病理学分野、病態医化学分野、実験動物学分野、ゲノム医科学分野に分布して採択されており、採択件数の総数は39件と全体の3分の2を超えている。一方、関連疾患としてHAMとぶどう膜炎の研究課題は、「神経内科分野」で8件あるが、「眼

科学」では2件のみとなっている。「ウイルス学分野」では6件のみであった。

挑戦的萌芽研究では、ウイルス学分野と腫瘍生物学分野が各々2件で、他は生物分子化学分野と病態医化学分野が各1件であった。

若手研究(A)と(B)では、血液内科学分野が5件、腫瘍生物学分野3件、病態検査学分野3件、病態医化学分野2件、産婦人科学分野2件、神経内科学分野2件、ウイルス学分野1件、腫瘍治療学分野1件、血液内科学/腫瘍治療学分野1件、眼科学分野1件、膠原病・アレルギー内科学分野1件、外科系歯学分野1件、応用薬理学分野1件、細胞生物学分野1件、臨床看護学1件であった。

これらの結果を見ると、HTLV-1関連疾患の代表であるATLに関わる研究(血液内科学分野と腫瘍学関連分野)が半数以上を占めていること、HAMとぶどう膜炎の研究課題の数が限られていること、母子感染予防に関わる産婦人科、およびウイルスそのものの研究と、疫学分野の研究課題が少ないことが明らかである。この実態は、臨床医学的にみた場合、課題の重要性から当然とも言えるが、研究分野の分布としては偏りがあると言わざるを得ない。今後、ウイルス学、感染症学などの立場からの基礎研究が申請され採択される事を期待する。

一方、基盤研究(C)で、看護学領域が2件、社会学の分野で1件の課題が採択されていることが注目に値する。「総合対策」に伴い、HTLV-1キャリアの方々を対象とした相談・カウンセリング業務の重要性が注目されてきたことを反映したものと考えられ時宜を得たものと考えられる。

上記が文科省科学研究費補助金の採択枠組から見た分類と集計であるが、採択件数に関しては、基盤研究を中心に一定の数が維持されていることが明らかである。ただ、本年度終了の課題が多数あることから、来年度の採択数と研究分野の分布が注目される。

3. 研究経費

従来同様に、上記の採択課題の枠組み

は、基盤研究を中心とした、個人あるいは小グループによって遂行される研究課題に限定されている。従って、研究経費は比較的小規模である。大部分の研究課題については、1名から数名の若手研究者を中心とした研究グループが限定された研究課題を遂行するのが限界であると考えられる。一方、出口志向の研究が中心となっている昨今の情勢を考慮すると、基盤研究では小規模であっても、将来展開する可能性を持つ多様なシーズを広く採択し新たな展開を可能にする配慮は重要であり、不可欠であると考えられる。

(6)「リスク告知の指針」策定を目指す検討

厚生労働省との話し合いにおいて、「発症リスク告知に関する指針」を作製する方向で準備を開始することが承認されたことを踏まえ、研究活動計画の柱2として計画を立てた。研究班発足以来、班会議などを通じて班員をはじめとした臨床家及び研究者が議論を重ねて来た。その結果、以下の様な基本的認識で一致している。つまり、リスク告知は低リスクのキャリアにとっては、不安解消などポジティブな効果を持つが、発症予防の手段がない状況では、高リスクのキャリアにとっては発症や将来の不安を掻き立てることになり非常に負担が大きい。したがって、リスク告知の種々の議論は、病態解析の研究の進展、発症予防薬開発の研究の進展状況をよく踏まえて検討すべきであり、現時点では、分担研究者と専門家の間で、研究の進捗状況に関する情報を慎重に検討すべき段階であり、非専門家をふくむ「検討委員会」の開催は、時期尚早であるとの方針が合意された。

ただ、発症予防に利用できる薬物の臨床治験も視野に入ってきていることから、適切な時期に改めて現状認識とリスク告知の社会的問題に関する議論が可能になると考えられる。

(7)「HTLV-1 対策推進協議会」と班員との情報交換：

「HTLV-1 対策推進協議会」は、年2回のペースで開催されてきた。分担研究

者の複数が協議会の委員を務めており、渡邊は座長を務めている。本研究会の班会議の席では、協議会での議論を議事録等に基づいて紹介し、情報の共有を図ると共に、議論を行った。

協議会における議論は、主に、行政側の取り組みの進捗状況と研究開発における成果と課題を明らかにする趣旨で開催されている。この席では、自治体の「母子感染対策協議会」の設置の遅れあるいは不十分な機能 に関して報告があった。研究開発に関しては、感染者の実態把握の必要性が強調された。感染予防対策の進捗状況の把握も常に行われてきたが、青壮年期における水平感染（性感染）の実態が明らかになったことは大きな成果である。今後の啓発活動のあり方や感染予防の取り組みに関する議論も行われた。

また、この協議会において「HTLV-1 総合対策」の実施状況を確認するばかりでなく、「総合対策」の継続の必要性が強く主張され、今後のあり方に関して議論を行うのが望ましいとの考えが示された。

(8) 年3回の班会議とメール会議による情報交換と議論：

2014 年度～2016 年度の研究期間中、班会議は原則として年に3回開催した。時期的には年度当初の6月頃、年度後半の12月頃、そして合同成果発表会の開催に合わせて2月の第一土曜日である。

第1回目の班会議では、当該年度の研究推進体制の確認と具体的活動内容について議論し合意した。「HTLV-1 関連疾患研究領域」の各研究班の班会議へのオブザーバー参加は、原則として、各研究事業について、年度の後半に開催される班会議へオブザーバーとして参加して、評価書を作成し、研究の進捗状況の把握を目指す方針が承認された。また、当研究計画の柱2「リスク告知の指針」策定を目指す検討については、班会議開催の度に情報交換と協議を行い、議論の進め方に関してその都度合意を形成した。

D. 考察

当グループの研究課題は、本来、独立

の研究事業として申請されたものであるが、他の政策的研究課題と統合して実施することになった経緯がある。従って、当初計画を見直して、特に取り組みが必要な部分について活動を行った。基本的な目的は、**HTLV-1** 感染症/**ATL** について、感染予防、発症予防、新規治療法開発の観点から研究推進の現状と問題点を把握して評価し、「医療行政」と「関連疾患研究」の適正な推進に向けた提言をすることである。従って、「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」に含まれる研究事業の評価は必須である。また、それを可能にするためには、国内外の研究の進捗状況をリアルタイムで把握し、評価の基準とすることが求められる。

以上の立場から、国内外の研究の進展状況を把握すると共に、「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」の研究課題のみならず、厚生労働科学研究費および文部科学省科学研究費補助金において遂行されている研究課題を調査し、それらの研究課題の領域的分布、研究期間及び研究費の規模等を検討してきた。2015 年度からは、**AMED** による研究費配分システムがスタートしたことに伴い、従来の厚生労働科学研究費の大部分が **AMED** の研究事業へ変更された。これらを踏まえ、情報の整理を行うことで、**AMED** および厚生労働科学研究費の各枠組での研究課題と文部科学省の科学研究費補助金による我が国における研究活動の全体像を明らかにすることができた。

国際（学術）シンポジウムの開催は、国内外の研究進捗状況の把握と評価に資するのみならず、当該分野の臨床家・研究者間の国内外の情報交換および交流の機会を提供しており、研究の活性化に大きく貢献し、有益であると判断された。

柱2の「**ATL** 発症リスク評価法開発の現状把握とリスク告知に関わる指針の作成」に関しては、専門家と関係者の議論に基づき、慎重かつ着実に進める方針で一致した。バイオマーカー探索の研究や検査法の進歩を把握し、発症予防法開発の進展を見据えながら、議論を進めるのが適切と判断した。

E. 結論

「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」の発足に伴い、**ATL** や **HTLV-1** 関連疾患の研究体制は飛躍的に強化された。昨年度からは、日本医療研究開発機構（**AMED**）の体制が本格的に適用されたために、厚生労働科学研究費は政策的課題に限定され、ほとんどの研究事業が日本医療研究開発機構の研究事業として統合された。研究課題は基本的には「出口志向」であるが、臨床研究を主としながらも付随研究の中に基礎的な研究課題を取り込む構造も工夫されたい。これは、研究計画の構造として適切であり、基礎研究者が臨床家と密接に協力しながら研究を展開することが可能な体制であり、将来的にもこの様な設計は有意義であると考えられる。ただ、今年度も研究事業数は減少傾向が続き、それに伴い、研究費の総額も昨年度比約 3 分の 2 に減額されている。

しかしながら、**AMED** の研究事業の中に厚生労働科学研究費の様に「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」をバーチャルに設定することは事実上困難であると考えられる。したがって、次年度以降の当該領域の研究開発推進の方策に関しては「**HTLV-1** 総合対策」のあり方とともに再検討に時期となっている。

本領域は、アフリカ、南米を中心として世界的な広がりを持つレトロウイルス感染症という観点からは、我が国における研究活動は、科学技術先進国としてまさに国際的な責務を負っている。一方、従来の日本の研究の蓄積から **ATL** は **T** 細胞リンパ腫の領域で最も研究の進んでいる疾患の一つとすることができる。いまだに標準治療が無く、極めて予後の悪い **T** 細胞リンパ腫の新たな治療法開発に資するモデル疾患として我が国の研究には国際的な期待が高い。

従って、更に国際的な研究進展の現状を踏まえて、研究課題の領域的な分布とテーマの内容を戦略的に配置し、有効な研究体制を検討して提案することの重要性が改めて確認された。

「提言」

「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」では、

HTLV-1 の自然史の理解に基づき、感染の実態把握、感染予防、病原性発現機構の理解、無症候生キャリアから ATL/HAM/HU に至る感染者の病態の全体像を明らかにして、感染予防、発症予防と新規治療薬の開発につなげることが必要である。そのために必要な条件の一つは、キャリアの 10-20% にのぼる「発症高危険群」を「慢性活動生 HTLV-1 感染症」として疾患概念を確立し、リスク評価に基づいて早期の発症予防介入を可能にすることが必須である。これらの目的を達成するには「HTLV-1 関連疾患研究領域」全体を俯瞰的に把握し、戦略的に研究開発を推進する体制を強化・維持することが不可欠である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

論文発表

(査読付き)

1. **Watanabe T. Adult T-cell leukemia (ATL): Molecular basis for clonal expansion and transformation of HTLV-1-infected T cells. Blood, 2017. pii: blood-2016-09-692574. doi: 10.1182/blood-2016-09-692574. [Epub ahead of print]**
2. **Farmanbar A, Firouzi S, Park SJ, Nakai K, Uchimar K, Watanabe T. Multidisciplinary insight into clonal expansion of HTLV-1-infected cells in adult T-cell leukemia via modeling by deterministic finite automata coupled with high-throughput sequencing. BMC Medical Genomics, 2017;10(1):4. doi: 10.1186/s12920-016-0241 -2.**
3. **Gallo RC, Willems L, Hasegawa H; Global Virus Network's Task Force on HTLV-1: Accolla R, Bangham C, Bazarbachi A, Bertazzoni U, Anna B, Cheng H, Chieco-Bianchi L, Ciminale V, Gessain A, Gotuzzo E, Hall W, Hermine O, Jacobson S, Macchi B, Mahieux R, Matsuoka M, McSweeney E, Murphy EL, Pélouponèse JM, Reis J, Simon V, Tagaya Y, Taylor GP, Watanabe T, Yamano Y. Screening transplant donors for HTLV-1 and -2. Blood. 2016;128(26):3029-3031. doi: 10.1182/blood-2016-09-739433. Epub 2016 Nov 9.**
4. **Willems L, Hasegawa H, Accolla R, Bangham C, Bazarbachi A, Bertazzoni U, de Freitas Carneiro-Proietti AB, Cheng H, Chieco-Bianchi L, Ciminale V, Jordana G, Reis CDR, Esparza J, Gallo RC, Gessain A, Gotuzzo E, Hall W, Harford J, Hermine O, Jacobson S, Macchi B, Macpherson C, Mahieux R, Matsuoka M, Murphy E, Peloponese JM, Simon V, Tagaya Y, Taylor GP, Watanabe T, Yamano Y. Reducing the global burden of HTLV-1 infection: an agenda for research and action. Antiviral Res 2016. pii: S0166-3542(16)30625-8. doi: 10.1016/j.antiviral.2016.10.015.**
5. **Satake M, Iwanaga M, Sagara Y, Watanabe T, Okuma K, Hamaguchi I. Incidence of human T-lymphotropic virus 1 infection in adolescent and adult blood donors in Japan: a nationwide retrospective cohort analysis. Lancet Infect Dis. 2016;16(11):1246-1254. doi: 10.1016/S1473-3099(16)30252-3.**
6. **Nakano K, Uchimar K, Utsunomiya A, Yamaguchi K, Watanabe T. Aberrantly expressed oncogenic c-Myb contributes activation of MYB proto-oncogene pathway providing the basis for malignancy of Adult T cell leukemia/lymphoma cells. Clin Cancer Res. 2016; 22(23):5915-5928.**
7. **Nakano K, Watanabe T. HTLV-1 Rex Tunes the Cellular Environment Favorable for Viral Replication. Viruses 2016, 8(3), 58; doi:10. 3390/v8030058**
8. **Yeh CH, Bai XT, Moles R, Ratner L, Waldmann TA, Watanabe T, Nicot C. Mutation of epigenetic regulators TET2 and MLL3 in patients with HTLV-I-induced acute adult T-cell leukemia. Mol Cancer 2016; 15:15 (DOI: 10.1186/s12943-016- 0500-z)**

9. Fujikawa D, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Yamagishi M, Watanabe T. Polycomb-dependent epigenetic landscape in adult T-cell leukemia. *Blood* 2016;127(14):1790-802, doi: 10.1182/blood-2015-08-662593.
10. Aoki S, Firouzi S, Yamochi T, Nakan K, Uchimaru K, Utunomiya A, Iwanaga M, Watanabe T. Transition of ATL/L cell clones can be observed during the clinical course. *Int J Hematol* 2016;104(3):330-7. doi: 10.1007/s12185-016-2049-4.
11. Hamada T, Sugaya M, Tokura Y, Ohtsuka M, Tsuboi R, Nagatani T, Tani M, Setoyama M, Matsushita S, Kawai K, Yonekura K, Yoshida T, Saida T, Iwatsuki K. Phase I/II study of the oral retinoid X receptor agonist bexarotene in Japanese patients with cutaneous T-cell lymphomas. *J Dermatol.* 2016 Aug 20. doi: 10.1111/1346-8138.13542. [Epub ahead of print]
12. Namba H, Hamada T, Iwatsuki K. Human T-cell leukemia virus type 1-positive lymphomatoid papulosis. *Eur J Dermatol.* 2016;26(2):194-5. doi: 10.1684/ejd.2015.2707
13. Hashikura Y, Umeki K, Umekita K, Nomura H, Yamamoto I, Hasegawa H, Yanagihara K, Okayama A. The diversity of the structure and genomic integration sites of HTLV-1 provirus in MT-2 cell lines. *Hum Cell.* 2016;29:122-9. doi: 10.1007/s13577-016-0136-8.
14. Hashikura Y, Umeki K, Umekita K, Nomura H, Yamada A, Yamamoto I, Hasegawa H, Yanagihara K, Okayama A. Infection of defective human T-lymphotropic virus type 1. *Hum Cell.* 2017 Jan 9. doi: 10.1007/s13577-016-0156-4. [Epub ahead of print]
15. Umeki K, Umekita K, Hashikura Y, Yamamoto I, Kubo K, Nagatomo Y, Okayama A. Evaluation of Line Immunoassay to detect HTLV-1 Infection in an Endemic Area, Southwestern Japan; Comparison with Polymerase Chain Reaction and Western Blot. *Clin Lab.* 2017 (in press)
16. Kato H, Nakazawa Y, Kurokawa Y, Kashiwagi H, Morikawa Y, Morita D, Banno F, Honda S, Kanakura Y, Tomiyama Y. Human CalDAG-GEFI deficiency increases bleeding and delays α IIb β 3 activation. *Blood* 128(23):2729-2733, Dec.2016 (doi: 10.1182/blood-2016-03-704825)
17. Ninomiya H, Obara N, Chiba S, Usuki K, Nishiwaki K, Matsumura I, Shichishima T, Okamoto S, Nishimura JI, Ohyashiki K, Nakao S, Ando K, Kanda Y, Kawaguchi T, Nakakuma H, Harada D, Akiyama H, Kinoshita T, Ozawa K, Omine M, Kanakura Y. Interim analysis of post-marketing surveillance of eculizumab for paroxysmal nocturnal hemoglobinuria in Japan. *Int J Hematol* 2016;104(5):548-558. (doi: 10.1007/s12185-016-2065-4)
18. Matsui T, Maeda T, Kida T, Fujita J, Tsuji H, Morii E, Kanakura Y. Pleuroparenchymal fibroelastosis after allogenic hematopoietic stem cell transplantation: important histological component of late-onset noninfectious pulmonary complication accompanied with recurrent pneumothorax. *Int J Hematol* 2016;104(4):525-530. (doi: 10.1007/s12185-016-2038-7)
19. Shimomura Y, Mitsui H, Yamashita Y, Kamae T, Kanai A, Matsui H, Ishibashi T, Tanimura A, Shibayama H, Oritani K, Kuyama J, Kanakura Y. New variant of acute promyelocytic leukemia with IRF2BP2-RARA fusion. *Cancer Sci* 2016;107(8):1165-1168. (doi: 10.1111/cas.12970)
20. Miyasaka N, Miura O, Kawaguchi T, Arima N, Morishita E, Usuki K, Morita Y, Nishiwaki K, Ninomiya H, Gotoh A, Imashuku S, Urabe A, Shichishima T, Nishimura J, Kanakura Y. Pregnancy outcomes of patients with paroxysmal nocturnal hemoglobinuria treated with eculizumab: a Japanese experience and updated review. *Int*

- J Hematol 2016;103(6):703-712. (doi: 10.1007/s12185-016-1946-x)
21. Yoshida C, Nakamae H, Fletcher L, Koga D, Sogabe T, Matsumura I, Kanakura Y, Branford S, Naoe T. Validation of a rapid one-step high sensitivity real-time quantitative PCR system for detecting major BCR-ABL1 mRNA on an International Scale. Springerplus 2016; 5:569. (doi: 10.1186/s40064-016-2258-6)
 22. Sudo T, Yokota T, Okuzaki D, Ueda T, Ichii M, Ishibashi T, Isono T, Habuchi Y, Oritani K, Kanakura Y. Endothelial Cell-Selective Adhesion Molecule Expression in Hematopoietic Stem/Progenitor Cells Is Essential for Erythropoiesis Recovery after Bone Marrow Injury. PLoS One 2016;11(4):e0154189. (doi: 10.1371/journal.pone.0154189)
 23. Ishibashi T, Yokota T, Tanaka H, Ichii M, Sudo T, Satoh Y, Doi Y, Ueda T, Tanimura A, Hamanaka Y, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y. ESAM is a novel human hematopoietic stem cell marker associated with a subset of human leukemias. Exp Hematol 216;44(4):269-281.e1. (doi: 10.1016/j.exphem.2015.12.010)
 24. Kondo H, Soda M, Sawada N, Inoue M, Imaizumi Y, Miyazaki Y, Iwanaga M, Tanaka Y, Mizokami M, Tsugane S. Smoking is a risk factor for development of adult T-cell leukemia/lymphoma in Japanese human T-cell leukemia virus type-1 carriers. Cancer Causes Control. 2016;27(9): 1059-66.(doi: 10.1007/s10552-016-0784-8.)
 25. Terao C, Yoshifuji H, Yamano Y, Kojima H, Yurugi K, Miura Y, Maekawa T, Handa H, Ohmura K, Saji H, Mimori T, Matsuda F. Genotyping of relapsing polychondritis identified novel susceptibility HLA alleles and distinct genetic characteristics from other rheumatic diseases. Rheumatology, 2016; 55(9):1686-1692. Epub: 2016 May 30. doi: 10.1093/rheumatology/kew233.
 26. Coler-Reilly ALG, Yagishita N, Suzuki H, Sato T, Araya N, Inoue E, Takata A, Yamano Y. Nation-wide epidemiological study of Japanese patients with rare viral myelopathy using novel registration system (HAM-net). Orphanet J Rare Dis 2016;11(1):69. doi: 10.1186/s13023-016-0451-x.
 27. Yamano Y, Coler-Reilly A. HTLV-1 induces a Th1-like state in CD4+ CCR4+ T cells that produces an inflammatory positive feedback loop via astrocytes in HAM/TSP. J Neuroimmunol 2016 in Press. Available online 12 August 2016. doi:10.1016/j.jneuroim. 2016.08.012
 28. Ishida T, Fujiwara H, Nosaka K, Taira N, Abe Y, Imaizumi Y, Moriuchi Y, Jo T, Ishizawa K, Tobinai K, Tsukasaki K, Ito S, Yoshimitsu M, Otsuka M, Ogura M, Midorikawa S, Ruiz W, Ohtsu T: Multicenter phase II study of lenalidomide in relapsed or recurrent adult T-cell leukemia-lymphoma: ATLL-002. J Clin Oncol 2016;34:4086-93.
 29. Ogura M, Imaizumi Y, Uike N, Asou N, Utsunomiya A, Uchida T, Aoki T, Tsukasaki K, Taguchi J, Choi I, Maruyama D, Nosaka K, Chen N, Midorikawa S, Ohtsu T, Tobinai K: Lenalidomide in relapsed adult T-cell leukaemia-lymphoma or peripheral T-cell lymphoma (ATLL-001): a phase 1, multicentre, dose-escalation study. Lancet Haematol 2016;3:e107-18.
 30. Kitahara H, Maruyama D, Maeshima AM, Makita S, Miyamoto K, Fukuhara S, Munakata W, Suzuki T, Kobayashi Y, Tajima K, Terauchi T, Kurihara H, Taniguchi H, Tobinai K: Prognosis of the patients with peripheral T-cell lymphoma who underwent CHOP/CHOP-like chemotherapy without high-dose chemotherapy followed by autologous stem cell transplantation as an initial treatment. Ann Hematol. 2017;96(3):411-420. doi: 10.1007/s00277-016-2891-8.

31. Takemoto S, Watanabe T, Iwanaga M, Sagara Y. Plasma soluble CD30 as a possible marker of adult T-cell leukemia in HTLV-1 carriers: a nested case-control study. *Asian Pac J Cancer Prev*, 16: 8253-8258, 2015(doi:10.7314/APJCP.2015.16.18.8253)
32. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Shimamura T, Yasunaga JI, Totoki Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Nagae G, Ishii R, Muto S, Kotani S, Watatani Y, Takeda J, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Iwanaga M, Ma G, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Ogasawara H, Sato T, Sasai K, Muramoto K, Penova M, Kawaguchi T, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Yoon SS, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Matsuda F, Takeuchi K, Nureki O, Aburatani H, Watanabe T, Shibata T, Matsuoka M, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S. Integrated molecular analysis of adult T-cell leukemia/lymphoma. *Nat Genet* 2015;47: 1304-1315. (doi:10.1038/ng.3415)
33. Kobayashi S, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Nakano K, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K. Advanced HTLV-1 carriers and early-stage indolent ATLs are indistinguishable based on CADM1 positivity in flow cytometry. *Cancer Sci* 2015;106:598-603 (doi: 10.1111/cas.12639)
34. Ishida Y, Yukizaki C, Okayama A, Kataoka H. Glutathione As Preventive and Therapeutic Target of Adult T-Cell Leukemia /Lymphoma and Its Regulation by Carnosol, a Functional Food Ingredient. *Nova Science Publishers, Inc.* 2015; 127-144.
35. Kuramitsu M, Okuma K, Yamochi T, Sato T, Sasaki D, Hasegawa H, Umeki K, Kubota R, Sobata R, Matsumoto C, Kaneko N, Naruse I, Yamagishi M, Nakashima M, Momose H, Araki K, Mizukami T, Mizusawa S, Okada Y, Ochiai M, Utsunomiya A, Koh KR, Ogata M, Nosaka K, Uchimaru K, Iwanaga M, Sagara Y, Yamano Y, Satake M, Okayama A, Mochizuki M, Izumo S, Saito S, Itabashi K, Kamihira S, Yamaguchi K, Watanabe T, Hamaguchi I. Standardization of Quantitative PCR for Human T-cell Leukemia Virus Type 1 in Japan: A Collaborative Study. *J Clin Microbiol.* 53:3485-91, 2015.
36. Ishibashi T, Yokota T, Tanaka H, Ichii M, Sudo T, Satoh Y, Doi Y, Ueda T, Tanimura A, Hamanaka Y, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y. ESAM is a novel human hematopoietic stem cell marker associated with a subset of human leukemias. *Exp Hematol.* 2016;44(4):269-81.e1. doi: 10.1016/j.exphem.2015.12.010.
37. Fujita N, Ichii M, Maeda T, Saitoh N, Yokota T, Yamawaki K, Kakitani M, Tomizuka K, Oritani K, Kanakura Y. Identification of osteoblast stimulating factor 5 as a negative regulator in the B-lymphopoietic niche. *Exp Hematol.* 2015;43:963-973.e4.
38. Nakamae H, Yoshida C, Miyata Y, Hidaka M, Uike N, Koga D, Sogabe T, Matsumura I, Kanakura Y, Naoe T. A new diagnostic kit, ODK-1201, for the quantitation of low major BCR-ABL mRNA level in chronic myeloid leukemia: correlation of quantitation with major BCR-ABL mRNA kits. *Int J Hematol.* 2015;102:304-311.
39. Yokota T, Oritani K, Sudo T, Ishibashi T, Doi Y, Habuchi Y, Ichii M, Fukushima K, Okuzaki D, Tomizuka K, Yamawaki K, Kakitani M, Shimono A, Morii E, Kincade PW, Kanakura Y. Estrogen-inducible sFRP5 inhibits early B-lymphopoiesis in vivo, but not during pregnancy. *Eur J Immunol.* 2015;45:1390-1401.
40. Sata H, Shibayama H, Maeda I, Habuchi Y, Nakatani E, Fukushima K, Fujita J, Ezoe S, Tadokoro S, Maeda T, Mizuki M,

- Kosugi S, Nakagawa M, Ueda S, Iida M, Tokumine Y, Azenishi Y, Mitsui H, Oritani K, Kanakura Y. Quantitative polymerase chain reaction analysis with allele-specific oligonucleotide primers for individual IgH VDJ regions to evaluate tumor burden in myeloma patients. *Exp Hematol* 2015;43:374-381.e2.
41. Ogura M, Imaizumi Y, Uike N, Asou N, Utsunomiya A, Uchida T, Aoki T, Tsukasaki K, Taguchi J, Choi I, Maruyama D, Nosaka K, Chen N, Midorikawa S, Ohtsu T, Tobinai K: Phase I multicenter, open-label, dose-escalation study of lenalidomide in patients with advanced adult T-cell leukemia/lymphoma or peripheral T-cell lymphoma. *Lancet Hematol*. 2016;3(3): e107-18. doi: 10.1016/S2352-3026 (15) 00284-7.
 42. Ishida T, Joh T, Takemoto S, Suzushima H, Uozumi K, Yamamoto K, Uike N, Saburi Y, Nosaka K, Utsunomiya A, Tobinai K, Fujiwara H, Ishitsuka K, Yoshida S, Taira N, Moriuchi Y, Imada K, Miyamoto T, Akinaga S, Tomonaga M, Ueda R: Dose-intensified chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive ATL: a randomized phase 2 study. *Br J Haematol* 2015;169:672-682.
 43. Katsuya H, Ishitsuka K, Utsunomiya A, Hanada S, Eto T, Moriuchi Y, Saburi Y, Miyahara M, Sueoka E, Uike N, Yoshida S, Yamashita K, Tsukasaki K, Suzushima H, Ohno Y, Matsuoka H, Jo T, Amano M, Hino R, Shimokawa M, Kawai K, Suzumiya J, Tamura K: Treatment and survival among 1594 patients with ATL diagnosed in the 2000s: a report from the ATL-PI project performed in Japan. *Blood* 2015;126:2570-2577.
 44. Yoshida N, Tsuzuki S, Karube K, Takahara T, Suguro M, Miyoshi H, Nishikori M, Shimoyama M, Tsukasaki K, Ohshima K, Seto M: STX11 functions as a novel tumor suppressor gene in peripheral T-cell lymphomas. *Cancer Sci* 2015;106:1455-1462.
 45. Yoshida N, Imaizumi Y, Utsunomiya A, Miyoshi H, Arakawa F, Tsukasaki K, Ohshima K, Seto M: Mutation Analysis for TP53 in Chronic-Type Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma. *J Clin Exp Hematol* 2015;55:13-16.
 46. Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Yagishita N, Ando H, Kunitomo Y, Takahashi K, Tanaka Y, Shibagaki Y, Nishioka K, Nakajima T, Hasegawa Y, Utsunomiya A, Kimura K, Yamano Y. Mogamulizumab, an anti-CCR4 antibody, targets human T-lymphotropic virus type I-infected CD8+ as well as CD4+ T cells to treat associated myelopathy. *J Infect Dis*, 2015;211(2):238-248.
 47. Ishihara M, Araya N, Sato T, Saichi N, Fujii R, Yamano Y, Sugano S, Ueda K. A plasma diagnostic model of human T-cell leukemia virus-1 associated myelopathy. *Ann Clin Transl Neurol* 2015;2:231-240.
 48. Martin F, Inoue E, Cortese ICM, de Almeida Kruschewsky R, Adonis A, Grassi MFR, Galvão-Castro B, Jacobson S, Yamano Y, Taylor GP, Bland M. Timed walk as primary outcome measure of treatment response in clinical trials for HTLV-1-associated myelopathy: a feasibility study. *Pilot Feasibility Stud*. 2015;1:35. eCollection 2015.
 49. Yasuma K, Matsuzaki T, Yamano Y, Takashima H, Matsuoka M, Saito M. HTLV-1 subgroups associated with the risk of HAM/TSP are related to viral and host gene expression in peripheral blood mononuclear cells, independent of the transactivation functions of the viral factors. *J Neurovirol* 2016;22(4):416-30. doi: 10.1007/s13365-015-0407-2.
 50. Kobayashi S, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Nakano K, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K. Advanced HTLV-1 carriers and early-stage indolent ATLs are indistinguishable based on

- CADM1 positivity in flow cytometry. *Cancer Sci* 2015;106(5):598-603. doi: 10.1111/cas.12639.
51. Kuramitsu M, Okuma K, Yamagishi M, Yamochi T, Firouzi S, Momose H, Mizukami T, Takizawa K, Araki K, Sugamura K, Yamaguchi K, Watanabe T, Hamaguchi I. Identification of TL-Om1, an ATL Cell Line, as a Reference Material for Human T-Lymphotropic Virus 1 Quantitative PCR. *J Clin Microbiol* 2015;53(2):587-596. (doi: 10.1128/JCM.02254-14)
 52. Kawamata T, Ohno N, Sato K, Kobayashi M, Jo N, Yuji K, Tanosaki R, Yamano Y, Tojo A, Uchimaru K. A case of post-transplant adult T-cell leukemia/lymphoma presenting myelopathy similar to but distinct from human T-cell leukemia virus type I (HTLV- I)-associated myelopathy. *Springerplus*. 2014;3:581. doi: 10.1186/2193-1801-3-581. eCollection 2014
 53. Ishigaki T, Zaike Y, Nojima M, Kobayashi S, Ohno N, Uchimaru K, Tojo A, Nakauchi H, Watanabe N. Quantification of adult T-cell leukemia/lymphoma cells using simple four-color flow cytometry. *Clin Chem Lab Med*. 2015;53(1):85-93. doi: 10.1515/cclm-2014-0183
 54. Ishida T, Joh T, Takemoto S, Suzushima H, Uozumi K, Yamamoto K, Uike N, Saburi Y, Nosaka K, Utsunomiya A, Tobinai K, Fujiwara H, Ishitsuka K, Yoshida S, Taira N, Moriuchi Y, Imada K, Miyamoto T, Akinaga S, Tomonaga M, Ueda R: Dose-intensified chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive ATL: a randomized phase 2 study. *Br J Haematol* 2015;169 (5):672-82. doi: 10.1111/bjh.13338.
 55. Takahashi R; Yamagishi M, Nakano K, Yamochi T, Yamochi T, Fujikawa D, Nakashima M, Tanaka Y, Uchimaru K, Utsunomiya A, Watanabe T. Epigenetic deregulation of Ellis Van Creveld confers robust Hedgehog signaling in adult T-cell leukemia. *Cancer Sci* 105(9):1160-1169, Sep. 2014 (doi: 10.1111/cas.12480)
 56. Firouzi S, López Y, Suzuki Y, Nakai K, Sugano S, Yamochi T, Watanabe T. Development and validation of a new high-throughput method to investigate the clonality of HTLV-1-infected cells based on provirus integration sites. *Genome Med* 2014;6(6):46. (doi:10.1186/gm568)
 57. Kobayashi S, Nakano K, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Oyaizu N, Asanuma S, Yamagishi M, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K. CADM1 expression and stepwise downregulation of CD7 are closely associated with clonal expansion of HTLV-1-infected cells in adult T-cell leukemia/lymphoma. *Clin Cancer Res* 2014;20(11):2851-2861. (DOI: 10.1158/1078-0432.CCR-13-3169)
 58. Wada H, Isobe M, Kakimi K, Mizote Y, Eikawa S, Sato E, Takigawa N, Kiura K, Tsuji K, Iwatsuki K, Yamasaki M, Miyata H, Matsushita H, Udono H, Seto Y, Yamada K, Nishikawa H, Pan L, Venhaus R, Oka M, Doki Y, Nakayama E. Vaccination with NY-ESO-1 overlapping peptides mixed with Picibanil OK-432 and montanide ISA-51 in patients with cancers expressing the NY-ESO-1 antigen. *J Immunother* 2014; 37: 84-92.
 59. Tada K, Hamada T, Asagoe K, Umemura H, Mizuno-Ikeda K, Aoyama Y, Otsuka M, Yamasaki O, Iwatsuki K. Increase of DC-LAMP+ mature dendritic cell subsets in dermatopathic lymphadenitis of mycosis fungoides. *Eur J Dermatol* 2014;24: 670-675
 60. Umekita K, Hidaka T, Miyauchi S, Ueno S, Kubo K, Takajo I, Hashiba Y, Kai Y, Nagatomo Y, Okayama A. Treatment with anti-tumor necrosis factor biologics agents in

- human T-lymphotropic virus type 1 positive patients with rheumatoid arthritis. *Arthritis Care Res.* 2014;66:788-92. doi: 10.1002/acr.22205.
61. Rai S, Tanaka H, Suzuki M, Ogoh H, Taniguchi Y, Morita Y, Shimada T, Tanimura A, Matsui K, Yokota T, Oritani K, Tanabe K, Watanabe T, Kanakura Y, Matsumura I. Clathrin assembly protein CALM plays a critical role in KIT signaling by regulating its cellular transport from early to late endosomes in hematopoietic cells. *PLoS One.* 2014;9(10):e109441.
 62. Ichii M, Oritani K, Kanakura Y. Early B lymphocyte development: Similarities and differences in human and mouse. *World J Stem Cells.* 2014;6(4):421-31.
 63. Yokota T, Kanakura Y. Role of tissue-specific AT-rich DNA sequence-binding proteins in lymphocyte differentiation. *Int J Hematol.* 2014;100(3): 238-45.
 64. Fujita N, Oritani K, Ichii M, Yokota T, Saitoh N, Okuzaki D, Sekine Y, Kon S, Muromoto R, Saitoh K, Yoshimura A, Matsuda T, Kanakura Y. Signal-transducing adaptor protein-2 regulates macrophage migration into inflammatory sites during dextran sodium sulfate induced colitis. *Eur J Immunol.* 2014;44(6):1791-801.
 65. Tanimura A, Shibayama H, Hamanaka Y, Fujita N, Ishibashi T, Sudo T, Yokota T, Ezoe S, Tanaka H, Matsumura I, Oritani K, Kanakura Y. The anti-apoptotic gene Anamorsin is essential for both autonomous and extrinsic regulation of murine fetal liver hematopoiesis. *Exp Hematol.* 2014;42(5): 410-422.e4.
 66. Yamaguchi M, Takata K, Yoshino T, Ishizuka N, Oguchi M, Kobayashi Y, Isobe Y, Ishizawa K, Kubota N, Itoh K, Usui N, Miyazaki K, Wasada I, Nakamura S, Matsuno Y, Oshimi K, Kinoshita T, Tsukasaki K, Tobinai K on behalf of the Lymphoma Study Group of the Japan Clinical Oncology Group: Prognostic value of LMP1 and T-cell origin in patients with localized NK/T-cell lymphoma treated with concurrent chemoradiotherapy. *Cancer Sci* 2014;105:1435-1441.
 67. Fukushima T, Nomura S, Shimoyama M, Moriuchi Y, Shibata T, Utsunomiya A, Tamura K, Ishitsuka K, Yoshida S, Uike N, Nosaka K, Hidaka M, Fukushima N, Uozumi K, Masuda M, Yamada Y, Kaba H, Watanabe Y, Fukuda H, Hotta T, Tobinai K, Tsukasaki K: The Japan Clinical Oncology Group (JCOG) prognostic index and characterization of long-term survivors of aggressive adult T-cell leukemia-lymphoma (JCOG0902A). *Br J Haematol* 2014; 166:739-748.
 68. Ogura M, Ishida T, Ando K, Tobinai K, Uike N, Tanimoto M, Tsukasaki K, Ishizawa K, Suzumiya J, Inagaki H, Tamura K, Akinaga S, Tomonaga M, Ueda R: Multicenter phase II study of mogamulizumab (KW-0761), a defucosylated anti-CCR4 antibody, in patients with relapsed peripheral T-cell lymphoma and cutaneous T-cell lymphoma. *J Clin Oncol* 2014;32: 1157-1163.
 69. Tsukasaki K, Tobinai K: Human T-cell leukemia virus type I-associated adult T-cell leukemia-lymphoma: new directions in clinical research. *Clin Cancer Res* 2014; 20(20):5217-5225.
 70. O'Connor OA, Tobinai K: Putting the clinical and biological heterogeneity of non-Hodgkin's lymphoma into context. *Clin Cancer Res* 2014;20:5173-81.
 71. Makiyama J, Imaizumi Y, Tsushima H, Taniguchi H, Moriwaki Y, Sawayama Y, Imanishi D, Taniguchi J, Hata T, Tsukasaki K, Miyazaki Y. Treatment outcome elderly patients with aggressive adult T cell leukemia-lymphoma: Nagasaki University Hospital experience. *Int J Hematol* 2014; 100:464-472.
 72. Yoshida N, Karube K, Utsunomiya A, Tsukasaki K, Imaizumi Y, Taira N, Uike N, Umino A, Arita K,

- Suguro M, Tsuzuki S, Kinoshita T, Ohshima K, Seto M. Molecular Characterization of Chronic-type Adult T-cell Leukemia/Lymphoma. *Cancer Res* 2014;74(21):6129-6138.
73. Taniguchi H, Hasegawa H, Sasaki D, Ando K, Sawayama Y, Imanishi D, Taguchi J, Imaizumi Y, Hata T, Tsukasaki K, Uno N, Morinaga Y, Yanagihara K, Miyazaki Y. Heat shock protein 90 inhibitor NVP-AUY922 exerts potent activity against adult T-cell leukemia-lymphoma cells. *Cancer Sci* 2014;105(12):1601-1608.
74. Makiyama J, Imaizumi Y, Tsushima H, Taniguchi H, Moriwaki Y, Sawayama Y, Imanishi D, Taguchi J, Hata T, Tsukasaki K, Miyazaki Y. Treatment outcome of elderly patients with aggressive adult T cell leukemia-lymphoma: Nagasaki University Hospital experience. *Int J Hematol* 2014; 100(5):464-472.
75. Araya N, Sato T, Ando H, Tomaru U, Yoshida M, Coler-Reilly A, Yagishita N, Yamauchi J, Hasegawa A, Kannagi M, Hasegawa Y, Takahashi K, Kunitomo Y, Tanaka Y, Nakajima T, Nishioka K, Utsunomiya A, Jacobson S, Yamano Y. HLVL-1 induces a Th1-like state in CD4+CCR4+ T cells. *J Clin Invest* 2014;124(8):3431-3442.
76. Suzuki N, Shimizu J, Oka H, Yamano Y, Yudoh K. Neurological involvement of relapsing polychondritis in Japan: An epidemiological study. *Inflam Regen* 2014; 34(4):206-208.
77. Ishihara M, Araya N, Sato T, Saichi N, Fujii R, Yamano Y, Sugano S, Ueda K. A plasma diagnostic model of human T cell leukemia virus-1 associated. *Ann Clin Transl Neurol*. 2015;2(3):231-40. doi: 10.1002/acn3.169.
78. Coler-Reilly A, Ando H, Yamano Y. Positive feedback loop via astrocytes causes chronic inflammation in human T lymphotropic virus type 1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. *Clin Exp Neuroimmunol* 2014; 5:108-109.
79. Ishitsuka K, Tamura K. Human T-cell leukaemia virus type I and adult T-cell leukaemia-lymphoma. *Lancet Oncol*. 2014;15(11):e517-e526.
80. Kunami N, Katsuya H, Nogami R, Ishitsuka K, Tamura K. Promise of combining a Bcl-2 family inhibitor with bortezomib or SAHA for adult T-cell leukemia/lymphoma. *Anticancer Res*. 2014;34(10):5287-5294.
- (総説)
1. 齋藤 滋 : 妊娠・分娩・産褥時の対心 ⑥HTLV-1. 周産期医学, in press
 2. 齋藤 滋 : HTLV-1キャリア. 周産期医学. 2016;46:1255-1258.
 3. Younes A, Ansell S, Fowler N, Wilson W, de Vos S, Seymour J, Advani R, Forero A, Morschhauser F, Kersten MJ, Tobinai K, Zinzani PL, Zucca E, Abramson J, Vose J: The landscape of new drugs in lymphoma. *Nat Rev Clin Oncol*, 2016: 29 December 2016 | doi:10.1038/nrclinonc.2016. 205.
 4. Makita S, Tobinai K: Clinical features and current optimal management of NK/T-cell lymphoma. *Hematol/Oncol Clin North Am*, Published online: January 30, 2017.
 5. 岩月啓氏、「皮膚T細胞リンパ腫研究 菌状息肉症とSézary症候群のバイオマーカーを読み解く」, 細胞, 48(6): 272-276, 2016年6月
 6. 岩月啓氏、「皮膚T細胞リンパ腫研究 総論 皮膚とTリンパ球サブセットと腫瘍化」, 細胞, 48(6): 262-263, 2016年6月
 7. 岡山昭彦, 梅北邦彦. HTLV-1感染と関節リウマチ. *臨床免疫・アレルギー科*. 2016; 66: 428-433
 8. 岩永正子、【特集：成人T細胞白血病（ATL）研究の現状】1. HTLV-1感染症の疫学とコホート研究. *血液フロンティア* 26(4): 21-28, 2016
 9. 岩永正子、【生涯教育シリーズ】HTLV-1感染症. *長崎市医師会報* 592(6): 30-36, 2016
 10. 山野嘉久. HAM に対するヒト化 CCR4 抗体の医師主導治験. *臨床評*

- 価, **43(2):418-421, 2016.**
11. 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症の病態に基づいた疾患修飾薬の開発. **Modern Physician, 36(7):682-687, 2016年7月.**
 12. 新谷奈津美, 佐藤知雄, アリエラ・コラライリー, 八木下尚子, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の分子病態解明による治療薬開発の新展開. **Jpn J Clin Immunol, 39(3):207-212, 2016.**
 13. 山野嘉久, 齋藤 滋. HTLV-1. 産科と婦人科, **83(9): 1021-1026, 2016. (2016年9月1日発行)**
 14. 石塚賢治【造血管腫瘍のゲノム/エピゲノム解析研究と免疫/分子標的療法の進歩】成人 T 細胞白血病・リンパ腫におけるゲノム解析と免疫/分子標的療法、血液内科 **73 巻 5 号, 612-616, 2016**
 15. 石塚賢治【低悪性度血液腫瘍に対する無治療経過観察と合理的な治療介入基準】くすぶり型・慢性型成人 T 細胞白血病・リンパ腫に対する無治療経過観察と合理的な治療介入基準、血液内科 **73 巻 1 号, 46-51, 2016**
 16. 濱田利久, 岩月啓氏, 日本皮膚 悪性腫瘍学会 皮膚がん予後統計委員会 「皮膚リンパ腫 全国症例数調査の結果 2014」日本皮膚悪性腫瘍学会 HP、皮膚がん予後統計報告、皮膚リンパ腫
 17. 飛内賢正: HTLV-1 と ATL. / **Human T-lymphotropic virus type-I and adult T-cell leukemia-lymphoma. シンポジウム2. ウイルス感染と腫瘍。日本内科学会雑誌 2015;104:1872-7**
 18. 塚崎邦弘: [リンパ腫の治療, 各論成人 T 細胞白血病リンパ腫 (ATL)] リンパ腫学-最新の研究動向, 日本臨牀 **73(8):522-528, 2015. 2015年10月**
 19. **Bangham C, Araujo A, Yamano Y & Taylor G. HTLV-I-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis. Nat Rev Disease Primers, 1, 2015.**
 20. **Yamano Y. How does human T-lymphotropic virus type 1 cause central nervous system disease? The importance of cross-talk between infected T cells and astrocytes. Clin Exp Neuroimmunol, 6: 395-401, 2015.**
 21. 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) - 分子病態解明による治療薬開発の新展開. 医学のあゆみ, **255:485-490, 2015.**
 22. 石塚賢治, 山野嘉久, 宇都宮 與, 内丸 薫. HTLV-1 キャリア外来の実態調査. 臨床血液, **56:666-672, 2015.**
 23. 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 力石辰也, 山野嘉久, 柴垣有吾. HTLV-1 陽性ドナーからの生体腎移植によりレシピエントに発症する HAM の特徴. 日本透析医学会雑誌, **48(1):483, 2015.**
 24. 山野嘉久, 新谷奈津美, 八木下尚子, 佐藤知雄. 免疫性神経疾患 - 基礎・臨床研究の最新知見 -. 日本臨牀, **73(7): 546-553, 2015.**
 25. 齋藤 滋. 妊産婦診療における HTLV-1 キャリア検出のための診断の進め方とキャリア妊婦支援の必要性. 日産婦医会報. **2015;67:10-11.**
 26. 齋藤 滋. シンポジウム 7 「HTLV-1 母子感染予防」 HTLV-1 母子感染対策協議会の役割と運営. 日本周産期・新生児医学会雑誌. **2015; 51: 79-82.**
 27. 板橋家頭夫, 齋藤 滋. シンポジウム 7 「HTLV-1 母子感染予防」座長のまとめ. 日本周産期・新生児医学会雑誌. **2015; 51: 69.**
 28. 齋藤 滋. 母子感染予防に関する最新事情—特に HTLV-1、CMV に関して— **ABBOT NEWS. 2015.7.17.**
 29. 齋藤 滋. HTLV-1 母子感染予防事業の意義. キャリねっとコラム. **2015.12.3**
 30. 渡邊俊樹, III 章. 主要な感染症 (原因微生物毎) **J. RNA ウイルス感染症 「ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型感染症 (Human T-cell leukemia virus type Infection)」**, 日本医師会雑誌 『感染症診療 update』, **143 巻・特別号 (2): 394-397, 2014年10月15日**
 31. 渡邊俊樹, 特集 **マイクロ RNA と血液疾患 「マイクロ RNA 発現異常と HTLV-1 による成人 T 細胞白血病 (ATL) 発症」**, 血液内科, **68(6): 781-785, 2014年6月**
 32. 岡山昭彦. HTLV-1 感染と自己免疫疾患における **clinical questions**. 臨床免疫・アレルギー科. **2014; 62(6):686 - 691.**
 33. 内丸 薫 わが国における HTLV-1 キャリアと ATL 患者に対する相談機能と知識の普及 血液内科 **68(1); 58-64, 2014**
 34. 内丸 薫 成人 T 細胞白血病 (ATL) 検査と技術 **42; 1370-1375, 2014**

35. 内丸 薫 成人T細胞白血病 **medicina 52(4) in press**
36. 石田高司,伊藤 旭,戸倉新樹,田中淳司,鷗池直邦,飛内賢正,塚崎邦弘:[血液内科医・皮膚科医のための統合ATL診療ガイドライン解説書2014]臨床血液**55(11):2257-2261,2014.**
37. 北野滋久,塚崎邦弘:[免疫療法の逆襲を現実化した免疫check pointの修飾] Tregによる免疫反応の制御とimmune checkpointによる免疫修飾の違い. 血液内科**14(5):469-474,2014.**
38. 塚崎邦弘:[プロからプロへ:臨床各科の一線医師同士が日常診療の疑問点を検証]初発進行性濾胞性リンパ腫の治療方針. 日本医事新報**4725:54-55,2014.**
39. 塚崎邦弘:[血液腫瘍に対する臨床試験のinfrastructure—現状の問題点と今後の方向性]リンパ系腫瘍患者に対するJCOGリンパ腫グループによる研究:過去,現在,将来.血液内科**69(1):26-37,2014.**
40. 上田裕二郎,塚崎邦弘:慢性リンパ性白血病の新たな治療戦略について. 血液内科**68(5):650-656,2014.**
41. 根津雅彦,塚崎邦弘:[内科疾患 最新の治療 明日への指針]第9章 血液成人T細胞白血病・リンパ腫.内科**113(6):1508-1509,2014.**
42. 加藤知爾,矢野友規,桑田 健,塚崎邦弘:[消化管悪性リンパ腫2014]消化管原発 aggressive lymphoma-diffuse large B-cell lymphoma.胃DLBCLの診断と治療(臨床試験に基づく治療).胃と腸**49(5):720-728,2014.**
43. 湯浅博美,塚崎邦弘:治療関連急性前骨髄球性白血病の臨床的特徴と治療.血液内科**68(4):505-509,2014.**
44. 塚崎邦弘:[抗体によるがん分子標的治療]臓器別がんに対する抗体療法.白血病に対する抗体療法.最新醫學**69(3):69-75,2014.**
45. 塚崎邦弘:[リンパ腫-検査・診断と治療の最新動向-] .リンパ腫の治療.成人T細胞白血病・リンパ腫.日本臨牀**72(3):531-537,2014.**
46. 塚崎邦弘:[最新がん薬物療法学-がん薬物療法の最新知見-] .臓器別がんの薬物療法.慢性骨髄性白血病.日本臨牀**72(2):440-447,2014.**
47. 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM). 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ 神経症候群 (第2版), **30 : 153-156, 2014.**
48. 山野嘉久. HTLV-1の神経障害. 内科,**113(6):1431, 2014.**
49. 山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)の分子病態に基づく治療戦略. 細胞,**46(6):258-261, 2014.**
50. 山野嘉久. ヒト細胞白血病ウイルス型関連脊髄症. 神経関連感染症最新医学 別冊,**200-205, 2014.**
51. 新谷奈津美, 山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)に対する分子標的治療薬開発の現状と将来. 血液内科,**68(1) 30-35, 2014.**
52. 山野嘉久. 希少な慢性進行性の神経難病HAMにおける治療有効性評価モデルの探索. 臨床評価 別冊,**41(3):504-508, 2014.**
53. 森内浩幸. 特集 母乳をめぐる諸問題 母乳とヒトT細胞白血病ウイルス型(HTLV-1)感染. 東京小児科医会報 **32(3):14-19, 2014.**
54. 森内浩幸. 特集 母乳をめぐる諸問題 母乳とヒトT細胞白血病ウイルス型(HTLV-1)感染. 東京小児科医会報 **32(3):14-19, 2014.**
55. 森内昌子, 森内浩幸. .感染症-47 HTLV-I感染症. 小児内科 **46(増刊号): 418-424, 2014.**
56. 齋藤 滋. 産科医、小児科医、助産師、保健師でサポートするHTLV-1母子感染対策. 第40回日本産婦人科医会学術集会記念誌. **34-35, 2014.**
57. 齋藤 滋. HTLV-1 - その発見から母子感染対策事業となるまで -. 日本産科婦人科学会雑誌. **66(4): 1155-1161, 2014.**
58. 齋藤 滋. 特集 HTLV-1と母乳育児「HTLV-1 抗体検査の理解」. 助産雑誌. **68(1): 17-21, 2014.**
59. 齋藤 滋. 日本産婦人科医会学術集会特集号 産科医、小児科医、助産師、保健師でサポートするHTLV-1母子感染対策. 日本産婦人科医会報. **66(2): 10-11 , 2014.**
- (著書)
1. 齋藤 滋、HTLV-I.「改訂第2版 症例から学ぶ周産期診療ワークブック」日本周産期・新生児学会編,メジカルビュー社,東京,**P214-216, 2016.**
2. 岩月啓氏、濱田利久、「菌状息肉症・Sézary症候群」造血管腫瘍アトラス、谷脇雅史・横田昇平・黒田純也編、日本医事新報社、**616-622, 2016年8月**
2. 学会発表 (国際学会)

1. Yamagishi M, Hori M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Ohsugi T, Nakano K, Nakashima M, Kobayashi S, Iwanaga M, Utsunomiya A, Okada S, Tsukasaki K, Tobinai K, Araki K, Watanabe T, Uchimaru K, "Development and molecular analysis of synthetic lethality by targeting EZH1 and EZH2 in T cell lymphomas", 9th Annual T-Cell Lymphoma Forum, The Fairmont Hotel, San Francisco, CA, U.S.A., Jan. 28(Jan. 26-28, 2017) (Oral)
2. Yamagishi M, Hori M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Ohsugi T, Nakano K, Nakashima M, Kobayashi S, Iwanaga M, Utsunomiya A, Okada S, Tsukasaki K, Tobinai K, Araki K, Watanabe T, Uchimaru K, "Development and Molecular Analysis of Synthetic Lethality By Targeting EZH1 and EZH2 in Non-Hodgkin Lymphomas", the 58th ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego Convention Center, San Diego, CA, U.S.A., Dec. 4, 2016(Dec. 3-6, 2016) (Oral & Poster) (2016 ASH Abstract Achievement Award)
3. Imaizumi Y, Iwanaga M, Nosaka K, Ito S, Kenji Ishitsuka, Atae Utsunomiya, Yoshiki Tokura, Takeaki Tomoyose, Kazuya Shimoda, Kensei Tobinai, Toshiki Watanabe, Uchimaru K, Tsukasaki K "Treatment and Prognosis in Patients with Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma (ATL): A Nationwide Survey in Japan" the 58th ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego Convention Center, San Diego, CA, U.S.A (Dec. 3-6, 2016) Abstract presentation, 5936, Blood 128 (22): 2016
4. Daisuke Nakamura, Makoto Yoshimitsu, Tomohisa Tabuchi, Naosuke Arima, Maiko Hayashida, Hirose Inoue, Kakushi Matsushita, Tadaishi Matsumoto, Naomichi Arima and Kenji Ishitsuka "OPEC/Mpec for Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma: A Single-Institution Study." Blood 2016 128:1828; the 58th ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego Convention Center, San Diego, CA, U.S.A., Dec. 4, 2016(Dec. 3-6, 2016) (Poster)
5. Yamano Y. Viruses in neuroimmunological disorders. 13th International Congress of Neuroimmunology (ISNI 2016), 26-29 September 2016, Jerusalem, Israel.
6. Watanabe T, "Polycomb-dependent epigenetic landscape in ATL: proof of concept for targeting EZH1/2", Malignant Lymphoma Academy 2016, Sehraton Miyako Hotel Tokyo, Tokyo, Aug. 6, 2016(Aug. 6-7, 2016) Invited
7. Iwatsuki K, "Lymphomas in Asia: Virus-related lymphomas", 10th Asian Dermatological Congress, Sahara Star International Convention Centre, Mumbai, India, Oct. 14, 2016 (Oct. 13-16, 2016) (Oral)
8. Iwatsuki K, Yamaguchi M, Hamada T, Sugaya M, Miura M, Ohshima K, Morishita K, "Cell adhesion molecule 1 is a biomarker for leukemic cells in progressive or refractory Sézary syndrome", 3rd World Congress of Cutaneous Lymphomas, Columbia University, NY, U.S.A. Oct. 27, 2016 (Oct. 26-28, 2016) (Oral & Poster)
9. Hamanaka Y, Shibayama H, Tanimura A, Yokota T, Ezoe S, Ichii M, Ishibashi T, Doi Y, Nagate Y, Oritani K, Kanakura Y, "Anamorsin is essential for B-cell terminal differentiation", 21st Congress of the European Hematology Association, Bella Center, Copenhagen, Denmark, Jun.11, 2016(Jun.9-12, 2016)(Poster)
10. Shibayama H, Kawaguchi T, Kuroda J, Nakamae H, Matsumura I, Miyamoto T, Ishikawa J, Kamimura T, Fukushima K, Imamura Y, Eto T, Sunami K, Shimokawa M, Akashi K, Kanakura Y, "Safety and Efficacy of a Switch to Nilotinib in Patients with CML-CP Showing MMR to Imatinib: Results of a Multicenter Phase II Trial (NILSw Trial) ", The American Society of Hematology 58th Annual Meeting,

- San Diego convention center, San Diego, CA, U.S.A., Dec.3, 2016 (Dec.3-6, 2016)(Poster)
11. Doi Y, Yokota T, Satoh Y, Ueda T, Shingai Y, Ichii M, Tanimura A, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kohwi-Shigematsu T, Kanakura Y, “SATB1 Expression Helps in Identification of the Lymphoid-Lineage-Biased Trajectory of Functionally Fluctuating Hematopoietic Stem Cells”, The American Society of Hematology 58th Annual Meeting, San Diego convention center, San Diego, CA, U.S.A., Dec.4, 2016 (Dec.3-6, 2016)(Oral)
 12. Ueda T, Yokota T, Shingai Y, Doi Y, Ishibashi T, Sudo T, Nagate Y, Tanimura A, Tokunaga M, Fujita J, Ichii M, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y, “Endothelial Cell-Selective Adhesion Molecule (ESAM) Is Required for the Ontogeny of Definitive Hematopoietic System in Mice”, The American Society of Hematology 58th Annual Meeting, San Diego convention center, San Diego, CA, U.S.A., Dec.5, 2016 (Dec.3-6, 2016) (Poster)
 13. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Yasunaga JI, Iwanaga M, Shiraishi Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ken Ishiyama, Miyawaki S, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Shibata T, Miyano S, Matsuoka M, Shimoda K, Watanabe T, Ogawa S, “Prognostic Impact of Integrated Genomic Genetic Profiling in Adult T-cell Leukemia/Lymphoma” EHA 2016 (21st European Hematology Association Congress), Copenhagen, Denmark, Jun 9-12, 2016. (Poster Presentation EHA21, June 11, 2016)
 14. Yamagishi M, Fujikawa D, Ohsugi T, Honma D, Adachi N, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Tsukasaki K, Araki K, Watanabe T, “Polycomb-dependent epigenetic landscape in adult T cell leukemia (ATL); providing proof of concept for targeting EZH1/2 to selectively eliminate the HTLV-1 infected population”, T-cell Lymphoma Forum 2016, San Francisco, CA, U.S.A., Jan. 29, 2016(Jan. 28-30, 2016) (Oral)
 15. Tobinai K: New agents in Japan. Oral Presentation. T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, 2016.
 16. Nosaka K, Fujiwara H, Ishida T, Taira N, Abe Y, Imaizumi Y, Moriuchi Y, Jo T, Ishizawa K, Tobinai K, Tsukasaki K, Ito S, Yoshimitsu M, Otsuka M, Ogura M, Midorikawa S, Ruiz W, Ohtsu T: A phase II multicenter study of lenalidomide in patients with relapsed or recurrent adult T-cell leukemia-lymphoma (ATLL-002). Oral and Poster Session, T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, 2016.
 17. Yamagishi M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Tsukasaki K, Araki K, Watanabe T, “Polycomb-Dependent Epigenetic Landscape in Adult T Cell Leukemia (ATL); Providing Proof of Concept for Targeting EZH1/2 to Selectively Eliminate the HTLV-1 Infected Population”, the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, FL, U.S.A., Dec. 7, 2015(Dec. 5-8, 2015) (Oral) ASH Abstract Achievement Award
 18. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Yasunaga J, Iwanaga M, Shiraishi Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K,

- Miyawaki S, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Shibata T, Miyano S, Matsuoka M, Shimoda K, Watanabe T, Ogawa S, “Prognostic Relevance of Integrated Genetic Profiling in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma”, the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, FL, U.S.A., Dec. 6, 2015(Dec. 5-8, 2015) (Poster)
19. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Yasunaga J, Totoki Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Kotani S, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Ma G, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Watanabe T, Shibata T, Matsuoka M, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S, “Frequent Activating Somatic Alterations in T-Cell Receptor / NF-kb Signaling in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma”, the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, FL, U.S.A., Dec. 5, 2015(Dec. 5-8, 2015) (Oral)
20. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Totoki Y, Yasunaga J, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Matsuoka M, Shibata T, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S: Next-generation sequencing reveal proviral genome and transcriptome in adult T-cell leukemia/lymphoma. Poster Presentation, Abstract #882, the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, 2015.
21. Yamagishi M, Katano H, Hishima T, Ota Y, Okada S, Watanabe T, “Epigenetically Programmed Defenseless Signaling in Malignant Lymphoma”, the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, FL, U.S.A., Dec. 5, 2015(Dec. 5-8, 2015) (Poster)
22. Fujikawa D, Yamagishi M, Nakagawa S, Kurokawa N, Soejima A, Kobayashi S, Uchimaru K, Tanaka Y, Nakano K, Watanabe T, “EZH2-dependent epigenetic landscape in adult T-cell leukemia and Tax-immortalized cells”, 17th International Conference on Human Retrovirology HTLV & Related Viruses, the Carayou Hotel, Martinique, France, June 19, 2015 (June 18-22, 2015) (Oral)
23. Namba H, Hamada T, Iwatsuki K. Human T-cell leukemia virus type 1-positive lymphomatoid papulosis. Eur J Dermatol 2016; Epub ahead of print.
24. Umekita K, Miyauchi S, Kubo K, Umeki K, Nomura H, Mao Komura M, Iwao K, Takajo I, Nagatomo Y, Toshihiko Hidaka T, Okayama A. IL-6 May Have an Important Role in the Resistance to Anti-TNF Therapies of Human T-Lymphotropic Virus Type 1 (HTLV-1) Positive Rheumatoid Arthritis (RA) Patients; HTLV-1 Infected Cells Activate the Inflammatory Responses of RA Synovial Fibroblasts. 2015 ACR/ARHP Annual Meeting. ACR Poster Session A 544. 2015. (November 6–11(8 presentation), Moscone Center, San Francisco)
25. Ishibashi T, Yokota T, Tanaka H, Ichii M, Sudo T, Satoh Y, Doi Y, Tanimura A, Hamanaka Y, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y: ESAM is a novel human hematopoietic stem cell marker associated with a subset of human leukemias. Poster Presentation. the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, FL, U.S.A., Dec 5-8, 2015
26. Doi Y, Yokota T, Ishibashi T, Satoh Y, Ichii M, Tanimura A, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y: SATB1 expression marks lymphoid-lineage-biased hematopoietic stem cells in

- mouse bone marrow. Poster Presentation. the 57th ASH Annual Meeting and Exposition Orlando, FL, U.S.A., Dec 5-8, 2015
27. Ishibashi T, Yokota T, Tanaka H, Ichii M, Sudo T, Satoh Y, Doi Y, Tanimura A, Hamanaka Y, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y: SATB1 expression marks lymphoid-lineage-biased hematopoietic stem cells in mouse bone marrow. Poster Presentation. the 57th ASH Annual Meeting and Exposition Orlando, FL, U.S.A., Dec 5-8, 2015
 28. Katsuya H, Shimokawa M, Ishitsuka K, Kawai K, Amano M, Utsunomiya A, Hino R, Hanada S, Jo T, Tsukasaka K, Shizumiya J, Tamura K. Prognostic index for chronic and smoldering type adult T-cell leukemia/lymphoma. The 77th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology, Ishikawa, Japan, October 16-18, 2015 (Oral Session77)
 29. Hiroo, K, Shimokawa M, Ishitsuka K, Kawai K, Amano M, Utsunomiya A, Hino R, Hanada S, Jo T, Tsukasaka K, Moriuchi Y, Sueoka E, Yoshida S, Suzushima H, Miyahara M, Yamashita K, Eto T, Yamanaka T, Suzumiya J, Tamura K. Prognostic index for chronic and smoldering types adult T-cell leukemia/lymphoma. 2015 ASCO Annual Meeting, Chicago, Illinois, U.S.A., May.29-June.2, 2015.(ポスター)
 30. Yamano Y. HTLV-1 induces a Th1-like state in CD4+CCR4+ T cells that produces an inflammatory positive feedback loop via astrocytes in HAM/TSP. 40Years of Neuroimmunology, 19-20 April 2015, Bethesda, Maryland, USA.
 31. Yamano Y, Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Yagishita N, Kunitomo Y, Takahashi K, Tanaka Y, Akiyama H, Hasegawa Y, Utsunomiya A. Humanized anti-CCR4 antibody KW0761 targets HTLV-1-infected CD4+CCR4+ and CD8+CCR4+ T-cells to treat HAM/TSP. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies (FWI).[Carayou Hotel]
 32. Araya N, Sato T, Tomaru U, Coler-Reilly A, Yagishita N, Yamauchi J, Hasegawa A, Kannagi M, Akiyama H, Hasegawa Y, Takahashi K, Kunitomo Y, Tanaka Y, Utsunomiya A, Jacobson S, Yamano Y. HTLV-1 Tax induces Th1 master regulator T-bet and thus IFN- γ in CD4+CCR4+ T-cells of virus-associated myelopathy patients. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies (FWI).[Carayou Hotel]
 33. Coler-Reilly A, Yagishita N, Sato T, Araya N, Ishikawa M, Koike M, Saito Y, Suzuki H, Yamano Y, Takata A. HAM-net national patient registration system reveals details of how Japanese patients with HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis progress over time. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies (FWI).[Carayou Hotel]
 34. Kimura M, Yamauchi J, Taisho H, Sato T, Yagishita N, Araya N, Sato K, Kikuchi T, Hasegawa Y, Chikaraishi T, Shibagaki Y, Yamano Y. Characteristics of HAM/TSP after kidney transplantation from HTLV-1 positive living donors. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies (FWI).[Carayou Hotel]
 35. Sato K, Kikuchi T, Kimura M, Komita M, Shimada K, Seki K, Tachibana M, Yagishita N, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Ishikawa M, Koike M, Saito Y, Suzuki H, Takata A, Yamano Y. Patient Satisfaction Survey for HAM-net Registrants. 17th International Conference on

- Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]**
36. **Kikuchi T, Sawabe A, Negishi Y, Noda A, Hirai Y, Inoue E, Kimura M, Sato K, Araya N, Yagishita N, Sato T, Yamano Y. Evaluation of clinical outcome measures for HAM/TSP. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies (FWI)**
 37. **Yamano Y. How does HTLV-1 cause CNS disease? - The importance of cross-talk between infected T-cells and astrocytes. The Inaugural Asia-Pacific School of Neuroimmunology Meeting [APSNI](第一回アジア太平洋神経免疫学国際シンポジウム), 30 August 2015, Tokyo, Japan . [Sanjo Conference Hall at The University of Tokyo]**
 38. **Tobinai K: Novel treatment of HTLV-1-associated ATL. In Session “Improve standardized treatment level, broaden international perspective”, Invited lecture at the 2014 Annual Meeting of Chinese Society of Clinical Oncology & 17th Chinese National Clinical Oncology Conference, Xiamen, China.**
 39. **Maruyama D, Ueno T, Tokunaga T, Nagai H, Usami T, Ueda R, Tobinai K: Early oral care potentially ameliorates mucositis by pralatrexate: preliminary results in the Japanese phase I/II study for relapsed/refractory PTCL. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A., Jan 29-31, 2015**
 40. **Tobinai K, Kim W-S, Sonehara Y, Nagahama F: Phase II study of darinaparsin in Asian patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A., Jan 29-31, 2015**
 41. **Tobinai K, Ogura M, Ishida T, Akinaga S, Baba Y, Ueda R: Ancillary analyses of a phase II study of mogamulizumab (KW-0761) in patients with CCR4-positive, relapsed peripheral or cutaneous T-cell lymphomas. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A., Jan 29-31, 2015**
 42. **Kamiyama Y, Maruyama D, Maeshima AM, Kitahara H, Yamazaki N, Makita S, Fukuhara S, Munakata W, Suzuki T, Kobayashi Y, Tobinai K: Clinicopathologic features of primary cutaneous anaplastic large cell lymphoma (C-ALCL) with extracutaneous progression: long-term follow-up results. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A., Jan 29-31, 2015**
 43. **Kitahara H, Maruyama D, Maeshima AM, Makita S, Miyamoto K, Fukuhara S, Munakata W, Suzuki T, Kobayashi Y, Tajima K, Terauchi T, Kurihara H, Taniguchi H, Tobinai K: A retrospective analysis of 88 patients with peripheral T-cell lymphoma (PTCL) who underwent CHOP/CHOP-like chemotherapy. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A. Jan 29-31, 2015**
 44. **Tobinai K: Clinical research on T-cell lymphoma in Japan. Keynote address, T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A. Jan 29-31, 2015**
 45. **Ishitsuka K., Is watch and wait still standard for indolent ATL? 7th annual T-cell lymphoma forum, San Francisco, CA, U.S.A. Jan 29-31, 2015**
 46. **Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Sato-Otsubo A, Totoki Y, Yasunaga J, Sanada M, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Kon A, Yoshida K, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Ishiyama K, Miyawaki S, Ishii R, Nureki O, Nagae G, Aburatani H, Miyano S, Watanabe T, Matsuoka M, Shibata T, Shimoda K, Ogawa S, “Landscape of genetic alterations**

- in adult T-cell leukemia/lymphoma”, 56th of ASH Annual Meeting and Exposition, Moscone Center, San Francisco, U.S.A., Dec. 7, 2014 (Dec. 6- Dec. 9, 2014) (Oral/Poster)
47. Nagata Y, Enami T, Kontani K, Kataoka K, Sakata-Yanagimoto M, Kitanaka A, Sato A, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Shiozawa Y, Yoshizato T, Kon A, Yoshida K, Sanada M, Ishiyama K, Miyawaki S, Ishii R, Nureki O, Miyano S, Shimoda K, Watanabe T, Katada T, Chiba S, Ogawa S, “Novel Biological Effects and Distinct Patterns of Rhoa Mutations in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma and Angioimmunoblastic T Cell Lymphoma” 56th of ASH Annual Meeting and Exposition, Moscone Center, San Francisco, U.S.A., Dec. 7, 2014 (Dec. 6- Dec. 9, 2014) (Oral/Poster)
48. Iwanaga M, Soda M , ”Time Trend and Age-Period-Cohort Effects on the Incidence of Patients with Adult T-Cell Leukemia in a Population-Based Study in Japan, 1991-2010”, The 56th ASH Annual Meeting and Exposition (December 6-9, 2014) in San Francisco, U.S.A., Poster II. Dec. 7, 2014
49. Ichii M, Fujita N, Maeda T, Okuzaki D, Sekine Y, Kon S, Muromoro R, Oritani K, Matsuda T, Kanakura Y. The role of Signal-Transducing Adaptor Protein-2 in early T lymphopoiesis in thymus. The American Society of Hematology 56th Annual Meeting (2014.12.6-9, Moscone Center, San Francisco, CA, USA, Burns LJ)(発表日12.9)(Oral)
50. Okayama A, Iwanaga M, Sagara Y, Hidaka T, Umekita K, Nakano K, Watanabe T, Yamano Y, Horai Y, Nakamura H, Kawakami A, “Human T-Lymphotropic Virus Type 1 Biomarkers in Patients with Rheumatoid Arthritis”, ACR/ARHP Annual Meeting, Boston, U.S.A., Nov 18th, 2014 (Poster)
51. Okayama A. HTLV-1 infection and associated diseases. Seminar in Department of Immunology and Infectious Diseases, HSPH. Boston U.S.A., 2014.
52. Ishigaki T, Uchimaru K et al, “Comprehensive Analysis of Surface Antigens on Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma (ATL) Cells and Search for ATL-Initiating Cell Markers”, The 56th ASH Annual Meeting and Exposition. San Francisco, CA, 2014.
53. Tsukasaki K : Development of Anti-CCR4 Antibody for ATL and its Activity for Treg Inhibition. Session, 32nd World Congress of Internal Medicine, 2014. Seoul Oct.24-28, 2014.
54. Iwatsuki K. Current Japanese guidelines of therapy for cutaneous lymphomas. 3rd Eastern Asia Dermatology Congress, Jeju, Korea, Sep 24-26, 2014
55. M. Moriuchi, H. Moriuchi, “Follow-up Study on Children Born to Human T-cell Leukemia Virus Type I Carrier Mothers in Nagasaki, Japan”, the 54th Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy, Washington DC, USA, Sep. 5-9, 2014
56. Fujita J, Ezoe S, Nagate Y, Nishikawa H, Sakaguchi S, Oritani K, Kanakura Y. Population of leukemic cells in patients with adult Tcell leukemia (ATL). The 5th JSH International Symposium 2014 (2014.5.24-25 , ACT CITY Hamamatsu Congress Center , Japan, Ohnishi I)(発表日 5.24)(Poster)
57. Ishihara M, Araya N, Sato T, Fujii R, Tatsuguchi A, Saichi N, Nakagawa H, Yamano Y, Ueda K. Quantitative membrane proteome profiling to discover therapeutic targets for adult T-cell leukemia (ATL). AACR Annual Meeting 2014, 5-9 April, 2014, San Diego, USA.
- (国内学会)
1. 山野嘉久.HAMのCCR4モノクローナル抗体療法, 第34回日本神経治療学会総会, 2016年11月3日~5日, 鳥取(米子市)(米子市文化ホール)(招待講演)
2. 金倉 讓.「造血幹細胞の特性とその

- 疾患に関する研究」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、**2016年10月15日(2016年10月13日～15日)**(口演)(JSH学会賞受賞講演)
3. 越智陽太郎、片岡圭亮、永田安伸、北中明、安永純一朗、岩永正子、白石友一、眞田昌、吉里哲一、吉田健一、野坂生郷、菱澤方勝、糸永英弘、今泉芳孝、棟方理、幣光太郎、久富木庸子、日高智徳、亀田拓郎、中牧剛、石山謙、宮脇修一、飛内賢正、宮崎泰司、高折(近藤)晃史、柴田龍弘、宮野悟、松岡雅雄、下田和哉、渡邊俊樹、小川誠司、「**Prognostic relevance of integrated molecular profiling in adult T-cell leukemia/lymphoma**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、**2016年10月13日(2016年10月13日～15日)**(口演)
 4. 綿谷陽作、佐藤康晴、西田賢司、三好寛明、永田安伸、北中明、幣光太郎、白石友一、千葉健一、田中洋子、吉里哲一、吉田健一、眞田昌、宮崎泰司、高折(近藤)晃史、柴田龍弘、宮野悟、松岡雅雄、渡邊俊樹、下田和哉、大島孝一、吉野正、小川誠司、片岡圭亮、「**Comparative mutational profiling of ATL and other PTCLs**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、**2016年10月13日(2016年10月13日～15日)**(口演)
 5. 山岸誠、藤川大、大杉剛生、本間大輔、安達宣明、堀真琴、中川翔太、中野和民、小林誠一郎、田中勇悦、岩永正子、宇都宮與、塚崎邦弘、荒木一司、内丸薫、渡邊俊樹、「**Epigenetic landscape in adult T cell leukemia-lymphoma (ATL); proof of concept for targeting EZH1/2**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、**2016年10月13日(2016年10月13日～15日)**(口演)
 6. 中島誠、矢持忠徳、渡邊真理子、宇都宮與、東原正明、内丸薫、渡邊俊樹、堀江良一、「**The emergence of hyperploid cells in CD30+ subpopulation of adult T-cell leukemia**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、**2016年10月13日(2016年10月13日～15日)**(ポスター)
 7. 中野和民、千原庸平、小林誠一郎、内丸薫、渡邊俊樹、「**Quantitative and qualitative disorders of the Wnt5a pathway in ATL cells**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、**2016年10月13日(2016年10月13日～15日)**(ポスター)
 8. 今泉芳孝、岩永正子、野坂生郷、伊藤薫樹、石塚賢治、宇都宮與、戸倉新樹、友寄毅昭、下田和哉、飛内賢正、渡邊俊樹、内丸薫、塚崎邦弘、「**Nationwide survey of ATL in Japan on the prognosis and therapeutic interventions**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、**2016年10月13日(2016年10月13日～15日)**(口演)
 9. 片岡圭亮、永田安伸、北中明、白石友一、島村徹平、安永純一朗、十時泰、渡邊俊樹、柴田龍弘、松岡雅雄、宮野悟、下田和哉、小川誠司、「**網羅的遺伝子解析による成人T細胞白血病リンパ腫の病態解明**」第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、**2016年10月8日(2016年10月6日～8日)**(日本癌学会奨励賞受賞講演)
 10. 中野和民、田部亜季、中木戸誠、千原庸平、小林誠一郎、田中勇悦、宇都宮與、津本浩一、内丸薫、渡邊俊樹、「**FoxM1とc-Myb間の相乗的活性化ループがATL細胞の悪性化形質を規定する**」第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、**2016年10月7日(2016年10月6日～8日)**(口演)
 11. **Sawada L**、永野佳子、長谷川温彦、金井光、佐藤知雄、山野嘉久、田中勇悦、神奈木真理。「**IL-10は survivin と IRF4 の誘導を介して HTLV-1 感染細胞の増殖を促進する**」第75回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、**2016年10月7日(2016年10月6日～8日)**(口演)
 12. 渡邊俊樹、山岸誠、中野和民、内丸薫、「**ATL細胞におけるシグナル伝達系の異常な活性化の機構と意義**」第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、**2016年10月6日(2016年10月6日～8日)**(シンポジウム招待講演)
 13. 越智陽太郎、片岡圭亮、永田安伸、北中明、安永純一朗、岩永正子、白石友一、千葉健一、佐藤亜以子、眞田昌、田中洋子、鈴木啓道、佐藤悠佑、塩澤裕介、吉里哲一、吉田健一、野坂生郷、菱澤方勝、今泉芳孝、日高智徳、中牧剛、宮脇修一、飛内賢正、宮崎泰司、高折(近藤)晃

- 史、柴田龍弘、宮野悟、下田和哉、松岡雅雄、渡邊俊樹、小川誠司、「成人T細胞性白血病/リンパ腫における全遺伝子プロファイリングと予後の相関」、第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月6日(2016年10月6日～8日)(口演)
14. 山岸誠、藤川 大、大杉剛生、堀 真琴、中野和民、小林誠一郎、岩永正子、宇都宮 與、内丸 薫、渡邊俊樹、「エピジェネティクスを基盤とした成人T細胞白血病の新たな治療戦略」、第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月6日(2016年10月6日～8日)(口演)
 15. 山野嘉久、希少難病HAMの分子病理解明による治療薬開発の新展開。第1回臨床薬理学会関東・甲信越地方会、2016年9月3日、神奈川県(横浜市)〔横浜市社会福祉センター〕(招待講演)
 16. 津川浩一郎、山野嘉久、中島貴子、上野隆彦、牛谷真由美、桑原理恵、藤原佐百合、小林理々子、聖マリアンナ医科大学臨床研究データセンターの現状、第1回日本臨床薬理学会関東・甲信越地方会、2016年9月3日、神奈川(横浜)〔横浜市社会福祉センター〕
 17. 高 起良、片山貴子、岩永正子、相良康子、日野雅之、内丸 薫、浜口功、宇都宮 與、渡邊俊樹、「関西地区でのHTLV-1感染者コホート(JSPFAD)におけるHTLV-1水平感染キャリアの解析」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月28日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 18. 中野和民、宇都宮 與、山口一成、内丸 薫、渡邊俊樹、「Proto-oncogene MYB発現異常によるc-Myb経路攪乱がATL細胞悪性化形質を規定する」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月28日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 19. 中武彩子、阪本訓代、須藤幸夫、西片一朗、中畑新吾、武本重毅、岩永正子、相良康子、天野正宏、前田宏一、末岡栄三朗、岡山昭彦、宇都宮 與、下田和哉、渡邊俊樹、森下和広、「AlphaLISA法を用いた血中可溶性CADM1測定系の開発とATLの診断応用への検討」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月28日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 20. 中島 誠、矢持忠徳、渡邊真理子、内丸 薫、宇都宮 與、東原正明、渡邊俊樹、堀江良一、「成人T細胞白血病におけるCD30陽性細胞集団に高倍数体細胞は出現する」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 21. 山岸 誠、澤 礼乃、藤川 大、堀真琴、中野和民、宇都宮 與、渡邊俊樹、内丸薫、「成人T細胞白血病(ATL)の遺伝子翻訳異常とその意義」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日～8月28日)(Young Investigator Award Presentation)
 22. 渡邊俊樹、「ATL研究の現状－発症予防と個別化治療へ向けた展開」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日～8月28日)(特別講演)
 23. 越智陽太郎、片岡圭亮、永田安伸、北中 明、安永純一郎、岩永正子、野坂生郷、糸永英弘、今泉芳孝、幣光太郎、宮崎泰司、高折晃史、下田和哉、松岡雅雄、渡邊俊樹、小川誠司、「ATLにおける網羅的遺伝子プロファイルが予後に与える影響」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 24. 綿谷陽作、佐藤康晴、西田賢司、三好寛明、永田安伸、北中 明、白石友一、高折晃史、宮野悟、松岡雅雄、渡邊俊樹、下田和哉、大島孝一、吉野正、小川誠司、片岡圭亮、「ATLおよびT細胞リンパ腫における遺伝子変異プロファイルの解析」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 25. Sanaz Firouzi, Amir Farmanbar, Sreewattanawoot Sarun(Ball), Seiichiro Kobayashi, Kazumi Nakano, Makoto Yamagishi, Kenta Nakai, Kenta Nakai, Toshiki Watanabe, Yutaka Suzuki, Kaoru Uchimaruru “Comprehensive mutation profiling of HTLV-1 infected cells based on phenotypic

- analysis of ATL progression”、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日~8月28日)(口演)
26. 山野嘉久、HAMの分子病態解明による治療薬開発の新展開、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016年8月26日~28日、鹿児島(鹿児島市)(鹿児島県市町村自治会館)(招待講演)
27. 新谷奈津美、佐藤知雄、八木下尚子、高橋克典、内丸 薫、山野嘉久、HTLV-1関連脊髄症(HAM)におけるHAS-Flow法を用いたATL発症高危険度患者の予測、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016年8月26日~28日、鹿児島(鹿児島市)(鹿児島県市町村自治会館)(オーラル)
28. 井上永介、Ariella Coler-Reilly、新谷奈津美、八木下尚子、佐藤知雄、高田礼子、山野嘉久、HAM発症から診断までの期間における納の運動障害重症度の経時推移の解析、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016年8月26日~28日、鹿児島(鹿児島市)(鹿児島県市町村自治会館)(オーラル)
29. 佐藤知雄、Ariella Coler-Reilly、新谷奈津美、八木下尚子、中村龍文、永井将弘、新野正明、竹ノ内徳博、中川正法、松崎敏男、山野嘉久、HAM患者に対する経口ステロイド維持療法の長期的効果、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016年8月26日~28日、鹿児島(鹿児島市)(鹿児島県市町村自治会館)(オーラル)
30. 玉木慶子、佐藤知雄、津川 潤、山野嘉久、坪井義夫、HAM患者における治療効果を予測するバイオマーカーの検討、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016年8月26日~28日、鹿児島(鹿児島市)(鹿児島県市町村自治会館)(ポスター)
31. 鈴木貴久、梅北邦彦、福井翔一、岩本直樹、中村英樹、岡田覚丈、藤川敬太、荒牧俊幸、塚田敏昭、坪井雅彦、松岡直樹、中島宗敏、植木幸孝、江口勝美、日高利彦、岡山昭彦、川上純、抗HTLV-1抗体の有無が関節リウマチに対する抗TNF療法への反応性に与える影響についての検討：多施設共同研究、第60回日本リウマチ学会総会・学術集会、関節リウマチの治療：感染症、W55-1、2016。(4月21-23日(22日発表)、神奈川県横浜市、パシフィコ横浜)
32. 岡山昭彦、梅北邦彦、川上純、HTLV-1陽性関節リウマチ患者診察の留意点、第60回日本リウマチ学会総会・学術集会、臨床に役立つ感染症とリウマチ性疾患の関連、S9-2、2016。(4月21-23日(22日発表)、神奈川県横浜市、パシフィコ横浜)
33. 鈴木貴久、梅北邦彦、福井翔一、岩本直樹、中村秀樹、岡田覚丈、藤川敬太、荒巻俊幸、塚田敏昭、坪井雅彦、松岡直樹、中島宗敏、植木幸孝、日高利彦、岡山昭彦、川上純、抗HTLV-1抗体の有無が関節リウマチに対する抗TNF両方への反応性に与える影響についての検討、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016。(8月26-28日(28日発表)、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県市町村自治会館)
34. 梅北邦彦、宮内俊一、野村創、梅木一美、橋倉悠輝、久保和義、松田基弘、河野彩子、岩尾浩昭、小村真央、高城一郎、長友安弘、岡山昭彦、HTLV-1感染細胞による関節リウマチ滑膜細胞の活性化機構、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016。(8月26-28日(28日発表)、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県市町村自治会館)
35. 橋倉悠輝、梅木一美、山田明輝、山本成郎、梅北邦彦、長谷川寛雄、柳原克紀、岡山昭彦、HTLV-1欠損プロウイルスの細胞間感染、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016。(8月26-28日(28日発表)、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県市町村自治会館)
36. 中武彩子、阪本訓代、須藤幸夫、西片一朗、中畑新吾、武本重毅、岩永正子、相良康子、天野正宏、前田宏一、末岡栄三朗、岡山昭彦、宇都宮與、下田和哉、渡邊俊樹、森下和広、AlphaLISA法を用いた血中可溶性CADM1測定系の開発とATLの診断応用への検討、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016。(8月26-28日(28日発表)、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県市町村自治会館)
37. 梅木一美、橋倉悠輝、山田明輝、山本成郎、梅北邦彦、浜口 功、岡山昭彦、HTLV-1抗体ウエスタンブロット判定保留検体における核酸検査の有効性、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016。(8月26-28日(28日発表)、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県市町村自治会館)
38. 桐原志保美、板垣亮里、岩永正子、新野大介：長崎大学病院における悪性リンパ腫の病理学的検討2006-2015:ATLの割合トレンド：第3回日本HTLV-1学会学術集会：プログ

- ラム・抄録集p.83：演題番号P-23, 2016年8月27日~28日, 鹿児島県市町村自治会館
39. 板垣亮里, 桐原志保美, 岸川孝之, 岩永正子, 新野大介: 上五島病院における悪性リンパ腫の病理学的検討 2006-2015:ATLの割合のトレンド: 第3回日本HTLV-1学会学術集会: プログラム・抄録集p.83:演題番号P-24, 2016年8月27日~28日, 鹿児島県市町村自治会館
40. **Yasuko Sagara, Masako Iwanaga, Yasuhiro Sagara, Yukiko Inoue, Maiko Morita, Nobuyo Goto, Toshiki Watanabe, Hiroyuki Kiyokawa**, "Prediction of MHC class II epitopes in HTLV-1 proteins: In silico screening of vaccine candidates", 第63回日本ウイルス学会学術集会, 福岡国際会議場, 福岡, 2015年11月23日(2015年11月22日~24日) (ポスター)
41. 山岸 誠、片野晴隆、比島恒和、太田泰徳、岡田誠治、渡邊俊樹、**「Epigenetically programmed defenseless signaling in malignant lymphoma」**, 第77回日本血液学会学術集会、ホテル日航金沢、金沢、2015年10月18日(2015年10月16日~18日) (口演)
42. 中野和民、千原庸平、小林誠一郎、石垣知寛、西田亜季、内丸 薫、渡邊俊樹、**「Is Wnt5a the final trigger for progression from indolent- to aggressive-type ATL cells?」**, 第77回日本血液学会学術集会、ホテル日航金沢、金沢、2015年10月17日(2015年10月16日~18日) (口演)
43. 中島 誠、矢持忠徳、東原正明、渡邊俊樹、堀江良一、**「CD30 characterizes abnormal lymphocytes with polylobated nuclei in HTLV-1 carriers」**, 第77回日本血液学会学術集会、ANAクラウンプラザホテル金沢他、金沢、2015年10月17日(2015年10月16日~18日) (ポスター)
44. 山岸 誠、片野晴隆、比島恒和、太田泰徳、岡田誠治、渡邊俊樹、**「B細胞悪性リンパ腫におけるゲノム及びエピゲノム異常に起因するシグナル伝達経路の恒常的活性化」**, 第74回日本癌学会学術集会、名古屋国際会議場、名古屋、2015年10月9日(2015年10月8日~10日) (口演)
45. 福世(南波)宏枝、福世 真樹、松坂恵介、船田さやか、深山正久、渡邊俊樹、金田篤志、**「EBウイルス感染によるDNA異常メチル化時のヒドロキシメチル化変化」**, 第74回日本癌学会学術集会、名古屋国際会議場、名古屋、2015年10月9日(2015年10月8日~10日) (口演)
46. 中野和民、西田亜季、千原庸平、小林誠一郎、石垣知寛、田中勇悦、宇都宮與、内丸 薫、渡邊俊樹、**「造腫瘍および細胞増殖の立役者FoxM1:ATLの新たな治療標的として」**, 第74回日本癌学会学術集会、名古屋国際会議場、名古屋、2015年10月8日(2015年10月8日~10日) (口演)
47. 野坂生郷、岩永正子、石澤賢一、石田陽治、内丸薫、石塚賢治、石田高司、今泉芳孝、伊藤薫樹、宇都宮與、戸倉新樹、飛内賢正、渡邊俊樹、塚崎邦弘、**「第11次ATL全国実態調査報告」**, 第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月23日(2015年8月21日~8月23日) (口演)
48. 中島誠、矢持忠徳、渡邊真理子、内丸 薫、宇都宮 與、東原正明、渡邊俊樹、堀江良一、**「HTLV-1キャリアにおける多分葉核を伴う異常リンパ球と病型の進展はCD30により特徴付けられる」**, 第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月23日(2015年8月21日~8月23日) (口演)
49. 澤 礼乃、山岸 誠、酒井直規、藤川 大、中野和民、宇都宮與、内丸薫、渡邊俊樹、**「成人T細胞白血病におけるTAK1 - p38経路の活性化とその意義」**, 第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22-23日(2015年8月21日~8月23日) (ポスター)
50. 堀 真琴、山岸 誠、藤川 大、中川翔太、中野和民、田中勇悦、小林誠一郎、宇都宮 與、内丸 薫、渡邊俊樹、**「ATL細胞特異的なエピゲノム異常を制御するEZH2の質的、量的変化」**, 第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22-23日(2015年8月21日~8月23日) (ポスター)
51. 野田奈津美、若林 翼、矢持忠徳、矢持淑子、佐々木陽介、**Sanaz Firouzi**、瀧本雅文、渡邊俊樹、**「成人T細胞性白血病におけるTumor Initiating Cellの微小環境探索の試み」**, 第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年

- 8月22-23日(2015年8月21日~8月23日)(ポスター)
52. 中野和民、西田亜季、千原庸平、小林誠一郎、石垣知寛、田中勇悦、宇都宮 與、内丸 薫、渡邊俊樹、「造腫瘍および細胞増殖の立役者 **FoxM1: ATL**の新たな治療標的として」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
53. 相良康子、守田麻衣子、井上由紀子、倉光球、大隈和、後藤信代、平山秀明、岩永正子、矢持忠徳、渡邊俊樹、浜口 功、迫田岩根、入田和男、清川博之、「九州のHTLV-1水平感染の現状と感染初期の産生抗体による **PVL**抑制効果」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
54. 藤川大、山岸誠、堀 真琴、中野和民、田中勇悦、小林誠一郎、宇都宮 與、内丸 薫、渡邊俊樹、「ATL細胞における **EZH2**依存的なエピゲノム異常とその原因メカニズムの解析」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(Young Investigator Award口演)
55. 片岡圭亮、永田安伸、北中 明、白石友一、島村徹平、安永純一朗、十時泰、宮崎泰司、高折晃史、油谷浩幸、渡邊俊樹、柴田龍弘、松岡雅雄、宮野 悟、下田和哉、小川誠司、「Integrative molecular analysis of viral and host genome in ATL」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
56. 倉光 球、大隈 和、矢持忠徳、山野嘉久、長谷川寛雄、上平 憲、岡山昭彦、久保田龍二、出雲周二、成瀬功、相良康子、佐竹正博、渡邊俊樹、山口一成、浜口 功、「HTLV-1核酸検査の標準化および検出感度の検討：多施設共同研究」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
57. Firouzi Sanaz、矢持忠徳、内丸 薫、渡邊俊樹、「Monitoring clonal composition of HTLV-1 infected cells」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
58. 中野和民、西田亜季、千原庸平、小林誠一郎、石垣知寛、田中勇悦、宇都宮 與、内丸 薫、渡邊俊樹、「造腫瘍および細胞増殖の立役者 **FoxM1: ATL**の新たな治療標的として」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
59. 西田亜季、秋葉宏樹、長門石暁、津本浩平、渡邊俊樹、「薬剤デリバリーの標的特異性創出を目的とした化学修飾可能な内在化単鎖抗体の構築」、第31回日本DDS学会学術集会、京王プラザホテル、東京、2015年7月2日(2015年7月2日~3日)(ポスター)
60. 野村隼人、濱田利久、岩月啓氏、「わが国の成人T細胞白血病/リンパ腫および菌状息肉症/セザリ-症候群の地域別発生頻度について」第1回HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、東京、2015年8月23日(2015年8月21日~23日)
61. 濱田利久、野村隼人、岩月啓氏、「わが国における皮膚病変を有する成人T細胞白血病/リンパ腫の地域別発生頻度」日本皮膚科学会第143回宮崎地方会、宮崎観光ホテル、2015年11月15日(2015年11月14,15日)
62. 梅北邦彦、日高利彦、岡山昭彦。ヒトTリンパ向性ウイルス1型(HTLV-1)感染は関節リウマチの病態を修飾し生物学的製剤の治療抵抗性に関与する。第112回日本内科学会総会・講演会。アレルギー・膠原病① 167. 2015. (4月10日-12日(10日発表), 京都府京都市, みやこめっせ)
63. 宮内俊一、梅北邦彦、岡山昭彦。リウマチ性疾患の診療におけるHTLV-1感染の意義に関する診療実態調査。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会。ポスターセッション PS2-21 リウマチ性疾患の合併症 2 P2-234. 2015. (4月23日-25日(24日発表), 愛知県名古屋市, 名古屋国際会館)
64. 鴨居功樹、岡山昭彦、大野京子。ATL関連眼疾患に関する診療の現状：全国アンケート調査結果。第2回日本HTLV-1学会学術集会。Session 6 HAM・関連疾患 O-30. 2015. (8月21日-23日(23日発表), 東京都港区, 東京大学医科学研究所1号館講堂)
65. 梅北邦彦、宮内俊一、野村創、梅木一美、久保和義、松田基弘、河野彩

- 子, 岩尾浩昭, 小村真央, 楠元規生, 高城一郎, 長友安弘, 日高利彦, 岡山昭彦. **HTLV-1**感染による関節リウマチ病態の修飾機構の検討. 第2回日本HTLV-1学会学術集会. **Session 6 HAM・関連疾患 O-31. 2015. (8月21日-23日(23日発表), 東京都港区, 東京大学医科学研究所講堂)**
66. 福元拓郎, 池辺詠美, 緒方正男, 長谷川寛雄, 岡山昭彦, 田中勇悦, 伊波英克. 当講座で樹立したATL患者末梢血由来細胞株のFACS解析およびHTLV-1プロウイルスの挿入部位の特定とプロウイルスゲノム塩基配列の解読. 第2回日本HTLV-1学会学術集会. ポスター発表 **P-23. 2015. (8月21日-23日(23日発表), 東京都港区, 東京大学医科学研究所1号館講堂)**
67. 相良康子, 井上由紀子, 守田麻衣子, 後藤信代, 矢持忠徳, 渡邊俊樹, 岩永正子, 浜口 功, 迫田岩根, 入田和男, 清川博之. **HTLV-1** キャリアにおける末梢血中のプロウイルス量と保有するHLAとの関連. 日本輸血・細胞治療学会九州支部会第62回総会・第83回例会 (2015年12月22日開催) セッション4: 副作用・感染症 (第2会場) **10:40~11:10**, 沖縄県市町村自治会館, 那覇市
68. 飛内賢正: **HTLV-1**とATL / **Human T-lymphotropic virus type-I and adult T-cell leukemia-lymphoma**. 第112回日本内科学会総会・講演会シンポジウム2: ウイルス感染と腫瘍: **HTLV-1**とATL. / **Human T-lymphotropic virus type-I and adult T-cell leukemia-lymphoma**. シンポジウム2. 京都, 2015.
69. **Tobinai K: Disease-oriented treatment of T/NK-cell lymphoma. Symposium 4: Progress in the diagnosis and treatment for intractable lymphomas.** 日本血液学会, 金沢, 2015.
70. 山口亜由美, 松井礼子, 岡村直香, 瀬尾幸子, 根津雅彦, 伊藤國明, 石井源一郎, 齋藤真一郎, 塚崎邦弘: **Nineteen cases of MTX-LPDs in a single center; Benefit of clinical pharmacist intervention** 単施設におけるmethotrexate関連リンパ増殖性疾患 (**MTX-associated lymphoproliferative disorders**) 20例と薬剤師の役割. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 札幌, **2015,7,18** (ポスター)
71. 岡村直香, 山口亜由美, 松井礼子, 瀬尾幸子, 根津雅彦, 齋藤真一郎, 伊藤國明, 田丸淳一, 石井源一郎, 塚崎邦弘: ステロイド単独療法で寛解した**MTX**中止抵抗性の**MTX**関連リンパ増殖性疾患の1例. 日本リンパ網内系学会会誌 (**1342-9248**)55巻 **Page106**, 岡山 **2015.6** (ポスター)
72. 山野嘉久, 山内淳司, 大勝秀樹, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 長谷川泰弘, 力石辰也, 柴垣有吾. **HTLV-1**陽性ドナーからの生体腎移植による**HAM**の発症率と特徴. [**High incidence of HAM after Kidney transplantation from HTLV-1 positive donors.**], 第56回日本神経学会学術大会, **2015年5月20日~23日**, 新潟 (新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]
73. 佐藤健太郎, 菊池崇之, 木村未祐奈, 込田みどり, 島田 奏, 関来未, 橘茉莉花, 八木下尚子, 佐藤知雄, 新谷奈津美, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 鈴木弘子, 高田礼子, 山野嘉久. 患者レジストリへの介入方法と患者満足度の変化. 第56回日本神経学会学術大会, **2015年5月20日~23日**, 新潟 (新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]
74. 木村未祐奈, 佐藤健太郎, 菊池崇之, 八木下尚子, 新谷奈津美, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 佐藤知雄, 鈴木弘子, 木村美也子, 高田礼子, 山野嘉久. **HAM**患者レジストリ「**HAM**ねっと」を活用した経年的前向き調査. 第56回日本神経学会学術大会, **2015年5月20日~23日**, 新潟 (新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]
75. 沢辺愛加, 根岸由衣, 野田和里, 平井祐士, 井上永介, 新谷奈津美, 八木下尚子, 佐藤知雄, 山野嘉久. 希少難病**HAM**の臨床的有効性評価指標の検討. 第56回日本神経学会学術大会, **2015年5月20日~23日**, 新潟 (新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]
76. 山内淳司, 柴垣有吾, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 山野嘉久, 力石辰也. **HTLV-1**陽性ドナーからの生体腎移植によりレシピエントに発症する**HAM**の特徴. 第60回日本透析医学会学術集会・総会, **2015**

- 年6月26日～28日, 横浜〔パシフィコ横浜〕
77. 山野嘉久. 希少難病を知る - 再発性多発軟骨炎の病態 -. 第20回日本難病看護学会学術集会, 2015年7月25日, 東京(大田区)〔大田区産業プラザ〕
78. 倉光 球, 大隈 和, 矢持忠徳, 山野嘉久, 長谷川寛雄, 上平憲, 岡山昭彦, 久保田龍二, 出雲周二, 成瀬功, 相良康子, 佐竹正博, 渡邊俊樹, 山口一成, 浜口功. HTLV-1核酸検査の標準化および検出感度の検討: 多施設共同研究. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕.
79. 石原誠人, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 藤井理沙, 最知直美, 宇都宮與, 山野嘉久, 植田幸嗣. 末梢血CD4陽性T細胞を用いた膜プロテオーム解析によるHTLV-1関連疾患に対する新規治療標的の探索. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕.
80. 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 大勝秀樹, 長谷川泰弘, 力石辰也, 柴垣有吾, 湯沢賢治, 山野嘉久. HTLV-1陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植によるHAMの特徴. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕.
81. 佐藤知雄, 安藤 仁, 高橋克典, 國友康夫, Ariella Coler-Reilly, 新谷奈津美, 八木下尚子, 山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)における髄液細胞のケモカイン受容体解析. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕.
82. 鈴木弘子, 石川美穂, 小池美佳子, 齊藤祐美, 八木下尚子, 山野嘉久. HAM患者の思いを知る～SEIQoL-DW(個人の生活の質評価法)を用いた関わりを通して～. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕. [ポスター]
83. 八木下尚子, 鈴木弘子, 石川美穂, 小池美佳子, 齊藤祐美, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 高田礼子, 山野嘉久. HAM患者レジストリ「HAMねっと」の経年的患者満足度調査. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕. [ポスター]
84. 冨田まや子, 佐々木光穂, 平田 誠, 樋野村亜希子, 坂手龍一, 西下直希, 山野嘉久, 吉良潤一, 小原有弘, 松山晃文. 難病バンクにおけるHLAタイプング導入による難病研究推進. 第24回日本組織適合性学会, 2015年9月10日～12日, 茨城(水戸市)〔ホテル レイクビュー水戸〕
85. 山野嘉久. 希少難病HAM患者レジストリ「HAMねっと」の臨床研究・治験への応用 ～運営事務局の立場から～. 第15回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2015 inKOBE. 2015年9月12日, 兵庫(神戸市中央区)〔神戸国際会議場〕
86. 山野嘉久. HAMの治療展望. 第27回日本神経免疫学会学術集会, 2015年9月15～16日, 岐阜(岐阜市)〔長良川国際会議場〕
87. 山野嘉久. 臓器移植後に伴うHTLV-1関連疾患発症の実態について. 第9回HTLV-1対策推進協議会, 2015年9月30日, 東京(東京都千代田区)〔厚生労働省〕
88. 山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)に対する抗CCR4抗体療法の開発. 第43回日本臨床免疫学会総会, 2015年10月22日～24日, 兵庫(神戸市中央区)〔神戸国際会議場〕
89. 山野嘉久. HAMに対する日本発の革新的治療となる抗CCR4抗体の実用化研究. 革新的医療技術創出拠点プロジェクト統合戦略会議, 2015年11月10日, 東京(東京都千代田区)〔日本医療研究開発機構〕
90. 山野嘉久, 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 大勝秀樹, 長谷川泰弘, 湯沢賢治. HTLV-1陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植によるHAMの特徴. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)〔都市センターホテル〕
91. 佐藤知雄, 新谷奈津美, 八木下尚子, 山野嘉久. HAMの進行度の特徴と関連バイオマーカーの検討. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)〔都市センターホテル〕
92. 玉木慶子, 津川 潤, 佐藤知雄, 山野嘉久, 坪井義夫. HAMにおける治療

- 効果を予想するバイオマーカーの検討. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)[都市センターホテル]
93. 森内浩幸, **HTLV-1**母子感染症正しい知識とキャリア支援について、平成27年度北海道HTVL-1母子感染予防対策研修会、北濃健保会館、札幌、2015年11月7日
94. 森内浩幸、シンポジウム 母子感染対策の最前線2015 **HTLV-1**母子感染対策：準備不足と混乱の中での船出、第51回日本周産期・新生児医学会学術集会、ヒルトン福岡シーホーク、福岡、2015年7月11日(2015年7月10日～12日)
95. 森内浩幸、シンポジウム 母子感染対策の最前線2015 **HTLV-1**母子感染対策：準備不足と混乱の中での船出、第51回日本周産期・新生児医学会学術集会、ヒルトン福岡シーホーク、福岡、2015年7月11日(2015年7月10日～12日)
96. 齋藤 滋：**HTLV-1**母子感染の現状と課題。第46回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会。2015.11.7, 富山。(招待講演)
97. 堀 真琴、藤川 大、中川翔太、田中勇悦、中野和民、渡邊俊樹、山岸誠、「成人T細胞白血病におけるEZH2依存的エピジェネティック異常の包括的解析」第37回日本分子生物学会年会、パシフィコ横浜、横浜、2014年11月25日(2014年11月25日～27日)(ポスター)
98. Sanaz Firouzi, Tadanori Yamochi, Osvany Lopez, Yutaka Suzuki, Kenta Nakai, Sumio Sugano, **Toshiki Watanabe**, "Monitoring clonal composition of HTLV-1-infected cells based on provirus integration sites", 第37回日本分子生物学会年会、パシフィコ横浜、横浜、2014年11月27日(2014年11月25日～27日)(ポスター)
99. 梅木一美, 橋倉悠輝, 山本成郎, 岡山昭彦. **HTLV-1**抗体確認試験としてのLine Immunoassayの有用性. 第61回日本臨床検査医学会学術集会. 福岡国際会議場, 2014. 11.22～25
100. 相良康子、井上由紀子、守田麻衣子、後藤信代、岩永正子、矢持忠徳、渡邊俊樹、浜口 功、相良康弘、清川博之、「**HTLV-1** PVLと HLA Class I 結合peptideの乖離時間との関連」、第62回日本ウイルス学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年11月11日(2014年11月10日～12日)(一般口演)
101. Nakashima M, Yamochi T, Higashihara M, **Watanabe T**, Horie R, "CD30 expressing cells in HTLV-1 carriers reveal abnormal nuclear morphology resembling flower cells", 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年11月1日(2014年10月31日～11月2日)(一般口演)
102. 野坂生郷、岩永正子、石澤賢一、石田陽治、内丸 薫、石塚賢治、天野正宏、石田高司、今泉芳孝、鷓池直邦、宇都宮 與、大島孝一、河井一浩、田中淳司、戸倉新樹、飛内賢正、渡邊俊樹、塚崎邦弘、「全国医療機関における成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)患者の実態調査：2010年～2011年」、第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年11月1日(2014年10月31日～11月2日)(一般口演)
103. Yamagishi M, Takahashi R, Sakai N, Fujikawa D, Nakagawa S, Yamochi T, Yamochi T, Nakano K, **Uchimaru K**, **Utsunomiya A**, **Watanabe T**, "Tumor-specific gene expression leads to p38 and Hedgehog signaling activation in adult T cell leukemia", 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年11月1日(2014年10月31日～11月2日)(一般口演)
104. Nagata Y, Enami T, Sakata-Yanagimoto M, Kataoka K, Kitanaka A, Sato A, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Shiozawa Y, Yoshizato T, Kon A, Yoshida K, Sanada M, Ishiyama K, Miyawaki S, Ishii R, Nureki O, Miyano S, Shimoda K, **Watanabe T**, Chiba S, Ogawa S, "Distinct patterns of RHOA mutations in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma and peripheral T-Cell lymphomas", 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年11月1日(2014年10月31日～11月2日)(一般口演)
105. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Sato-Otsubo A, Totoki Y, Yasunaga J, Sanada M, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Kon A,

- Yoshida K, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Ishiyama K, Miyawaki S, Ishii R, Nureki O, Nagae G, Aburatani H, Miyano S, Watanabe T, Matsuoka M, Shibata T, Shimoda K, Ogawa S**, “Landscape of genetic alterations in adult T-cell leukemia/lymphoma”, 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年11月1日(2014年10月31日~11月2日)(一般口演)
106. 上田裕二郎, 高橋明子, 浦崎哲也, 山田遥子, 和泉宏昌, 横山雄章, 石井源一郎, 湯浅博美, 根津雅彦, 伊藤國明, 塚崎邦弘: **R-CHOP療法後の二次性MDSに免疫学的血小板減少性紫斑病を併発しステロイド/リツキシマブ療法が奏効した一例**. 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日~11月2日(ポスター)
107. **Takata K, Yamaguchi M, Yoshino T, Ishizuka N, Oguchi M, Kobayashi Y, Isobe Y, Ishizawa K, Kubota N, Itou K, Usui N, Miyazaki K, Utsumi K, Masaki Y, Nosaka K, Fukushima N, Ohmachi K, Shimada K, Morimoto H, Oshimi K, Kinoshita T, Tsukasaki K, Tobinai K**: **Prognostic biomarkers in patients with localized NK/T-cell lymphoma treated with RT-DeVIC**, 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日~11月2日(口演)
108. 石垣知寛, 小林誠一郎, 大野伸広, 大田泰徳, 渡辺信和, 東條有伸, 中内啓光, 内丸 薫. 間質依存性増殖を示す新規急性型ATL細胞株の樹立と **in vivo** 増殖モデルの解析. 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日~11月2日
109. **Jo N, Ohno N, Takeda R, Nakamura S, Hirano M, Takei S, Kawamata T, Yokoyama K, Fukuyama T, Yuji K, Uchimaru K and Tojo A**. **ESHAP regimen as salvage therapy for patients with relapsed or refractory adult T cell leukemia**. 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日~11月2日
110. **Kawamata T, Ohno N, Sato K, Kobayashi M, Jo N, Yuji K, Tanosaki R, Yamano Y, Uchimaru K and Tojo A**. **Differential diagnosis of by flowcytometric analysis of post allo-SCT myelopathy; a case report**. 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日~11月2日
111. 永田安伸, 榎並輝和, 坂田(柳元)麻実子, 片岡圭亮, 北中 明, 佐藤亜以子, 白石友一, 眞田昌, 宮野 悟, 下田和哉, 渡邊俊樹, 千葉 滋, 小川誠司, 「成人T細胞白血病/リンパ腫と他の末梢性T細胞性腫瘍における **RHOA** の特徴的な変異分布と生物学的機能の解析」, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月26日(2014年9月25日~27日)(口演)
112. 渡邊俊樹, 山岸 誠, 「ATL発症の基盤となるゲノム・エピゲノム異常の解析」, シンポジウム: 16 . ATL発がん機構と治療の新展開, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(招待口演)
113. 片岡圭亮, 永田安伸, 北中 明, 佐藤亜以子, 十時 康, 安永純一朗, 油谷浩幸, 宮野 悟, 渡邊俊樹, 松岡雅雄, 柴田龍弘, 下田和哉, 小川誠司, 「成人T細胞白血病/リンパ腫におけるゲノム異常の網羅的解析」, シンポジウム: 16 . ATL発がん機構と治療の新展開, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(シンポジウム口演)
114. 藤川 大, 山岸 誠, 中川翔太, 黒川直也, 副島あい, 石田尚臣, 田中勇悦, 中野和民, 渡邊俊樹, 「ATL細胞における **EZH2** 依存的エピジェネティック異常の包括的解析」, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(ポスター)
115. 矢持忠徳, 守田陽平, 矢持淑子, **Sanaz Firouzi**, 佐々木陽介, 渡辺信和, 内丸 薫, 宇都宮 與, 渡邊俊樹, 「**Putative ATL tumor initiating cells** の解析」, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(ポスター)
116. **Sanaz Firouzi, Tadanori Yamochi, Yosvany López, Yutaka Suzuki, Kenta Nakai, Sumio Sugano, Toshiki Watanabe** , “A new

- high-throughput method to investigate the clonality of HTLV-1-infected cells based on provirus integration sites”, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(ポスター)**
- 117. Ishigaki T, Kobayashi S, Nakano N, Utsunomiya A, Uchimaru K, Tojo A. Hierarchical clustering analysis of surface antigens on ATL cells and search for AT-initiating cell marker.** 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日~27日。
- 118. Yoshida N, Tsuzuki S, Karube K, Takahara T, Katayama M, Nishikori M, Shimoyama M, Tsukasaki K, Oshima K, Seto M: Identification of STX11 as a tumor suppressor gene in peripheral T-cell lymphomas.** 第73回日本癌学会学術総会、横浜、2014年9月25日~27日。(英語口演)
- 119. 古田裕幸、根津雅彦、松井礼子、上田裕二郎、浦崎哲也、岡村直香、横山雄章、和泉宏晶、山田遥子、湯浅博美、伊藤國明、塚崎邦弘、齊藤信一郎: ステロイド先行使用のリツキシマブ輸注反応に対する有用性の検討。** 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(口演)
- 120. 尋田まや子、平田誠、佐々木光穂、樋野村亜希子、前畑みどり、高橋一郎、増井徹、山野嘉久、吉良潤一、米田悦啓、坂手龍一。難病研究資源バンクにおける収集試料の HLA タイピング実施による難病研究の推進。** 第23回日本組織適合性学会大会、2014年9月13日~15日、長崎県(長崎市)。
- 121. 余郷麻希子、大本周作、向井泰司、安部宏、相澤良夫、高橋利幸、山野嘉久、鈴木正彦。慢性C型肝炎に対するインターフェロン療法後に、抗アクアポリン4抗体及び抗HTLV-1抗体陽性の脊髄長大病変を呈した49歳女性例。** 第210回日本神経学会関東・甲信越地方会、2014年9月6日、東京都(千代田区)。
- 122. 佐藤知雄、新谷奈津美、安藤 仁、山内淳司、國友康夫、高橋克典、斎藤祐美、石川美穂、八木下尚子、山野嘉久。HAMにおけるTh1様異常T細胞の発生機構および病態への関与。** 第19回日本神経感染症学会総会学術集会・第26回日本神経免疫学会学術集会合同学術集会、2014年9月4日~6日、石川県(金沢市)。
- 123. 山内淳司、新谷奈津美、安藤 仁、Ariella Coler-Reilly, 國友康夫、高橋克典、八木下尚子、佐藤知雄、宇都宮與、山野嘉久。HAMにおける抗CCR4抗体療法の有用性およびCCR4+CD8+T細胞の異常に関する検討。** 第19回日本神経感染症学会総会学術集会・第26回日本神経免疫学会学術集会合同学術集会、2014年9月4日~6日、石川県(金沢市)。
- 124. 藤川 大、山岸 誠、黒川直也、副島あい、中川翔太、石田尚臣、田中勇悦、中野和民、渡邊俊樹。「ATL細胞におけるEZH2依存的エピジェネティック異常の包括的解析」。** 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月24日(2014年8月22日~8月24日)(口演)
- 125. 佐竹正博、相良康子、岩永正子、浜口 功。献血者のデータから明らかになったHTLV-1水平感染の実態。** 第1回日本HTLV-1学会学術集会8月24日(日)会場：東京大学医科学研究所、2014年8月24日(2014年8月22日~8月24日)(口演)
- 126. 森内浩幸、武田敬子、土居 浩、三浦清徳、増崎英明、柳原克紀、上平憲、「長崎県におけるHTLV-1キャリア母体から生まれた児の追跡調査」。** 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月24日(2014年8月22日~8月24日)(口演)
- 127. Sanaz Firouzi, Tadanori Yamochi, Yosvany López, Yutaka Suzuki, Kenta Nakai, Sumio Sugano, Toshiki Watanabe. “A new high-throughput method to investigate the clonality of HTLV-1-infected cells based on provirus integration sites”, 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日~8月24日)(口演)**
- 128. 中島 誠、矢持忠徳、東原正明、渡邊俊樹、堀江良一、「CD30はHTLV-1キャリアにおける異常リンパ球に発現し、核の形態変化に関与する」。** 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日~8月24日)(口演)
- 129. 中武彩子、小林行治、中畑新吾、西片一郎、岩永正子、相良康子、北中明、天野正宏、前田宏一、末岡栄三**

- 朗、瀬戸山充、岡山昭彦、宇都宮與、下田和哉、渡邊俊樹、森下和広、「血中可溶性CADM1/TSLC1測定によるATL診断法の開発」、第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(口演)
130. 岩永正子, 早田みどり. 長崎県におけるATL罹患率のAge-Period-Cohort解析: 1986~2010年. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(口演)
131. 武本重毅、岩永正子、ポルンクナラティオン、相良康子、鶴澤耕治、守田和樹、渡邊俊樹、「HTLV-1キャリアの可溶性CD30血中濃度と成人T細胞白血病発症リスク: 症例対照研究」、第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(ポスター)
132. 西田亜季、長門石暁、中野和民、山岸誠、矢持忠徳、田中勇悦、津本浩平、渡邊俊樹、「単鎖抗体(scFv)を用いたHTLV-1感染細胞特異的miRNA輸送システムの構築」、第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(ポスター)
133. 梅木一美、橋倉悠輝、山本成郎、岡山昭彦. 高感度PCR法およびLine ImmunoassyによるHTLV-1抗体陽性の確認. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(口演)
134. 橋倉悠輝、梅木一美、山本成郎、長谷川寛雄、柳原克紀、岡山昭彦. MT-2細胞HTLV-1プロウイルスの組み込み部位および内部構造の多様性. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(ポスター)
135. 平野光人、大野伸広、小林誠一郎、石垣知寛、田野崎隆二、鴨居功樹、内丸薫、東條有伸. 急性型ATLとHTLV-1ぶどう膜炎の同時発症の1例. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(口演)
136. 石垣知寛、小林誠一郎、大野伸広、中野伸亮、宇都宮與、山崎聡、渡辺信和、東條有伸、中内啓光、内丸薫. 急性型ATLにおける細胞表面抗原のクラスタリング解析とATL幹細胞マーカーの探索. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月24日(2014年8月22日-8月24日)(口演)
137. 新野大介、谷口広明、今泉芳孝、佐々木大介、長谷川寛雄、三好寛明、郭英、加藤丈晴、柳原克紀、塚崎邦弘、宮崎泰司、大島孝一: 成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)におけるMALT1発現と予後との関係. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(ポスター)
138. 岡村直香、上田裕二郎、根津雅彦、湯浅博美、伊藤國明、石井源一郎、塚崎邦弘: モガムリズマブ2回目の点滴後に多形滲出性紅斑様の薬疹をきたした難治性ATLの一例. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(ポスター)
139. 山野嘉久、木村美也子、八木下尚子、鈴木弘子、石川美穂、小池美佳子、齊藤祐美、新谷奈津美、佐藤知雄、高田礼子. HAM患者登録システム「HAMねっと」を用いた疫学的解析. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年8月22日~24日、東京都(港区). (口演)
140. 佐藤知雄、井上永介、新谷奈津美、高橋克典、國友康夫、Ariella Coler-Reilly、山内淳司、八木下尚子、山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)の臨床的評価指標の有用性に関する検討. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年8月22日~24日、東京都(港区). (口演)
141. 新谷奈津美、佐藤知雄、安藤仁、外丸詩野、Ariella Coler-Reilly、八木下尚子、山内淳司、長谷川温彦、神奈木真理、田中勇悦、宇都宮與、山野嘉久. HTLV-1によるHTLV-1関連脊髄症(HAM)病原性T細胞の発生機構の解析. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年8月22日~24日、東京都(港区). (口演)
142. 八木下尚子、有福厚孝、菊池崇之、木村未祐奈、佐藤健太郎、石川美穂、鈴木弘子、小池美佳子、齊藤祐美、新谷奈津美、佐藤知雄、木村美也子、高田礼子、山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)患者登録システム「HAMねっと」の患者満足度調査. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年

- 8月22日~24日,東京都(港区).
(ポスター)
143. 山内淳司, 新谷奈津美, 安藤 仁, 國友康夫, 高橋克典, **Ariella Coler-Reilly**, 八木下尚子, 佐藤知雄, 宇都宮與, **山野嘉久**. **HAM**における抗**CCR4**抗体療法の有用性および**CCR4+CD8+T**細胞の異常に関する検討. 第1回日本**HTLV-1**学会学術集会, 2014年8月22日~24日, 東京都(港区). (口演)
 144. 遠藤寿子, 中島 孝, 池田哲彦, 大田健太郎, 會田 泉, 米持洋介, **山野嘉久**. **HAM**の歩行不安定症に対する歩行改善プログラムに関する検討. 第1回日本**HTLV-1**学会学術集会, 2014年8月22日~24日, 東京都(港区). (口演)
 145. 寺田裕紀子, 鴨居功樹, 山野ちなみ, **山野嘉久**. **HTLV-1**キャリアに合併した関節リウマチに対する生物学的製剤の使用で**HTLV-1**ぶどう膜炎と**HTLV-1**関連脊髄症が悪化した1例. 第1回日本**HTLV-1**学会学術集会, 2014年8月22日~24日, 東京都(港区). (口演)
 146. 石原誠人, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 藤井理沙, 最知直美, 宇都宮與, **山野嘉久**, 菅野純夫, 植田幸嗣. **CD4**陽性**T**細胞を用いた膜プロテオーム解析による**HTLV-1**関連脊髄症に対する新規治療標的分子の探索. 第1回日本**HTLV-1**学会学術集会, 2014年8月22日~24日, 東京都(港区).
 147. 齋藤 滋: **HTLV-1**母子感染対策協議会の役割と運営. 第50回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2014, 7, 14, 千葉. (招待講演)
 148. 吉田稚明, 都築 忍, 加留部謙之輔, 高原大志, 錦織桃子, 下山正徳, 大島孝一, 塚崎邦弘, 瀬戸加大: **STX11**は**T**細胞性腫瘍特異的ながん抑制遺伝子である. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日. (優秀演題口演)
 149. 山田遥子, 根津雅彦, 岡村直香, 湯浅博美, 伊藤國明, 小嶋基寛, 石井源一郎, 塚崎邦弘: 致死的腫瘍崩壊症候群(**TLS**)を来し**M**蛋白血症を伴う**IgH/c-MAF** 転座陽性の**B**細胞腫瘍の一例. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日. (ポスター)
 150. 永井宏和, 小椋美知則, 塚崎邦弘, 上田龍三へ飛内賢正: 再発・難治性の日本人末梢性**T**細胞リンパ腫(**PTCL**)患者を対象とするフォロデシンの第**I/II**相臨床試験. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日. (ポスター)
 151. 丸山大, 永井宏和, 前田嘉信, 塚崎邦弘, 上田龍三, 飛内賢正: 再発・難治性の日本人末梢性**T**細胞リンパ腫(**PTCL**)患者を対象とした**pralatrexate**の第**I/II**相臨床試験. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日. (ポスター)
 152. 築山尚文, 三浦清徳, 淵 直樹, 長谷川寛雄, 柳原克紀, 森内浩幸, 増崎英明, 「**HTLV-1**キャリア妊婦末梢血中および出生児臍帯血中の**HTLV-1**プロウイルス量および**HTLV-1**抗体に関する検討」, 第31回日本産婦人科感染症研究会学術集会, 神戸国際会議場, 神戸, 2014年6月8日(2014年6月7日~8日)(口演)
 153. **山野嘉久**. **HAM**の炎症慢性化における**astrocyte**を介した炎症悪性ループの重要性. 第55回日本神経学会学術大会, 2014年5月21日~5月24日, 福岡県(福岡市).
 154. 菊池崇之, 有福厚孝, 木村未祐奈, 佐藤健太郎, 本橋隆子, 木村美也子, 網中雅仁, 高田礼子, 八木下尚子, **山野嘉久**. 患者**QOL**の改善に向けた患者レジストリの満足度調査. 第55回日本神経学会学術大会, 2014年5月21日~5月24日, 福岡県(福岡市).
 155. 齋藤 滋: 血液・母乳を介した母子感染(**HTLV-1**母子感染を中心に). 第62回日本輸血・細胞治療学会総会; 2014.5.15~17, 奈良. (招待講演)
- (その他)
1. 齋藤 滋: **HTLV-1**母子感染対策~医療機関と地域が協力して行う母子感染予防~. 高知県**HTLV-1**母子感染対策に関する研修会. 2017.2.7, 高知(招待講演)
 2. 齋藤 滋. 感染症Today「**HTLV-1**母子感染予防に関する最近の話題」. ラジオ**NIKKEI**出演. 2016.12.7
 3. **山野嘉久**. **HAM**患者レジストリ「**HAM**ねっと」による難病医療の向上を目指して, **AMED**連携シンポジウム, 2017年1月6日, 東京(千代田区大手町)(国立研究開発法人日本医療研究開発機構会議室)(招待講演)
 4. 渡邊俊樹, 「**ATL**のクローン性増殖の分子基盤と新規治療法の探索」, 長崎血液疾患エキスパートミーティング, 協和発酵キリン株式会社主催, ベス

- トウエスタンプレミアホテル長崎 6 F「グランド」、長崎県長崎市、**2016年9月30日**(招待講演)
5. 渡邊俊樹、「**HTLV-1/ATL**研究の目指すもの：疾患の基礎研究から発症予防・治療法開発へ」、平成28年度第1回長崎大学大学院セミナー、長崎大学病院新中央棟2階第1会議室、長崎県長崎市、**2016年9月14日**(招待講演)
 6. 渡邊俊樹、「我が国に多い白血病ウイルスと白血病」、平成28年度いわみざわ市民大学、岩見沢市生涯学習センター「いわなび」、北海道岩見沢市、**2016年8月31日**(招待講演)
 7. 渡邊俊樹、「**ATL**細胞におけるエピジェネティクス異常の実態と分子標的治療」、日沼頼夫先生メモリアルシンポジウム- **HTLV-1** 研究の現況と展望-、京都大学芝蘭会館、京都、**2016年3月16日**(招待講演)
 8. 渡邊俊樹、「ヒトレトロウイルス **HTLV-1** 感染と免疫疾患」、第23回自己抗体と自己免疫シンポジウム—感染と自己免疫、丸ビルホール、東京、**2016年2月13日**(招待講演)
 9. 渡邊俊樹、「**ATL** 発症機構の理解の展開と発症予防・治療法開発の現状」、宮崎大学医学部皮膚科学教室・天野正宏教授就任祝賀会特別講演、宮崎観光ホテル、宮崎、**2015年11月14日**(招待講演)
 10. 齋藤 滋：**HTLV-1** 感染予防 Up to date—産婦人科医・小児科医・保健師が協力して行う母子感染予防—、平成27年度 **HTLV-1** 対策医療従事者等研修会、**2015.10.10**、岩手。(招待講演)
 11. 齋藤 滋：講義「**HTLV-1**の現状と助産師の役割」、日本看護協会 研修、**2015.6.25**、神戸。
 12. 渡邊俊樹、「**HTLV-1** の病原性発現機構と **ATL** の発症機構」、第5回病原微生物部門セミナー、山口大学農学部、山口、**2015年1月20日**(招待講演)
 13. 渡邊俊樹、「**ATL** 発症機構の解析に基づく発症予防・新規治療法の探索」、第13回さいたま血液勉強会、大日本住友製薬(株)主催、大日本住友製薬(株)埼玉支店、埼玉、**2014年11月14日**(招待講演)
 14. Watanabe T, “Molecular mechanisms of leukemogenesis of adult T-cell leukemia (ATL) caused by HTLV-1”, 2d IARI Symposium, Lyon, France, Nov. 3 (Nov. 3-4), **2014**
 15. 渡邊俊樹、「**ATL** 発症機構の解析に基づく発症予防法と治療法の開発」、**ATL** 学術集会、協和発酵キリン(株)主催、盛岡グランドホテル、岩手、**2014年10月9日**(招待講演)
 16. 斉藤愛記、持田佳奈子、鶴山恵理、市川裕菜、大友悠太郎、掛谷綾香、深澤麻純、宇野雅哉、徳永文稔、宇都宮 與、渡邊俊樹、山岡昇司、「**HTLV-I** 感染細胞および上皮系腫瘍細胞においてユビキチン化修飾酵素 **A20** は **caspase-8** 抑制因子として機能する」、新学術領域研究「修飾シグナル病」若手ワークショップ、東京、**2014年(2014年9月30日~10月2日)**
 17. 渡邊俊樹、「**ATL** の病態と発症に関わる分子機構解明の現状」、**HTLV-1** セミナー、佐賀県地域医療再生計画事業主催、ホテルニューオータニ佐賀、佐賀、**2014年7月4日**(招待講演)
 18. 渡邊俊樹、「**ATL** 発症に伴う分子異常、そして難病への取り組み」、**ATL** シンポジウム—成人 **T** 細胞白血病 (**ATL**) と原因ウイルス (**HTLV-1**) 「**ATL** 細胞の培養から始まった **HTLV-1** 研究」、高知大学医学部主催、高新文化ホール・高知、**2014年5月24日**(招待講演)
 19. 渡邊俊樹、「**ATL** 発症とプログレッションの分子基盤解明の試み」、**ATL small meeting**、協和発酵キリン(株)主催、ホテルモンレー仙台、宮城、**2014年4月18日**(招待講演)
 20. 岡山昭彦、**HTLV-1** 感染症と慢性炎症性疾患。京都大学ウイルス研究所セミナー。**2014**。京都市
 21. 齋藤 滋：妊婦に対する**HTLV-I**抗体検査の意義と目的 **HTLV-I**母子感染予防対策～保健指導等について～、福井県**HTLV-1**母子感染対策研修会；**2015.1.29**，福井。(招待講演)
 22. 齋藤 滋：富山県における協議会設置の経緯と現状。平成**26**年度**HTLV-1**母子感染予防講習会；**2014.12.14**，東京。
 23. 齋藤 滋：妊婦に対する**HTLV-1**抗体スクリーニング検査の意義と目的。平成**26**年度**HTLV-1**母子感染予防講習会；**2014.12.14**，東京。
 24. 齋藤 滋：**HTLV-I**スクリーニングの現状とその課題。平成**26**年度**HTLV-I**研修会，**2014,11,19**，徳島。

(招待講演)

25. 齋藤 滋：妊婦母子感染対策事業から学ぶこと～新しいHTLV-I母子感染対策～. 石川県医師会 第1回周産期医療研修会, 2014, 7, 8, 石川.
(招待講演)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Satake M, Iwanaga M, Sagara Y, Watanabe T, Okuma K, Hamaguchi I.	Incidence of new HTLV-1 infections among adolescents and adults in Japan: a nationwide retrospective cohort analysis of repeat blood donors.	Lancet Infectious Diseases	16(11)	1246-54	2016
齋藤 滋	HTLV-1キャリア	周産期医学	46	1255-58	2016
Ishida T, Fujiwara H, Nosaka K, Taira N, Abe Y, Imaizumi Y, Moriuchi Y, Jo T, Ishizawa K, Tobinai K, Tsukasaki K, Ito S, Yoshimitsu M, Otsuka M, Ogura M, Midorikawa S, Ruiz W, Ohtsu T.	Multicenter phase II study of lenalidomide in relapsed or recurrent adult T-cell leukemia-lymphoma: ATLL-002.	J Clin Oncol	34	4086-93	2016
Watanabe T	Adult T-cell leukemia (ATL): Molecular basis for clonal expansion and transformation of HTLV-1-infected T cells	Blood		Epub ahead of print	2017
Gallo RC, Willems L, Hasegawa H; Global Virus Network's Task Force on HTLV- Taylor GP, Watanabe T (29人中28番目), Yamano Y	Screening transplant donors for HTLV-1 and -2	Blood	128(26)	3029-3031	2016

Willems L, Hasegawa H, Accolla R, Bangham C, Bazarbachi A, Taylor, GP, Watanabe T(31 人中30番目), Yamano Y	Reducing the global burden of HTLV-1 infection: an agenda for research and action	Antiviral Rres	3542(16)	30625- 30628	2016
Kobayashi S, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Nakano K, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K.	Advanced HTLV-1 carriers and early-stage indolent ATLs are indistinguishable based on CADM1 positivity in flow cytometry.	Cancer Sci	106(5)	598-603	2015
Katsuya H, Ishitsuka K, Utsunomiya A, Hanada S, Eto T, Moriuchi Y, Saburi Y, Miyahara M, Sueoka E, Uike N, Yoshida S, Yamashita K, Tsukasaki K, Suzushima H, Ohno Y, Matsuoka H, Jo T, Amano M, Hino R, Shimokawa M, Kawai K, Suzumiya J, Tamura K	Treatment and survival among 1594 patients with ATL diagnosed in the 2000s: a report from the ATL-PI project performed in Japan.	Blood	126	2570-2577	2015

Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Shimamura T, Yasunaga JI, Totoki Y, Chiba K, Sato- Otsubo A, Nagae G, Ishii R, Muto S, Kotani S, Watatani Y, Takeda J, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Iwanaga M, Ma G, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Ogasawara H, Sato T, Sasai K, Muramoto K, Penova M, Kawaguchi T, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Yoon SS, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Matsuda F, Takeuchi K, Nureki O, Aburatani H, Watanabe T, Shibata T, Matsuoka M, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S.	Integrated molecular analysis of adult T-cell leukemia/ lymphoma.	Nat Genet	47	1304-1315	2015
---	---	-----------	----	-----------	------

Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Yagishita N, Ando H, Kunitomo Y, Takahashi K, Tanaka Y, Shibagaki Y, Nishioka K, Nakajima T, Hasegawa Y, Utsunomiya A, Kimura K, <u>Yamano Y.</u>	Mogamulizumab, an Anti-CCR4 antibody, targets human T-lymphotropic virus type I-infected CD8+ as well as CD4+ T cells to treat associated myelopathy.	J Infect Dis	211	238-248	2015
<u>内丸 薫</u>	HTLV-1キャリア外来の現状と課題	日本周産期・新生児医学会雑誌	51(1)	70-72	2015
<u>石塚賢治,</u> <u>山野嘉久,</u> <u>宇都宮 與,</u> <u>内丸 薫.</u>	HTLV-1キャリア外来の実態調査	臨床血液	56(6)	666-672	2015
<u>齋藤 滋</u>	妊産婦診療におけるHTLV-1キャリア検出のための診断の進め方とキャリア妊婦支援の必要性	日産婦医学会報	67	10-11	2015
Kobayashi S, Nakano K, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Oyaizu N, Asanuma S, Yamagishi M, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, <u>Watanabe T,</u> <u>Uchimaru K.</u>	CADM1 expression and stepwise downregulation of CD7 are closely associated with clonal expansion of HTLV-1-infected cells in adult T-cell leukemia/lymphoma.	Clin Cancer Res	20(11)	2851-2861	2014

Araya N, Sato T, Ando H, Tomaru U, Yoshida M, Coler-Reilly A, Yagishita N, Yamauchi J, Hasegawa A, Kannagi M, Hasegawa Y, Takahashi K, Kunitomo Y, Tanaka Y, Nakajima T, Nishioka K, Utsunomiya A, Jacobson S, Yamano Y.	HLVL-1 induces a Th1-like state in CD4+CCR4+ T cells.	J Clin Invest	124(8):	3431-3442	2014
Firouzi S, López Y, Suzuki Y, Nakai K, Sugano S, Yamochi T, Watanabe T.	Development and validation of a new high-throughput method to investigate the clonality of HTLV-1-infected cells based on provirus integration sites.	Genome Med	6(6)	46	2014
内丸 薫	わが国におけるHTLV-1キャリアとATL患者に対する相談機能と知識の普及	血液内科	68(1)	58-64	2014
森内 浩幸	特集 母乳をめぐる諸問題 母乳とヒトT細胞白血病ウイルスI型 (HTLV-1) 感染	東京小児科医会報	32(3)	14-19	2014
Satake M, Yamada Y, Atogami S, Yamaguchi K	The incidence of adult T-cell leukemia/lymphoma among human T-lymphotropic virus type 1 carriers in Japan.	Leukemia and Lymphoma	56	1-7	2015
柘植 薫	HTLV-1キャリア女性の心理的葛藤と必要なフォロー	助産雑紙	68(1)	27-31	2014